



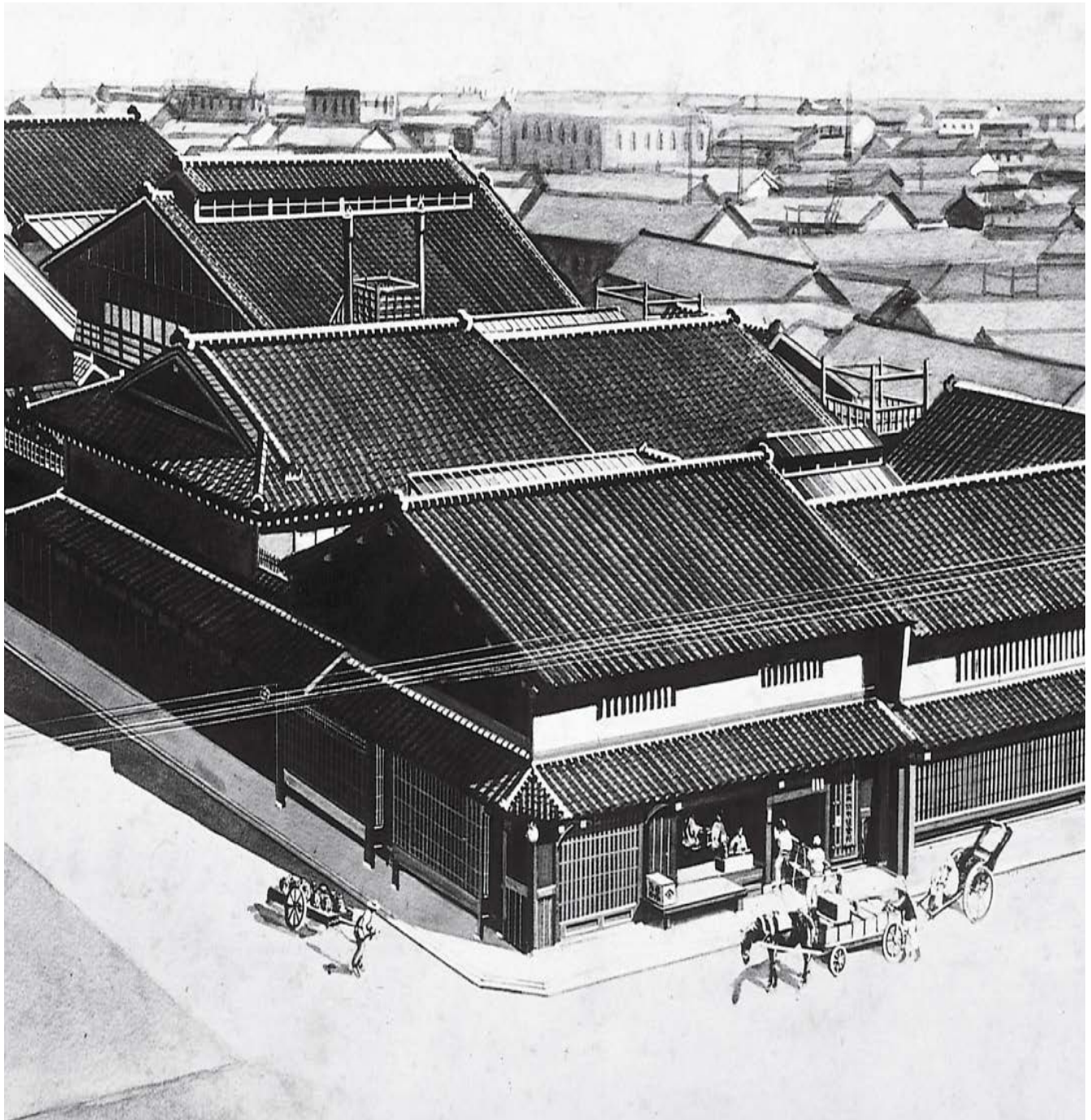
Better Health, Brighter Future



## 2019 SUSTAINABLE VALUE REPORT

武田薬品工業株式会社





1781年、初代近江屋長兵衛は大阪・道修町で和漢薬の商売を始めました。これが、タケダの始まりです。グローバルな研究開発型のバイオ医薬品のリーディングカンパニーとなった今でも、私たちは創業時から変わらないバリュー（価値観）に基づいて事業を行っています。この揺るぎない価値観を、「タケダイズム」と呼んでいます。今年のサステナブルバリューレポートでは、私たちがタケダイズムの精神に則り、社会やステークホルダーのための持続可能な価値創造および世界中の患者さんの生活の質の向上に向けて展開している活動についてご紹介します。



## このレポートについて

「サステナブルバリューレポート2019」では、武田薬品工業株式会社(タケダ)のヘルスケア、人材管理、環境への影響と事業ガバナンスにおける持続可能な価値創造に向けた取り組みを説明します。本レポートの内容は、GRIスタンダード：中核オプションと国連グローバル・コンパクト(GC)に即した構成で示しています。GRIスタンダードと国連GCの各項目とレポート構成の関係については、巻末の対照表をご覧ください。本レポートでは、武田薬品工業株式会社とタケダグループ連結対象会社の活動を報告しています。報告期間は、2018年度(2018年4月1日から2019年3月31日)です。2019年の活動も一部含まれています。2019年1月8日、タケダはShire plc (シャイアー)の買収を完了しました。2019年1月8日から2019年3月31日までの旧Shire社のデータは、特に明記しない限りタケダの業績に含まれています。統合に関連する活動は、本レポートを通して示されています。

- ✓ を付した旧武田薬品の2018年度のデータは、KPMGあずさサステナビリティ(株)が保証しています。2019年1月1日から2019年3月31日までの旧Shire社のデータは、Apex Companies, LLCが保証しています。第三者保証報告書は、105~109ページをご覧ください。

タケダの持続的な価値創造に向けた取り組みについてのご意見やご質問は、こちら [sustainablevalue@takeda.com](mailto:sustainablevalue@takeda.com)までお寄せください。詳細については、ホームページをご覧ください。 [www.takeda.com](http://www.takeda.com)

## Contents

CEOメッセージ	4
アプローチ	6
保健医療	17
職場	42
環境	51
ビジネス	66
Appendix	87





---

## 「誠実」を旨とする 価値観に基づき行動します。

---

クリストフ・ウェバー

代表取締役  
社長 CEO

私たちの価値観（バリュー）は、何事にも誠実に取り組むという私たちの活動指針であり、230年以上にわたり、タケダのあるべき姿、なすべき事を定義してきました。このバリューは、社会におけるタケダの役割を常に自覚させてくれます。すなわち、常に患者さんを中心に考え、世界中のアンメットニーズに対応する新規かつ革新的な治療法を創出するという私たちの活動の原点です。

2019年にグローバル企業であるシャイアーを買収したことにより、私たちの取り組みは一層強化されました。シャイアー買収により、グローバル拠点は拡大し、世界中のより多くの患者さんのいのちに携わることとなりました。日本に本社を置き、バリューに基づくグローバルな研究開発型のバイオ医薬品のリーディングカンパニーとして、機動性を維持しつつ、サイエンスに裏打ちされた高度に革新的な医薬品を創出することにより、引き続き患者さんの生活の質の向上に貢献してまいります。タケダは、希少疾患や難病においても革新的な医薬品を開発するリーディングカンパニーとなりました。これらの疾患領域では、患者さんが十分な医療を受けていないことが多く、深刻な状態に至る可能性があります。タケダは、オンコロジー（がん）、消化器系疾患、希少疾患

およびニューロサイエンス（神経精神疾患）の4つの疾患領域に重点的に取り組むとともに、血漿分画製剤とワクチンにも引き続き注力してまいります。

私たちは、人々の命を救う、あるいは人生を一変させるような医薬品の研究開発を進めることにより、人々の健康に貢献できるよう懸命に取り組んでいます。世界のどの地域に住む人も、私たちの革新的な医薬品を利用できることが重要だと考えています。患者さんがたどる全ての過程（疾患の認識、診断、治療、その後の生活に至るまでの道のり）において、保健医療制度が持続可能な形で構築・強化されるよう取り組んでまいります。患者さんは私たちの医薬品を通じて私たちのことを信頼してくださっています。タケダは、このような高い期待にお応えする、あるいはその期待を超えるよう努力してまいります。

5ページに続く





タケダのグローバルCSRプログラムは、途上国・新興国の保健医療アクセスの改善と保健人材の育成への長期的な支援を優先項目としています。地域の医療従事者を対象とした教育や重篤な疾患をもつ子どもたちを対象としたキャンプなど、様々なプログラムを実施し、世界各地の患者さんの健康と生活の質の改善に向けて取り組んでいます。私たちは、国連の「持続可能な開発目標 (SDGs)」を踏まえた事業活動やCSR活動を展開しており、国連グローバル・コンパクト (UNGC) のメンバーとしても長年活動しています。

持続可能な価値の創出は、タケダの企業としての課題であると同時に、世界約80カ国で働く約5万人の従業員の課題でもあります。グローバルCSRプログラムでは、世界中の従業員からの投票により支援プログラムが決定されました。世界環境デーには、各国の事業所が全米植樹祭財団と共同で4万本の植樹を行うなど様々な環境プログラムに参加しました。また、「従業員参加プログラム」を通じて、実際の支援先を直接訪問し、世界各地の人々の暮らしを変えるインパクトを私たちの仕事が生み出していることを実感しています。

私たちは、全てのオフィス、生産拠点や研究所の従業員が新たなスキルを習得する機会を提供され、キャリアを形成できるインクルーシブな企業であることを目指しています。タケダで働く全ての従業員には、それぞれに求められる貢献があり、その貢献度によって評価されます。タケダは、その人材

開発プラットフォームとプログラムにより、能力が強化され、活気のある職場環境の醸成に繋がっています。

例えば、グローバル・アクセラレーター・プログラムでは、キャリアの早い段階にいる従業員を様々な地域での職務に派遣したり、メンタリングや学習イベントを通じて育成をしています。

世界中のアンメットニーズに対応する革新的な治療法の開発を進めるのと同様に、温室効果ガスの排出量削減にも取り組んでいます。その取り組みの一環として、CO<sub>2</sub>排出量やその他の温室効果ガスの排出量削減について野心的な目標を設定し、その進捗状況を確認するマイルストーンも設定しました。

人々の健康と医療の未来に貢献するため、何事にも誠実に取り組むことが、次世代も見据えた私たちの揺るぎないコミットメントです。「患者さんのために、これまで以上に何ができるか？」タケダでは、すべてがこの問いかけから始まります。このレポートで私たちの取り組みをご覧ください。

---

常に誠実であると同時に、  
革新性と機動性を持つ企業文化  
を、従業員と共に構築します

---

クリストフ・ウェバー  
代表取締役 社長 CEO

2019年12月

## 経営の基本精神

タケダは、日本に本社を置き、常に患者さんを中心に考える、グローバルな研究開発型のバイオ医薬品のリーディングカンパニーです。サイエンスに裏打ちされた高度に革新的な医薬品を創出することにより、人々の健康と医療の未来に貢献します。

### ミッション

優れた医薬品の創出を通じて人々の健康と医療の未来に貢献すること。

### バリュー

タケダイズム(誠実・公正・正直・不屈)は、私たちの過去、現在、将来の活動の全てを支える基盤です。社会におけるタケダの役割は患者さんを第一に考え、医療を推進する新たな方法を追求することであり、タケダイズムは私たちのそうした活動の指標となるものです。



私たちは、4つの重要事項について、その優先順位に従って考え、行動や判断の規準とします。

1

常に患者さんを中心に考えます

2

社会との信頼関係を築きます

3

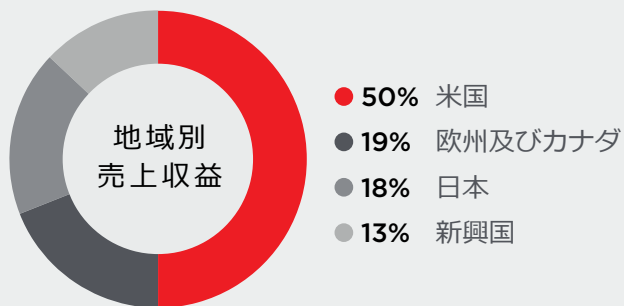
レピュテーションを向上させます

4

1, 2, 3を実現したうえで、事業を発展させます



# Global Scale and Scope



## 主要拠点



約300億ドル  
約3.3兆円

2018年度の実質的な売上収益<sup>1</sup>

約50,000人

従業員

<sup>1</sup>シャイアー社の買収が2018年4月1日に完了したとの前提に基づくPRO-FORMA情報(試算)が含まれています。このPRO-FORMA情報は、米国証券取引委員会の定めるREGULATION S-Xの第11条に基づき算出されたものではないことにご留意ください。このPRO-FORMA情報は、説明の便宜のため提示するものであり、また本レポートの作成日までに当社が入手した情報に基づく一定の前提及び判断に基づくものであって、これらの前提及び判断はシャイアー社の買収が実際に2018年4月1日付で完了していたとしてもすべて当てはまるものではありません。

## 戦略ロードマップ

タケダのビジョンは、私たちのバリュー、ゴール、コミットメントを明確に示しています。私たちは、すべての事業活動において患者さんのニーズを中心に考えます。私たちは、機敏性の高いベスト・イン・クラスの研究開発型企業として、最先端の事業に取り組むパートナーと協働し、イノベーションを推進します。多様な従業員が活躍することを応援します。高い実績の維持に向け努力します。タケダイズムの実践を通じ、社会やステークホルダーから信頼されることを目指します。

タケダの戦略ロードマップは、私たちが目指すゴールに向けた道筋であり、「Value-Based」「Empower our People to Shine」「Dare to Discover」「Business」の4領域で構成されます。この長期目標に対する進捗状況を示すため、KPIキー・パフォーマンス・インジケータを策定し、タケダ・エグゼクティブ・チーム (TET)が各項目の確認と管理を行っています。

## ビジョン

### タケダが実現を目指す未来の姿

タケダは、世界中のあらゆる人々のニーズに貢献しています。タケダイズムを通じ、社会やタケダの医薬品を必要とする方々からの信頼を得ています。

機動性とイノベーション、さらに高い品質に支えられ、強固なパイプラインのもと成長し続けるベスト・イン・クラスの製薬企業として認められています。

# 主要な5領域の 製品とブランド



消化器系疾患

**Entyvio**  
vedolizumab

**Takecab**

**ALOFISEL**  
(darvadstrocel)

**Gattex**  
(telapristate (DMA enantiomer) for injection)

**DEXILANT**  
dexlansoprazole

**Lialda**  
(mesalazine) 1.2g  
delayed release tablets

**amitiza**  
lubiprostone

**motegrity**  
(prucalopride) tablets 1mg, 2mg



希少疾患

希少代謝疾患

**elaprase**  
(idursulfase)

**REPLAGAL**  
epigallocatechin gallate  
CHANGING THE FACE OF FAMILY DISEASES

**VPRIV**

**Natpara**  
(parathyroid hormone)  
for injection

希少血液疾患

**ADVATE**  
(Antihemophilic Factor (Recombinant))

**ADYNOVATE**  
(Antihemophilic Factor  
(Recombinant), PEGylated)

**vonvendi**  
(von Willebrand factor  
(Recombinant))

**Obizur**  
(Antihemophilic Factor  
(Recombinant), Porcine Sequence)

**RIXUBIS**  
(COAGULATION FACTOR IX  
(RECOMBINANT))

**AGRYLIN**  
(anagrelide hydrochloride)  
Capsules of 0.5mg and 1mg

遺伝性血管性浮腫

**TAKHZYRO**  
(lanadelumab subcutaneous injection)

**firazyr**  
(icatibant injection)

**KALBITOR**  
ecalantide



血漿分画製剤

希少免疫疾患

**IMMUNINE**

**FEIBA**

**IMMUNATE**

**HEMOFIL M**

**IMMUSEVEN**

**CINRYZE**  
C1 inhibitor (human)

**GAMMAGARD LIQUID**  
(Immune Globulin  
intravenous (Human)) 10%

**HyQvia**  
Human Normal Immunoglobulin (10%)  
Recombinant Human Hyaluronidase

**Cuvitru**  
(Human Normal Immunoglobulin, 20%)  
for subcutaneous administration

**Flexbumin**  
(Human Albumin)

**HUMANALBUMIN**  
SOLUTION FOR INJECTION

**Glassia**

**Aralast NP**  
(N-Acetylcysteine) for injection

**kenketu glovenin-1**

**KENKETU NONTHRON**

**KENKETU ALBUMIN**



オンコロジー (がん)

**NINLARO**  
(ixazomib) capsules

**ALUNBRIG**  
BRIGATINIB  
TABLETS

**VELCADE**  
(Vincristine Sulfate) for injection

**ADCETRIS**  
brentuximab vedotin for injection

**ICLUSIG**



ニューロサイエンス  
(神経・精神疾患)

**Vyvanse**

**Trintellix**  
vortioxetine

**Mydayis**  
(mixed salts of a single-entity  
amphetamine product)

**AZILECT**

**intuniv**

**BUCCOLAM**



# Social Value

## タケダは、保健医療システムの強化や、患者アクセスの強化など、様々な形で社会へ価値を創出しています。

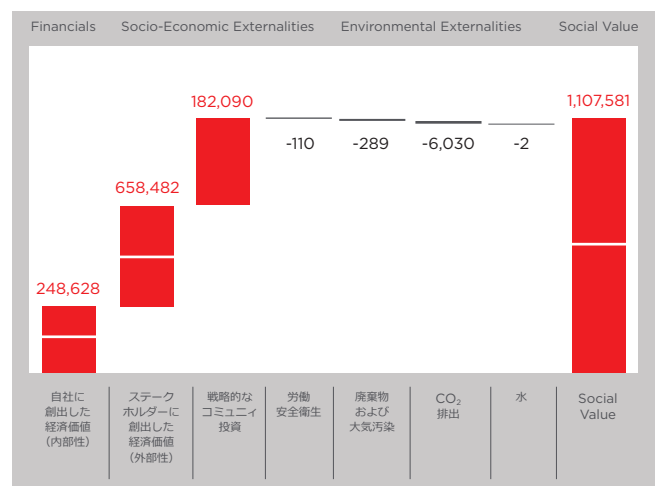
しかしながら、私たちが創出する社会への価値は、タケダの事業による影響で一部相殺されています。私たちのステークホルダーにより包括的な視点を提供するため、タケダの環境、社会、ガバナンス (ESG) に関するパフォーマンスの正味の Impact を定量化する評価を行っています。国際統合報告評議会が提唱する株価純資産倍率 (IIRC-PBR) などの統合報告原則により、企業が創出する社会的・環境的価値は、その企業の市場価値と正の相関関係を示すことが明らかにされています<sup>1</sup>。このアプローチは、タケダの事業価値と社会的利益との関係を、より透明性の高い形で示すことを目的としています。乗数は、学術論文や政府機関の研究で示されている乗数を用いています。

試験的に実施した昨年の分析に対して、評価方法についていくつかの改善を加えたため、年ごとの直接比較は困難となっています<sup>2</sup>。今回の計算は、ステークホルダーに対してタケダが創出する価値をよりよく把握、管理し立証するための第一歩となります。今年度を示した通り、タケダのアプローチは改善に向けた継続的取り組みの一つです。将来的には、この分析が事業の目的や優先課題との関連をよりよく示し、戦略を進める上でどう活用するかについても検討していきます。

### タケダのアプローチ

タケダの環境および社会に対する取り組みがもたらす価値を定量的に評価するため、タケダの財務、コミュニティへの投資、排出量、水使用量、および労働安全衛生に対して社会的価値乗数を乗じました。この測定方法はタケダの事業内容にのみ適用し、より広いバリューチェーンに対する影響は、本年度の評価で行っていません。本調査は、Ernst & Young の助言やインパクト評価ラウンドテーブルなどで得られた企業における実践的な取り組みを参考に作成されました。

### 結果の概要<sup>1</sup> (単位：百万円)



<sup>1</sup> 89ページのSOCIAL VALUE参考文献一覧表をご覧ください。

<sup>1</sup> YANAGI, R (2018). CORPORATE GOVERNANCE AND VALUE CREATION JAPAN

<sup>2</sup> タケダによる直接の事業活動のデータのみを分析対象としています。サプライチェーンのデータは、本年度の計算に含まれていません。財務、環境、および安全性に関するデータには、タケダの2018年度データと、SHIREの2018年度第4四半期のデータを含めています。戦略的な社会投資には、タケダのみのデータを含めており、医薬品アクセスのデータは含みません。

\* SOCIAL VALUE: TRUE VALUEメソッドロジーに基づいて算出しています。

## 分析

Social Value の計算によれば、タケダの全体としての Social Value は、タケダが自社に創出した経済価値の約 4 倍です。Social Value の値は、タケダの 2018 年度の売上収益に比べ小さくなりますが、その理由はサプライチェーンからの価値創出や革新的医薬品や医薬品アクセスプログラムにより患者さんに生じる価値等、我々が創出している主要領域の一部が把握できていないことによります。2018 年度の Social Value の計算は、ステークホルダーに対して創出する価値に関する保守的な見解を示すものであり、今後はタケダの Social Value の全体像を評価、理解し、伝えるための新たな方法の検討を続けていきます。

## メソドロジー

### FINANCIAL

#### 自社に創出した経済価値 (内部性)

- ・売上高より諸費用(従業員に対する給与及び賞与の支払いを含む)及びステークホルダーへの支払金額(法人所得税費用、配当金の支払い及び利息の支払いを含む)を引いた金額
- ・2018年度の企業業績の詳細については、米国証券取引委員会 (SEC)に提出したForm 20-F年次報告書に示しています。

### SOCIOECONOMIC

#### ステークホルダーに創出した経済価値 (外部性)

- ・従業員に支払う給与及び賞与の支払、法人所得税費用、投資家に対する配当金の支払い及び資金提供者に対する利息の支払の直接的寄与
- ・業績向上により、全体としての貢献度の上昇がみられます。
- ・タケダのグローバルCSRプログラムとパートナーシップが社会に及ぼす肯定的な影響(死亡者数の削減、非感染性疾患に対する医療費の節約など)

#### 戦略的な社会投資

- ・戦略的社会投資プログラムについて測定した成果は、Social Return on Investment (SROI)アプローチを用いて求めています。分析に含めたプロジェクトには、World Vision、国連児童基金(UNICEF)、国連財団、セーブ・ザ・チルドレン、プラン・インターナショナル、およびグローバルファンド(タケダ・イニシアティブ)などのパートナーシップがあります。
- ・労働災害による所得創出能力の損失、医療費及び事務管理費の増加

### ENVIRONMENTAL

#### 労働安全衛生

- ・大気汚染データより、大気汚染(PM10, NOx, SO2, VOC)による健康および環境に対するマイナスの影響を算出

#### 廃棄物及び大気汚染

- ・廃棄物のデータは、廃棄物の焼却・埋立による健康への影響と公的な予算負担、およびリサイクルの効果を含みます。

#### CO<sub>2</sub> 排出量

- ・CO<sub>2</sub>排出量のデータは、気候変動によるマイナスの影響(農業の生産性低下、ヒトの健康、洪水リスク上昇による財産の損失など)と関連します
- ・社会および環境への経済的影響は、炭素価格を用いて評価しています。

#### 水

- ・水に関するデータは、各操業地域における水不足レベルと関連する取水の社会的なコストと関連します。

グローバルCSRプログラムとパートナーシップを通じて創出した価値に関する詳細は、本レポートの32~41ページをご覧ください。カーボンフットプリントを最小限に留めるための活動の詳細については、51~65ページをご覧ください。



# タケダの持続的な 価値創造への アプローチ



**私たちは、患者さんを助けるために存在しています。  
製薬業界を変革し、患者さん中心の活動を進め、さらなる社会貢献を行うという  
目標を掲げるタケダのコミットメントの基本にあるのは、この考え方です。**

私たちは、良き企業市民として、また患者さん中心に活動する企業として、責任をもって活動しています。私たちは、環境、従業員、コミュニティその他のステークホルダーに関わる活動を通じて良い影響を生み出し、持続的な社会の実現に貢献できるよう活動しています。全ての人のためになる持続的な価値創造が、私たちの仕事です。最終ゴールは常に同じです。「人々の健康と医療の未来に貢献する」この目標に向けた努力が、社会との信頼関係を作り、レピュテーションの向上につながります。

私たちは連携し、タケダの持続的な価値創造と長期ビジョンに向けて活動しています。私たちは、地域のパートナーや、グローバルに活動するパートナーと長きにわたる協力関係を築いています。タケダのグローバル CSR プログラムとパートナーシップでは、新生児および母子の健康の強化、感染性疾

患の予防と治療を中心に行うほか、非感染性疾患もカバーしています。私たちの CSR 活動のなかには、タケダの製品とは一見無関係な活動もありますが、人々が病気になるまで待つのではなく、健康な人々をお手伝いする道を探る企業として、幅広い CSR 活動を展開しています。

## サステナビリティ（持続可能性）の視点から見たタケダの事業活動



## ESG開示と透明性

環境、社会、ガバナンス (ESG) への私たちの影響の透明性を確保し、開示することはきわめて重要です。機関投資家が企業と対話する際に、企業の長期的で持続的な価値創造を重視する傾向が強まっています。このため、ESG 評価機関によるレポートも重要性を増しています。タケダは、ESG 評価機関や機関投資家との対話から得られた期待を理解し、それに対応することで、事業活動や情報開示に反映しています。



指数/格付け	企業・機関	国	組み入れ状況
 MEMBER OF <b>Dow Jones Sustainability Indices</b> In collaboration with 	S&P Dow Jones Indices	米国	Asia Pacific Index — 10年連続 World Index — 2019年9月～
	Corporate Knights	カナダ	4年連続
 FTSE4Good	FTSE Russell	英国	15年連続
 2019 Constituent MSCI ESG Leaders Indexes	MSCI <sup>1</sup>	米国	10年連続
	Forum Ethibel	ベルギー	2017年7月～
	ISS-Oekom	ドイツ	2年連続
	RobecoSAM	スイス	2019年2月～

<sup>1</sup> タケダのMSCIインデックスの組入や、MSCIのロゴ、商標、サービスマークまたはインデックス名の使用は、MSCIまたはその関連企業による後援、推奨や販売促進ではありません。MSCI指数は、MSCIの独占的財産です。MSCIおよびMSCI指数の名称とロゴは、MSCIまたはその関連会社の商標またはサービスマークです。



## 持続可能な開発目標(SDGs)への取り組み

タケダは、国連の持続的可能な開発目標 (SDGs) などの国際的枠組み、スイス・ダボスで毎年開催される世界経済フォーラム (ダボス会議) をはじめとする国際会議や、民間活動団体 (NGOs) との対話を通じて、タケダの持続可能な目標を評価しています。世界各国の市民社会のニーズを理解することで、私たちの優先課題を調節し、ニーズが最も大きい地域に向けた活動を定めることができます。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



タケダは、SDGsのなかの2項目に関するCSR活動を展開しています。私たちのエンゲージメントに基づくグローバルCSRプログラムでは、「Good Health and Well-Being」(SDG目標3)に取り組み、疾病予防による健康改善と、途上国・新興国におけるキャパシティ・ビルディングを活動の目標としています。個々のプログラムはステークホルダーと連携して策定しますが、実施するプログラムはタケダの従業員が選択し、オーナーシップの醸成に役立っています。



グローバルCSRパートナーシップ活動は、「Partnerships for the Goals」(SDG目標17)に取り組むもので、私たちがより戦略的に機動性をもって活動する力となる内容です。これらの活動を通じ、拡大しつつある非感染性疾患の課題を認識しつつ、HIV/AIDSなどの感性的疾患に迅速に対応しています。[グローバルCSRパートナーシップの章](#)をご覧ください。

## 小児の希少疾患の早期診断に向けて

タケダ、マイクロソフトとEURORDIS-Rare Diseases Europeが共同議長をつとめるGlobal Commission to End the Diagnostic Odyssey for Children with a Rare Disease (小児の希少疾患の診断を早期・正確に確定させる取組)、以下「グローバルコミッション」は、患者支援団体、医師や専門家など、希少疾患コミュニティが直面する課題と解決法に詳しい多様な人々で構成されています。希少疾患児がより長く、より健康な生活を送るためには、早期診断が最も重要となります。グローバルコミッションとのパートナーシップは、テクノロジーと支援を結びつけ、診断までの時間を大幅に短縮することを目標にしています。



### GLOBAL COMMISSION

to End the Diagnostic Odyssey for Children with a Rare Disease

2019年上半旬、グローバルコミッションは **actionable roadmap** (実施可能なロードマップ) を発表しました。ロードマップは、診断されるまでに何年もかかる状況の打開を目指して、ブロックチェーンや顔認証などの最新技術を用いるパイロットプロジェクトをはじめ、分析や意志決定のためのデータの共有を進めつつも患者のプライバシーを保護するための提案を示しています。グローバルコミッションは、タケダのCenter for Scientific Leadership and Innovationと共同で、患者さんや家族が医師とより密接に協力し、希少疾患に関する考え方を変える力となるような、革新的で根本的な解決法の特定と進歩に向けた活動を実施しています。グローバルコミッションの取り組みは、タケダのビジョンに整合しています。すなわち、タケダは、世界中のあらゆる人々のニーズに貢献しています。タケダイズムを通じ、社会やタケダの医薬品を必要とする方々からの信頼を得ています。機動性とイノベーション、さらに高い品質に支えられ、強固なパイプラインのもと成長し続けベスト・イン・クラスの製薬企業として認められています。

# ガバナンス

## サステナビリティ活動では、事業活動と同様、 最大限のインパクトを与えられるよう努力しています。

大きなインパクトを作り出すには、規律あるアプローチで取り組みを選び、効果的に実行することが必要です。サステナビリティに関するガバナンスは、4つのステップで構成しています。

1. サステナビリティに関する重要案件は、タケダのトップマネジメントが検討し、意思決定を行います。これらの案件はビジネス・レビュー・コミッティー（BRC）や、タケダ・エグゼクティブチーム（TET）や取締役会で取り扱われます。
2. デューディリジェンス サステナビリティは、経営判断における重要な要素です。事業活動に起因する社会・環境影響については、潜在的な影響を含めて事前に特定し、担当部門が活動を指揮して適切に対処することで企業価値の保全を図っています。
3. 実施 特定したマテリアルな課題は、品質、人権、労働、環境、購買、サプライチェーン管理、コンプライアンス、コミュニティなどに分類・案件化され、関連部門が対応します。
4. 開示 コーポレート・コミュニケーションズ&パブリックアフェアーズ（CCPA）内に設置されているCSR専門組織では、国連GCアドバンスドレベル基準、グローバル・レポーティング・イニシアティブ（GRI）スタンダード、国際統合報告委員会（IIRC）統合報告フレームワーク、サステナビリティ・アカウンティング・スタンダードなどを参照しながらサステナビリティ関連情報の開示活動を進めています。



# マテリアリティ

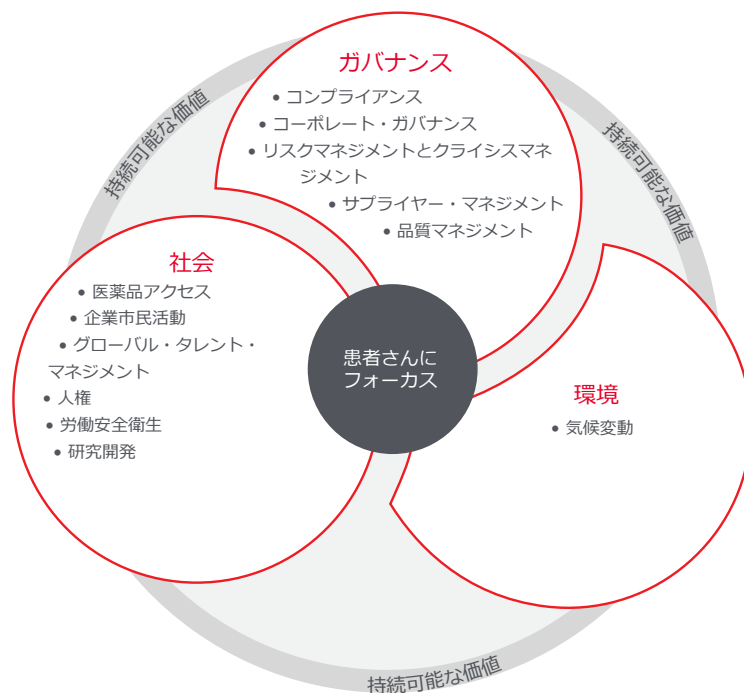


## 研究所での活動、新規化合物の開発からカーボンフットプリント削減に至る全ての活動で、目に見える結果を出し価値を創造できるよう努力しています。

タケダは、持続的な価値創造にも同様のアプローチを用いています。タケダは包括的なレビュープロセスを実施し、社会、投資家、タケダの従業員にとっての重要性に基づき、タケダの事業の強みが活かせる点に集中できるように ESG の領域を選択しています。

このプロセスには、タケダの全社戦略、SDGs などの国際規範、グローバル・レポート・イニシアティブ (GRI)、サステナビリティ・アカウンティング・スタンダード・ボード (SASB) の基準や、各 ESG 評価機関のレビューも含まれます。

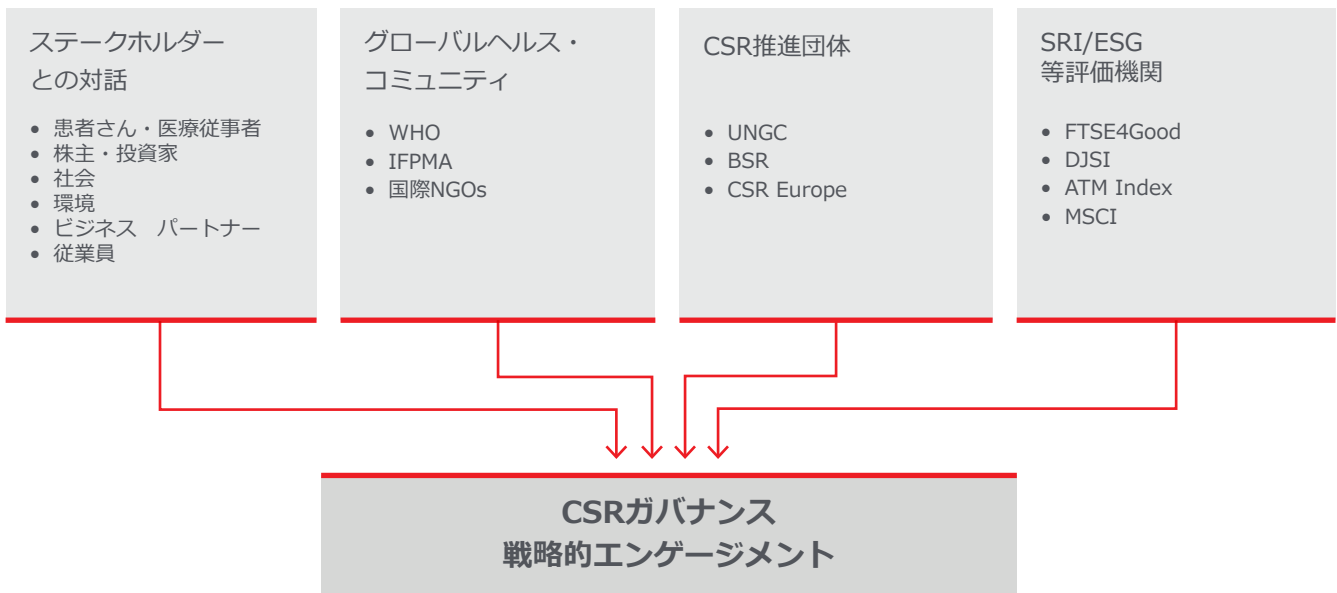
### 現在の重点分野：



# 戦略的エンゲージメント

タケダは、戦略的エンゲージメントを通じ、多様なコミュニティやステークホルダーが関心をもつ課題の理解を試みています。タケダは、評価機関、財団やグローバルヘルス・コミュニティとの対話を通じ、世界のサステナビリティのトレンドの把握を進めています。コミュニケーションの質の向上を目指し、コーポレート・ガバナンス・コードなど様々な指針に基づき情報の開示と発信を行っています。この対話を通じてタケダにとって特

に重要な課題を検討・整理し、事業活動と同等の厳密さと規律をもってサステナビリティ活動を推進しています。2019年7月には、タケダのCRSチームは社外ステークホルダーへアウトリーチ活動を実施し、タケダの持続可能な価値創造戦略に対する見解や期待を把握するとともに、タケダからの報告を行いました。



## パートナーシップ

パートナーシップは、タケダの事業の成長と企業市民としての活動の両面できわめて重要な要素です。事業面では、バイオベンチャーとアカデミアと幅広いパートナーシップ活動を展開しており、サステナビリティ活動においては、下記の国際機関などとのパートナーシップを積極的に推進しています。



グローバルCSRプログラム・パートナーは、本レポート32ページの「保健医療」の章に掲載しています。





## A Brighter Future Through Better Health

### IN THIS CHAPTER

- ・研究、開発 (R&D)
- ・医薬品アクセス
- ・グローバル CSR プログラムと  
パートナーシップ



# Overview

**日本に本社を置き、自らの経営の基本精神に基づき患者さんを中心に考えるというバリュー（価値観）を根幹とする、グローバルな研究開発型のバイオ医薬品のリーディングカンパニーとして、タケダは世界中の人々により健やかで輝かしい未来に貢献するというゆるぎないコミットメントを持っています。**

タケダはその強みを活かし、イノベティブなパートナーとの密接に連携しつつ、世界のあらゆる地域の患者さんの保健医療の改善に向け活動しています。その活動は、新薬の開発から、負担能力に応じた患者支援プログラムに至るまで、多岐にわたります。

タケダの活動は保健医療システムと様々な形で交わります。いずれの点においても、常に患者さんを中心において実行します。タケダの事業の基本は、サイエンスにあります。タケダの研究拠点では、世界でも特に困難な医学的課題や疾患に取り組む医薬品やワクチンの創出と開発に力を注いでいます。

保健医療アクセスに問題がある場合は、タケダの医薬品アクセスプログラムが患者さんを支援し、経済面や物流面をはじめとする課題の克服をサポートします。また、タケダはパートナーと連携し、患者さんがたどるすべての過程（患者さんが疾患を認識してから診断、治療、その後の生活に至るまでの道のり）で保健医療システムの強化を支援します。

タケダのグローバル CSR プログラムは、国連の持続的可能な開発目標（SDGs）の「目標 3： Good Health and Well-Being」と「目標 17： Partnerships for the Goals」の達成支援を目標として策定しています。タケダの活動の全てにおいて、不十分なアクセスの不均衡、疾病予防、流行/疾病の根絶、パンデミックへの備え、気候変動が人々の健康に及ぼす影響など、世界の保健医療システムが直面する課題に留意しています。





## 研究・開発 (R&D)



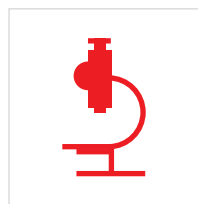
**研究・開発 (R&D) は、バリュー、人材、事業の持続的成長とともに、タケダの戦略ロードマップの4本の柱としてタケダの企業文化を支えています。**

R&Dはタケダのイノベーションの原動力です。グローバルのネットワーク、および外部パートナーとの協働により、患者さんの生活に変化をもたらす革新的な医薬品の開発に取り組んでいます。タケダでは4,400名を超える研究者が力をあわせ、新たな治療選択肢の研究・開発を行っています。2018年度には、3,683億円の研究開発費を投じました。

タケダは、社内外の別なく最高のサイエンスを探索し、長期的な投資を行います。タケダは、厳格なライセンス契約や、従来型の企業買収にとられない形の互恵的パートナーシップをバイオテクノロジー企業や製薬企業、アカデミア、ほかNPOや政府機関と結び、イノベーションの開発に取り組んでいます。タケダは多様なモダリティのパイプラインを構築し、画期的な新薬の創出を目指し、パートナーと協働しています。一社では出来ないことも外部パートナーとの協働により、患者さんのアンメットメディカルニーズへの取り組みを進め、競争が激しい市場で求められるスピードと効率性を実現できるよう取り組んでいます。タケダは現在、200を超えるパートナーシップを持ち、イノベーションの最前線で活動しています。

現在の研究開発活動の重点領域は次の通りです。

- ・ 進歩への道を一步一步進むのではなく、革新的な影響を及ぼすような医薬品の創出に向け、新たなイノベーションの波を起こすべく活動しています。
- ・ 細胞療法、遺伝子療法、がん免疫治療、データサイエンスやトランスレーショナル医学をはじめとする新たな機能や次世代技術に投資します。





- ・世界最大の希少疾患医薬品企業として、業界屈指の希少疾患パイプラインの開発を進めています。十分な医療を受けられていない患者さんらのために、必要不可欠な医薬品をお届けできるよう取り組んでいます。タケダは希少疾患パイプラインの開発後期にある品目の開発に力を入れ、現在の疾病領域のリーダーとしての地位を再定義するとともに、パートナーと共に新たな希少疾患領域において新規のプラットフォームやプログラムにおいての活動を広げていきます。

- ・ワクチン開発の強化は、医薬品アクセス改善に向けた重要な一歩です。ワクチン開発のプロセスを通じ、タケダは医薬品アクセスに関する企業文化の構築に向けたステップを歩んでいます。将来的には、各グローバルプログラムチームに医薬品アクセス担当リーダーを置き、作業文書における医薬品アクセスに関する項目の整備、およびKPIや目標の設定、またロードマップの策定や、アクセスプログラムの標準化などを行い、医薬品アクセスを事業のドライバーとして確立させる予定です。

- ・R&D主導の従業員フェロースHIPプログラムを通じ、従業員が保健医療制度を構築中の国や地域を訪れ、医療従事者の知識・技術の向上に貢献することにより、医薬品への患者さんアクセスを向上させる活動を展開しています。

- ・疾病負荷やアンメットニーズをさらに理解するため、患者団体、患者支援団体などのステークホルダーとの活動を行っています。これらのパートナーシップにより、タケダは患者さんのために医薬品を開発する企業から、患者さんと共に医薬品を開発する企業へと発展していきます。タケダは患者さんの見識を取り入れ、リアルワールドデータを活用し、分析を生かして開発力を高めていきます。





# A Conversation With Andrew Plump, M.D., Ph.D.

President, Research and Development

## 持続可能な価値創出に向けた活動のなかで、 あなたが最も喜びに感じることは何ですか？

タケダの医薬品アクセスプログラムを通じた私たちの活動は、世界中の患者さんの保健医療の改善に役立っています。このプログラムは、十分な医療が受けられない地域に医薬品を寄付するだけの活動ではなく、地域での医療提供能力の強化を支援する活動でもあります。私たちは途上国を含めた各国における研究開発に投資し、地域での創薬を支援し、医療従事者に対する教育・訓練プログラムを行い、医療の向上につとめています。こうした地域の能力を強化させる活動は、私たちが貢献すべき患者さんに持続的なインパクトをもたらすことができます。

## 価値創出における最大の課題、 また、最大の機会は何ですか？

求められる価値は、患者さんによって、また地域によって異なり、1つの方法で全てが解決するわけではありません。私たちは必要な人材育成プログラムを効率的に実施し、求められる価値を創出していく必要があります。このため、私たちは各国の政府、保健当局をはじめとするパートナーと連携して各地域のニーズを把握し、これを満たすべく活動しています。



## あなたの仕事は、タケダの患者さんへの貢献をさらに高める上でどの ような役割を果たしていますか？

R&D はグローバル市場を対象とします。イノベーションは私たちの周囲のあらゆるところで発生し、驚くべき速さで進んでいます。私たちは、最新技術に精通するのみならず、明日の革新的医薬品やソリューションを創出し、速やかに、そして自信をもって患者さんにお届けすることを目指しています。タケダは社内の研究拠点や R&D 人材に投資しつつ、幅広いネットワークを通じて、世界各地で芽生えつつあるイノベーションを伸ばす取り組みも行っていきます。

**疾患領域** タケダは研究開発において、オンコロジー（がん）、消化器系疾患、希少疾患、およびニューロサイエンス（神経精神疾患）の4つの疾患領域に注力しています。さらに、血漿分画製剤およびワクチンの研究開発に関する投資を行います。タケダのワールドクラスの R&D エンジン、タケダが注力する疾患領域における開発を進め、主な臨床試験の結果を得て、新薬承認申請や適応症の拡大を行っています。2018 年度にはタケダはパイプラインを拡充し、12ヶ月間で15の新規化合物のステージアップを達成し、17品目が新たに R&D ポートフォリオに入りました。

オンコロジー領域では、タケダは ALUNBRIG (brigatinib) を非小細胞肺癌の一種を有する成人患者の治療薬として欧州委員会 (EC) より販売許可を取得しました。また、日本と欧州連合 (EU) においてアドセトリス (ブレソキシマブ ベドチン) の適応追加申請の承認を得て、造血幹細胞移植

後の再発・進行のリスクの高い CD30 陽性末梢性 T 細胞リンパ腫の治療薬としても用いられるようになりました。消化器系疾患では、中等度から重度の活動期の潰瘍性大腸炎を対象として、エンタイビオ (ベドリズマブ) とアダリムマブを比較した第 IIIb 相試験において、エンタイビオ群の方が臨床的寛解率が高いとの結果が得られました。この試験は、再燃と寛解を繰り返す慢性の炎症が大腸粘膜に生じる進行性疾患である潰瘍性大腸炎の患者を対象として生物学的製剤を直接比較した初めての試験です。

希少疾患では、TAKHZYRO (lanadelumab) を I 型または II 型の遺伝性血管性浮腫 (HAE) をもつ 12 歳以上の患者の治療薬として米国食品医薬品局 (FDA) より承認を得ました。遺伝性血管性浮腫 (HAE) は男女ともに 5 万人に 1 人の割合で現れる遺伝性疾患で、本剤は同疾患の治療薬として承認された初のモノクローナル抗体製剤です。ニューロサイエンスでは、タケダは



米国 FDA より大うつ病治療薬トリンデリックス（ボルチオキセチン臭化水素酸塩）の医薬品承認事項変更申請の承認を取得し、急性うつ病における認知機能の一症状である処理速度に改善効果があることが明記された米国発の抗うつ剤となりました。

## ワクチン開発における新たなマイルストーン

ワクチンは、18 世紀後半の登場以来、公衆衛生を大きく改善してきました。現在、ワクチンは毎年 200~300 万人以上の生命を救っています。タケダでは、世界でも最も公衆衛生ニーズが高い感染症に対するワクチンを開発しています。タケダのワクチンビジネスユニット (VBU) は、中低所得国の多くで課題となっている感染症に焦点を置いた開発パイプラインを構築しています。VBU が取り組む疾患（デング熱、ジカウイルス感染症、ノロウイルス感染症、チクングニア熱）はいずれも、医薬品アクセスの向上に向けた業績を比較評価する指標を示す Access to Medicines Index レポートに含まれています。



タケダのミッションは、これらのワクチンをアンメットニーズが最も高い国々でお使いいただけるよう、開発し承認を得て、世界中の人々の、健康の向上に必要な数百万回分のワクチンを生産する施設を社内で整えることにあります。タケダでは次の 3 つの感染症に対するワクチンの研究開発に注力しています。

- ・デング熱：世界で最も早いスピードで拡大し続けている蚊が媒介する疾患で、世界人口の約半数がデング熱の脅威にさらされています。世界保健機関 (WHO) が 2019 年に発表したグローバルヘルスに対する 10 大脅威の 1 つにデング熱が含まれています。タケダは現在、デング熱流行地域における 2 万人を超える小児および若年層のを対象としてデング熱ワクチンの臨床第Ⅲ相試験を実施中です。本試験の結果では主要評価項目を満たし、現在開発中のワクチンはデング熱への予防効果を発揮することが示されました。タケダは、ジンゲン（ドイツ）における新

たな生産拠点の建設への 1 億ユーロ以上の投資を含め、デング熱ワクチンの開発に積極的な投資を行っています。

- ・ジカウイルス感染症：タケダは、世界中の流行地域におけるジカウイルス感染症への取り組みを支援すべく、米国政府よりワクチン開発の助成先として選定されました。タケダが開発を進めているジカウイルスワクチンは、米国食品医薬品局 (FDA) よりファスト・トラック指定を受けました。現在、第 I 相試験のデータを解析中です。
- ・ノロウイルス感染症：ノロウイルスによる感染症の発症件数は年間 6 億 8,500 万件にのぼり、毎年 20 万人が死亡していると推定されています。タケダが開発中のノロウイルスワクチンの臨床第Ⅱ相後期有効性試験はこのほど完了し、解析結果の発表は 2020 年の見込みです。



## A Conversation with Rajeev Venkayya

President, Global Vaccine Business Unit

### 持続可能な価値創出に向けた活動のなかで、 あなたが最も喜びに感じることは何ですか？

タケダのワクチン事業では、世界全体に影響を及ぼす諸課題に取り組んでいます。私にとっては、これは持続可能な価値を創造することにほかなりません。私たちは、世界の人口の約半数を脅威にさらしているデング熱や、全ての人々が一生のうち数回罹患する可能性のあるノロウイルス感染症に対するワクチンの開発に向けて努力しています。これらの疾患や他の疾患に対して有効で安全なワクチンが開発できれば、私たちの活動は何人もの何世代もの人々がメリットを享受することができ、本人や家族のみならず社会全体の生産性向上にもつながります。

### 価値創出における最大の課題、また、最大の機会は何ですか？

私たちは、科学的・技術的側面からワクチン開発が困難とされ、疾病負荷が高い感染症を対象とするワクチンの開発に力を入れています。ワクチンは小児を含む多数の健康な人々に用いる製品であるため、その安全性と品質に求められる水準はきわめて高く、これらの水準を満たすために要する時間と投



写真：国連財団

資はきわめて大きなものとなります。それだけのリソースと忍耐力をもつ企業はごく少数しか存在しません。私は、タケダがそのような企業の1社であることを誇りに思います。

### あなたの仕事は、タケダの患者さんへの貢献をさらに高める上でどのような役割を果たしていますか？

我々のワクチン事業により、タケダは世界に対し新たな貢献を提供できることとなります。タケダが今後、さらに多くの人々に製品をお届けすることができる可能性に身が引き締まる思いです。これは私たち全員にとって、名誉なことであると同時に責任を感じる活動であり、大きなチャンスとなる事業でもあります。



写真：国連財団



## 医薬品アクセス



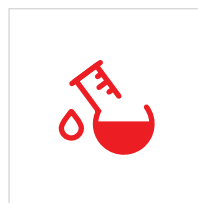
**医薬品アクセス（Access to Medicine）はグローバルで組織横断的なイニシアティブです。保健医療システムが十分に整備されていない国々において、複雑な疾患や希少疾患に対し、革新的で人々の命を救う可能性のある医薬品アクセスを高める目的で取り組んでいる活動です。**

タケダでは、「患者さん中心」を第一として活動しています。医薬品へのアクセスは世界中で実現すべき、と信じる理由はここにあります。ここ10年間で公衆衛生が向上し、科学的な発見が相次ぎましたが、世界中の人々、特に中低所得国の人々は、保健医療サービス、治療や予防法へのアクセスが整っていません。従来、アクセス向上に取り組む活動の大部分は必須医薬品を対象とされてきましたが、複雑な非感染性疾患(NCDs)の負担が拡大しています。世界には、がんをはじめとする死者数の多い疾患に対する保健医療アクセスが全くないか不十分な人々が数多く存在します。

タケダの取り組みは、医薬品アクセス活動のニューフロンティアといえますが、複雑な疾患や希少疾患のアクセス向上の改善には大きな課題があります。これらの疾患の診断、治療と管理はきわめて困難です。世界の多くの国・地域では、これら疾患のスクリーニング、診断と治療のニーズが未だ満たされていません。これらの疾患の啓発、予防と診断の技術をもつ医療従事者が不足しています。必要な設備の規模や質が不十分であり、革新的医薬品のサプライチェーンは整備されていません。経済的負担も大きな課題です。複雑な疾患や希少疾患の治療には革新的な医薬品が必要ですが、そのような医薬品の多くは多額の研究開発費を投じて作り出されています。このような高額な治療薬は生涯にわたって必要になることが多く、代替薬が存在しないことも少なくありません。

### 戦略とインパクト

このような課題に取り組むには、患者さんと保健医療システムに対する包括的な視点が必要です。タケダは、患者さんがたどるすべての過程に着目して革新的医薬品の開発から治療、さらにその後の活動を展開するとともに、各国・地域の保健医療システムやそのキャパシティにも目を向けています。患者さんへのインパクトを最大限に高めるため、下記のステップを展開しています。





- ・明確な目標を定めた持続可能なパートナーシップ

このような課題には、タケダ単独では取り組むことができません。タケダは官民両セクターのパートナーと密接に連携して持続的な活動を展開し、この連携が患者さんの生活に良い影響を及ぼせるよう取り組んでいます。

- ・革新的なパートナーシップの枠組み

タケダは、全ての医薬品アクセスプログラムの指針とする Blueprint for Innovative Access を策定しました。これは、複雑な疾患や希少疾患のための革新的医薬品へのアクセスを高めるためのパートナーシップの取り組みに関する実践的フレームワークで、啓発・予防から患者支援までの患者さんがたどる過程の全段階において、各段階におけるキャパシティの構築や、治療薬を入手しやすい価格で提供するための革新的な仕組みなどに関するフレームワークを示しています。

- 基盤強化 (キャパシティ・ビルディング)

タケダは医薬品アクセスが整っていないことを認識しており、十分なケアを提供するには、保健システムにはスクリーニング、早期診断と早期治療が行える医療人材が必要です。タケダはパートナーと協働し、患者さんのたどる過程の全段階にわたる保健医療システムの向上に取り組んでいます。

- ・患者アクセスプログラム

私たちの革新的な医薬品に対する早期アクセスの実現が求められていることを認識しています。そのため、タケダの医薬品のライフサイクルを通じて早期アクセスの計画策定と実行を優先課題としています。またタケダは患者支援プログラムを通じて革新的で協働的な資金調達モデルを構築し、医薬品アクセスを高めながら医学的な利点を高めるための取り組みを行っています。これは、患者さんが医薬品の費用の全額を自己負担できない場合であっても、必要な治療を完了できるようにするための取り組みです。

- ・インパクトを測定するための枠組み

タケダとパートナーが説明責任を果たすため、デューク大学と連携し、患者さんの生活改善をもたらすインパクトを一貫した方法で測定できるインパクトフレームワークを構築しました。

タケダは52の国と地域でプログラムを立ち上げ、患者さんの医薬品アクセスの改善に向けた活動を大きく進めてきましたが、行うべきことはまだ多くあります。私たちはこの基盤をさらに強化し、プログラムを拡大して疾患領域を広げ、より多くの患者さんに健やかで輝かしい未来がお届けできる国の数を増やせるよう活動しています。

## 125,000人以上

治療を受け生活の向上や生存期間の延長につながった患者さんの数

## 4,000人以上

より良い患者ケアに関する研修を受けた保健医療従事者とコミュニティ・ヘルスワーカーの数

## 110万人以上

支援を受けた医療従事者が、がんなどの非感染症疾患のスクリーニングを実施した患者さんの数

## 5位

2018年度の医薬品アクセスランキングにおいて前回より順位を10位上昇させ、5位に入りました。タケダの戦略の品質と目標、また活動の進展が評価された結果です。

## 52カ国・地域

患者さんを中心としたアクセスプログラムを実施した国と地域の数

## 明確な目標を定めた 持続可能なパートナーシップ

明確な目標を定めた持続可能なパートナーシップは、タケダの医薬品アクセスのイニシアティブの基礎となります。複雑な保健医療システムを改善するためには多大な努力が必要で、一企業または一組織が単独では行えません。タケダは、グローバルおよび地域の医療専門家、学術機関、開発機関、民間非営利団体 (NGOs)、政府機関、医療従事者、患者団体や同業社との協働活動を通じ、アクセスプログラムが直面する最大の課題の一つが保健医療の全体像の把握であることを突き止めました。全体像が把握できていないために、活動が重複したり、非効率になったりしているのです。



明確な目標を定めた持続可能なパートナーシップに向けた取り組みは、各国で経験豊かな個人や団体と協働し、具体的な問題の解決に向けたプログラムの策定や、既にあるイニシアティブの効率をあげ、患者さん、保健医療システム、地域社会に最大の価値を提供することができるようになります。タケダは、地域でのアクセスの課題に対して新たな視点を提供し、持続的な変化に向けたタケダの長期的戦略を支えてくれるパートナーを探し求めています。

タケダは 2018 年、Amref ヘルス・アフリカと連携して各国政府、国連の専門機関、ドナー・コミュニティ、NGOs や民間企業のグローバルリーダーらとの会議を開き、アフリカとアジアにおけるユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) の推進に向けたベストプラクティスを検討しました。国連が掲げる 2030 年までの国際目標を達成するには、知識、経験、財政面の責任を共有するための効果的なパートナーシップが必要であることを改めて確認しました。タケダは今後も Amref ヘルス・アフリカをはじめとする団体と協働して持続的なエンゲージメントと長期的なコミットメントを継続し、保健医療システムの強化と患者さんの医薬品アクセスの向上を目指します。

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成はタケダにとって最優先事項であり、その達成に必要な取り組みを長期的に継続することを約束します。この取り組みには、政策と規制の調整、きわめて重要な保健プログラムのサポート、複数のセクターにまたがるパートナーシップの促進などがあります。2030 年までにユニバーサル・ヘルス・カバレッジを達成するには、それぞれがコミットメントを継続し各自の責任を果たせるよ



## キャパシティの構築： がん領域の取り組みの強化

ケニアにおいて、がんは死因の第 3 位の疾患です。サハラ以南のアフリカ諸国におけるがん対策では、がんの早期発見の促進が重要となります。タケダは地域のパートナーや米国国立がん研究所 (NCI) と連携し、ケニアの保健当局の指揮のもと、ケニアにおけるがんの診断、治療、患者サポートにおける課題を特定しました。

タケダは、これらの課題に取り組むため、地域の医学教育機関や NGOs とともに Integrated Cancer Care Curriculum (包括的がん医療カリキュラム) プログラムを立ち上げました。カリキュラムでは、これを履修する医療従事者の数、患者の自宅から診療所までの距離、治療選択肢に関する社会の理解、および定期的な検査の重要性について取り組むべき目標を設定しています。

革新的な研修コースと実施法により、対面での研修とモバイル機器を活用したオンライン学習を組み合わせ、医療従事者が研修とメンターによる指導を受け、知識を共有するシステムを整えています。この包括的がん医療カリキュラムは、2019 年末までに 10,000 人の医療従事者にトレーニングを実施することを目標としています。

このプログラムの継続は、タケダをはじめとするパートナーからのコミットメントが持続できるか否かにかかっています。タケダは、政府と密接に連携し、NCI のプログラムとして継続できるよう支援しています。

うにする、持続可能なパートナーシップ・プラットフォームが必要です。このような複雑な課題を解決するためには、政府のリーダーシップの下で、民間セクターの専門知識と NGO のミッションを最大化しながら共同で取り組む必要があります。こうして私たちが保健医療にもたらした進歩により、何千人もの患者さんの生活を変えてきましたが、今後さらに数百万人もの患者さんへの対応が待たれています。

## 革新的なパートナーシップの 枠組み：患者さんがたどる全ての過程で 保健医療システムへのアクセスを強化する Blueprint for Innovative Access

タケダは、医薬品アクセスプログラムの指針として Blueprint for Innovative Access を策定しました。これは患者さんのたどる過程の全段階において複雑な疾患や希少疾患に対する革新的医薬品へのアクセスを向上させることを目的とするパートナーシップ・アプローチに関する実践的な枠組みを示す指針です。

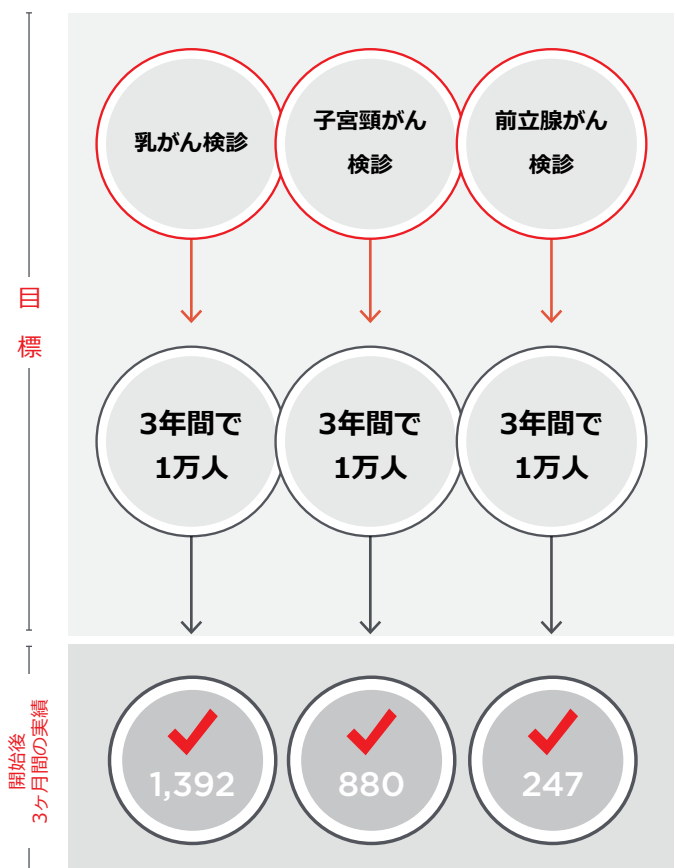
この Blueprint は、プログラムを所有し実施するパートナーとのコンソーシウムを地域で構築し、持続的な取り組みを行えるよう作成しています。この Blueprint に従い、現地における保健医療環境の把握からはじまり、疾患領域や対象国における問題や課題を明らかにした上で、地域に適した明確な目標を設定したプログラムを策定します。

強固なガバナンスと、論理基準、コンプライアンスと腐敗防止への取り組みが、タケダのアプローチに不可欠な要素です。タケダには、潜在的利益相反を確実にデューデリジェンスし、管理するための厳格なプロセスがあり、パートナーシップは正式な合意として文書化しています。



## 目標と進捗状況

ケニアのメル県は、Blueprint のパイロット実施先として、2019 年 2 月に選ばれました。Amref ヘルス・アフリカ、International Cancer Institute とタケダが地域のパートナーと協働で、メル県および周辺地域における非感染性疾患 (NCDs) に対する保健医療システムの強化に向けて、連携、協力およびリソースや専門知識の共有を行いました。





## インパクト測定の枠組み

世界中の患者さんの保健医療を向上させるというタケダの目標を達成するには、インパクトを測定することが重要です。タケダ及びそのパートナーが説明責任を果たすために、測定は一貫性があり、透明性の高い、独立した方法で行わなければなりません。このため、タケダは、製薬業界、NGOs や政府機関でも用いられるような、患者さんの生活に対する明確なインパクトを独立して測定できる評価の枠組みの策定に取り組んできました。タケダはデューク大学と連携して Access to Health Impact Measurement Framework（医薬品アクセスへのインパクト測定の枠組み）を開発し、患者さんのニーズを継続的に評価し、必要な対策を速やかに、焦点を絞った形で行えるようにしつつ、プログラムが保健医療システムに及ぼす影響について広くモニタリングが行えるようにしました。

このインパクト測定の枠組みは、同業他社、保健医療機関、政府や NGO s の意見を取り入れて開発しました。タケダの目標は、製薬業界全体で患者さんの生活にもたらすインパクトを一貫した単一の測定モデルで評価する方法として実施することです。

この枠組みの目標の1つに、包括的なプログラムを特定し、一層の連携が必要な領域を明確にして、地域社会、社会や医療従事者を支え患者さんがたどるすべての過程を網羅する保健システムを強化し、効果的か

つ効率的なリソース配分が行えるようにすることにあります。タケダは、今後2年以内にこの枠組みを公開し、広く利用いただけるようにすることを目標に置き、パートナーと協力的な検証を進めています。



## 患者アクセスプログラム：

### 革新的な患者支援プログラム

タケダの患者支援プログラム (PAPs) は、アジア、アフリカ、南米、中東、欧州の14カ国で実施中で、患者さんの治療へのアクセスを向上させつつ、治療の医学的メリットを最大限に高めるための革新的で協働的な資金供給モデルを採用しています。

このプログラムは、患者さんが治療費を全額払えなくても、治療を最後まで受けることができるようにしました。

保健医療の提供には各国内と国家間の両方で大きな格差があるため、患者さん一人一人に応じて価格を設定するというアプローチを採用しました。治療を提供するパートナーを通じて患者さん一人一人に応じて適切な支払い計画を決定する独立性のある新型評価を採用しました。支払い能力がない患者さんの一部については、PAPのほか、現地の医学会、慈善団体や NGOs からの寄付や金銭的サポートにより、医薬品を利用できるルートを探ります。

タケダのスペシャリティ医薬品をできるだけ多くの患者さんに届けながらも安全性と倫理基準を確保するには、この患者支援プログラムが誠実でなければなりません。私たちは、新しいプログラムの検討、承認、実施において細部まで行き届いた統制プロセスを制定し、協働的な資金供給イニシアティブの審査・承認を行う専任のガバナンス委員会も設置しています。



Vaccine Assistance Programs (VAPs) は、従来の PAPs の応用版として策定しますが、ワクチンは医薬品とは異なる特徴を持つため、異なるアプローチが必要です。ワクチンは、低価格の製品を多量に、短期間で提供する必要があるため、数千人の人々に個別に設定した価格でワクチンを提供するため、従来の PAP よりも複雑になります。タケダのワクチンのインパクトとアクセスの拡大に向けた活動において、ワクチン支援プログラムは大きな意味をもちます。

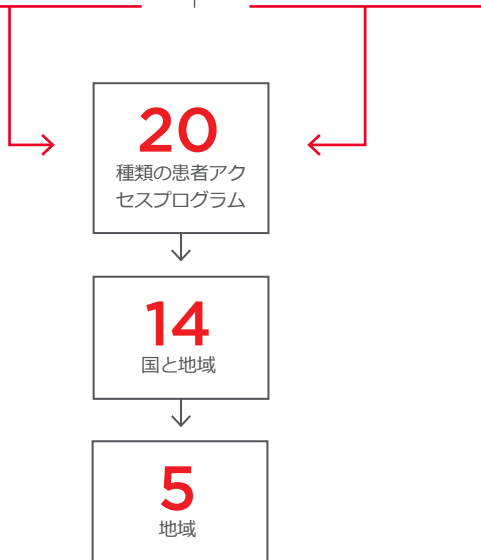
開始以来、14 の国と地域の患者さんが悪性リンパ腫治療剤「アドセトリス」や潰瘍性大腸炎治療剤「エンタイビオ」をはじめとするタケダの革新的医薬品による治療を受けています。

アドセトリスとエンタイビオは最初に注力した製品ですが、PAP の対象医薬品を拡大し、世界的に負担が大きい疾患にも今後、取り組んでいきます。タケダの次のステップは、中所得国におけるワクチン PAP の開発です。



**ADCETRIS**<sup>®</sup>  
brentuximab vedotin | for injection

**Entyvio**<sup>®</sup>  
vedolizumab



タケダの革新的治療薬に対するアクセスとプログラムの詳細については、[医薬品アクセスのプログレスレポートをご参照ください](#)



## 保健医療システムが十分に整備されていない国々における研究開発能力の構築

途上国の多くは、若手医師や研究者が最新の研究開発施設があり医薬品開発のキャリアの選択肢が多い先進国に流出してしまうという課題を抱えています。学生は留学し、最先端の研究所で高度な教育を受けることができるため、海外でチャンスを得ると帰国しない学生は多く存在します。このことは、途上国における保健システムに大きな負担がかかっています。

才能ある医師や研究者が帰国しない理由の一つに、母国である途上国には生物医学研究が進められる技術や研究施設が不足していることが挙げられます。2018年、タケダはNGO団体である Seeding Labs とのパートナーシップ契約を締結し、タケダの社内で十分に活用されていない装置・機器を途上国の研究施設に提供し、研究能力の向上に役立つ活動を開始しました。

この Instrumental Access Program に参加した研究所の1つが、ジャマイカの西インド諸島大学天然物研究所 (Natural Products Institute) です。このイニシアティブへの研究機関の参加と機器の提供によって科学的進歩が見込まれ、教育資源が得られることで、研究に関する認識と高度な知識における10年の格差が解消されることが期待されます。

途上国でのR&D能力の構築は、地域の保健医療システムに大きな変化をもたらす可能性もあります。そこで暮らす医学専門家や研究者は、地域住民に影響を及ぼす特有の問題を解決することに強い関心を抱いています。彼らほど社会が直面しているその地域の課題の解決に適した人材はいません。このため、タケダの Instrumental Access Program は、必要性の高い機器の提供だけにとどまりません。タケダは医学専門家を対象とした操作法の研修を支援し、質問に対応し、タケダやパートナーが蓄積してきた経験を共有しています。



写真：国連財団

## Instrumental Access Program

数字で見る成果

**250** 台の装置や機器を提供



**20** 校の大学



**13** カ国







# A Conversation with Ricardo Marek

President, Growth & Emerging Markets

**持続可能な価値創出に向けた活動のなかで、  
あなたが最も喜びに感じることは何ですか？**

私の仕事で最も満足を覚える点は、多くの人々の生活の向上に貢献する活動に参加していることです。タケダのグロース&エマージング マーケッツ (GEM) ビジネスユニットは、2050年までに世界の人口の85%をカバーする目標を立てています。タケダは、患者さんの生活を改善させる可能性のある革新的な医薬品を約50の国と地域に提供することに注力していますが、残念ながら保健医療へのアクセスが十分ではない人々がまだまだ多く存在します。この状況は、特に、この状況は、タケダがこれまで革新的な医薬品を開発してきた様々ながんや複雑な疾患、希少疾患の多くに見られています。私は、長期支援をコミットしているタケダの医薬品アクセスプログラムを非常に誇りに思います。私たちのアプローチは、全社的な意思決定のもとで行われ、組織全体に深く根ざした活動です。

**価値創出における最大の課題、  
最大の機会は何ですか？**

GEMの活動地域は、患者ニーズが多様で、必要な保健医療の内容が国によって異なることが特徴です。私たちの目標は、診断、治療と管理が難しい複雑な疾患や希少疾患において、革新的な医薬品へのアクセスを常に向上させることにあります。GEMの活動地域では、啓発、予防、スクリーニング、診断と治療に必要な技術に大きなニーズがあります。また支払い能力の面でも大きな課題があります。複雑な疾患や希少疾患の治療には革新的な医薬品が必要ですが、多くの場合は代替品がなく、生涯にわたる治療が必要な患者さんも少なくありません。私は、最も複雑な課題にこそ最も革新的な解決法が必要と考えており、タケダは最も革新的な解決法を提供することにより、患者さんの生活に最大の効果を生み出すことができると考えています。これら



の課題は私やGEMの全員を奮い立たせ、患者さんの生活にインパクトをもたらす活動の原動力となっています。

**あなたの仕事は、タケダが患者さんへの貢献をさらに高める上でどのような役割を果たしていますか？**

私たちが策定したプログラムはいずれも、患者さんがたどるすべての過程において対象国の保健医療システムを強化することに焦点をおいています。このアプローチにより、がんをはじめとする非感染症疾患の検診を受けた患者さんは110万人を超え、また、12万5,000人以上の患者さんの治療を支援してきました。また、支援対象とした疾患領域を専門とする4,000人を超える医療従事者とコミュニティ・ヘルスワーカーに対する研修を行いました。私は、GEMの広域に及ぶ活動と、タケダの革新的な医薬品と、パートナーシップにより、アクセスを大幅に向上させ、患者さんの生活を大きく改善できると確信しています。

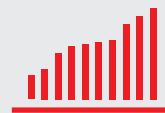
# グローバルCSR プログラムと パートナーシップ

**タケダのグローバルCSRプログラムと各機関・団体とのパートナーシップは、持続可能な社会の発展を促す企業市民活動を通じ、タケダの事業活動のインパクトをさらに拡大します。**

タケダは、全ての事業活動において常に患者さんを中心に考えており、CSR活動においても、その考え方に基づいて取り組んでいます。タケダのグローバルCSRプログラムの重点テーマは、途上国・新興国における保健人材の育成と保健医療アクセスの強化を通じた疾患予防であり、国際機関やNGOなどのパートナーシップを通じた活動を展開しています。その一例としてタケダのグローバルCSRプログラムは、リプロダクティブヘルスと母子保健 (RMNCAH) に着目しています。世界の女性と子どもの健康を改善することは、国際開発コミュニティの最優先課題であり、また国連の持続可能な開発目標 (SDGs) に健康に関する目標が掲げられていることから明らかです。タケダはグローバルCSRプログラムを通じ、中低所得国で多数報告されている母子の「予防可能な死」を減らすことで貢献したいと考えています。この重大な課題に取り組むため、タケダは世界中の全従業員を対象とした投票を行い、その結果を踏まえて新たなプログラムの実施を決定しています。2016年の開始以来、グローバルCSRプログラムはSDGsなどの国際的な規範が示す優先課題の改善に向けた活動を展開し、具体的な成果を挙げています。その成果は、質の高い診断・治療への患者アクセスの向上から、感染症の流行地域における予防接種の推進、医療従事者に対する研修、そして世界各地の保健システムの強化など多岐にわたります。

## 13

中長期的なグローバルCSR  
プログラムの数



## 14

途上国における保健人材の  
育成による疾病予防を目的とした  
グローバルCSRプログラムの数



## ~20,000

2019年度にグローバルCSR  
プログラムに投票した従業員数





現在、タケダは3~10カ年の寄付プログラムを14件実施中です。予防可能な死をなくすために保健医療人材の育成を継続し、また持続可能なサプライチェーンの構築を支援することで、医療・衛生用品の在庫切れや偽造医薬品により患者さんが治療を受けられない状態が生じることのないよう活動を進めています。

タケダは今後、焦点をさらに絞り、WHOのデータで指摘されている中低所得国で未だ大きな課題となっている感染症、母子健康や栄養状態への対策を強化していきます。タケダは、最も負担が大きくアンメットニーズも高い患者さんを中心に、グローバルCSRプログラム活動を行っています。

グローバルCSRプログラムに加えて、タケダはグローバルCSRパートナーシップを展開し、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の達成に向けた世界各地の健康改善を目標とする官民パートナーシップを支援しています。例えば、タケダは「世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバル・ファンド）」と協働しています。タケダは今後も多国間パートナーやNGO、財団、政府間組織と共に活動し、全ての人々に役立つ持続可能な価値を創出し、世界中の患者さんにより健やかで輝かしい未来をお届けするというタケダの目標に向かって前進していきます。

## 従業員による途上国支援現場への訪問 (Employee Participation Program)

タケダは、グローバルCSRプログラムの支援地域を従業員が訪問するEmployee Participation Program（従業員参加プログラム）を実施しています。応募者がオンライン提出した応募書類を審査し、要件やダイバーシティを考慮した上で参加者を決定します。2017年には、10名の従業員が国連



写真：国連財団

財団による「はしか」予防接種のグローバル展開プログラムの現場（ラオス）を訪問し、現地訪問を通じて患者さんを中心に考える活動の意義を学ぶ機会を得ました。

## インクルーシブな選択プロセス

タケダのグローバルCSRプログラムを通じて患者さんに最大限貢献するため、プログラムにおける意思決定を事業活動と同様に厳格に行っています。タケダにとって正しいプログラムを選択するプロセスには、約80カ国で活動する多様な従業員が参画しています。周囲の従業員への波及効果も含めた、従業員のモチベーションの向上も図っていきます。候補となるプログラムのリストを作成するため、CSRに関する専任部署が、様々なNGOや政府間組織をパートナー候補として選択します。次に、従業員向けのプログラム説明会、イントラの特設ページなどを通じ、候補となるプログラムに関する情報を共有し、世界中の従業員を対象とした投票を実施します。2019年には、タケダの約2万名の従業員が投票し、5つの新たなグローバルCSRプログラムを決定しました。



写真：国連財団



## 2019年度のグローバルCSRプログラム



**パートナー：**シティ・キャンサー・チャレンジ (C/Can)

**実施地域：**全世界

**総予算：**10 億円

**期間：**5 年間

**シティ・キャンサー・チャレンジについて：**シティー・キャンサー・チャレンジは都市ベースのパートナーシップイニシアティブです。官民セクターのステークホルダーが協働して、がんソリューションの構築・計画・実行方法を変えることで質の高いがん治療へのアクセス向上を目指します。このアプローチは、都市がグローバル、リージョンおよび地域パートナーの支援を受け、地域特有の状況を把握した上でデータ駆動型のソリューションを構築することで、国レベルのインパクトを生み出し、がん治療を推進するという基本原則に基づいています。

**プログラム内容：**参加型の包括的アプローチにより、官民セクターが結集し、質の高いがんのケアや治療を進め、保健医療システムの強化を実現します。10 都市において持続可能ながんの解決策の構築、計画および実施を支援することで、2023 年までに 8,000 万人の人々にインパクトを与えます。



写真：C/Can

# DNDi

Drugs for Neglected Diseases initiative

**パートナー：**DNDi

**実施地域：**アフリカ、アジア、中南米

**総予算：**10 億円

**期間：**5 年間

**DNDi について：**DNDi は非営利研究開発組織で、リーシュマニア症、フィラリア感染症、ヒトアフリカトリパノソーマ症（アフリカ睡眠病）、シャーガス病、マイセトーマ（菌腫）などの顧みられない熱帯病、および小児 HIV や C 型肝炎で苦しむ顧みられない患者さんのための新たな治療薬の開発に取り組んでいます。DNDi は設立以来、8 つの新たな治療法を開発し、患者さんに届けています。内臓リーシュマニア症のための一連の併用療法、2 種類の抗マラリア配合剤、および DNDi による新規化合物からの開発が初めて成功したフェキシニダゾールなどです。フェキシニダゾールはアフリカ睡眠病の両ステージに有効な治療薬として 2018 年に 欧州医薬品庁 (EMA) から 推奨されました。

**プログラム内容：**目指すのは、子供や家族の人生を一変させること。顧みられない患者さんが、疾患が流行する国の特に僻地において、質の高い診断・治療にアクセスできるよう支援し、命を救い、病気の進行を予防する活動を行います。DNDi は、アフリカ睡眠病、シャーガス病、リーシュマニア症、オンコセルカ症、およびマイセトーマの 5 つの顧みられない熱帯病 (NTDs) を対象としています。これらの疾患は患者さんの生命や生活の質に大きく影響を及ぼすにもかかわらず、有効な診断と治療が十分に提供されていないため、本プログラムではその状況の改善を目的としています。



写真：DNDi



**パートナー**：シリアスファン・チルドレンズ・ネットワーク  
**実施地域**：アフリカ、アジア、カリブ諸国、ヨーロッパ、米国  
**総予算**：10 億円  
**期間**：5 年間

**シリアスファン・チルドレンズ・ネットワークについて：**

シリアスファン・チルドレンズ・ネットワーク (SeriousFun Children's Network) は、深刻な病気を抱える子どもたちとその家族を対象とした無料で参加できる 30 のキャンプとプログラムからなる世界的なコミュニティです。このネットワークは医療に特化したキャンプの分野を主導しており、50 カ国を超える国々の、100 万人以上もの子どもたちや家族に人生を変える経験を提供しています。メンバーである各キャンプは、寄付金などによって運営される独立した非営利団体で、患者さんの家族への費用負担を求めずに、すべての子どもたちを支援します。

**プログラム内容**：グローバルネットワークに向けた新たな革新的なプログラムを計画し、拡大します。また、子どもやその家族の生活におけるキャンプによる影響を追跡調査し、評価を実施することで、さらにニーズに応えられるようプログラムを改善し、ネットワーク全体を通して医療支援体制を構築することを目的としています。



写真：シリアスファン・チルドレンズ・ネットワーク



**パートナー**：ユニセフ  
**実施地域**：全世界  
**総予算**：10 億円  
**期間**：5 年間

**ユニセフについて：**ユニセフ (UNICEF：国際連合児童基金)

は、すべての子どもの権利と健全な成長を促進するために活動する国連機関です。現在約 190 の国と地域で、多くのパートナーと協力し、その理念を様々な形で具体的な行動に移しています。特に、最も困難な立場にある子どもたちへの支援に重点を置きながら、世界中のあらゆる場所で、すべての子どもたちのために活動しています。

**プログラム内容**：ドローン関連を含む 25 の医療・保健スタートアップに投資し、革新的ソリューションを実現・拡大していきます。さらに、子ども向けに人工知能をベースとした感染症アウトブレイクの予測モデルの開発を進め、スケールアップを行います。



写真：ユニセフ





**パートナー**：国連財団

**実施地域**：サハラ以南のアフリカ諸国

**総予算**：5.5 億円

**期間**：5 年間

**国連財団について**：国連財団は、世界の課題に取り組み、全人類の恩恵のためにあらゆる機会を活かす活動を支援します。国連財団は、コミュニティを構築し、持続可能な開発目標 (SDGs) の達成を含む国連とその優先課題を支援するためのイニシアティブを生み出す活動をしています。

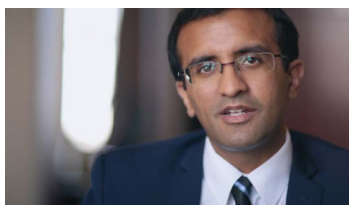
**プログラム内容**：予防接種とユニバーサル・ヘルス・カバレッジの実現のため、アウトブレイクへの対応を可能にする疾病監視体制の改善とデータ活用を通じて、サハラ以南のアフリカ諸国の保健システムを強化することを目指します。強化された予防接種プログラムにより、一次医療を強化し、プログラム実施国のユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成を促進することで、より多くの子どもたちに恩恵を届けます。



写真：国連財団

## グローバルヘルスのリーダーインタビュー

タケダの「グローバルヘルスのリーダーインタビュー」では、グローバルヘルスの先駆者や思想的リーダーが主な課題に関する個人的見解や将来に向けた展望を語り、重要な課題に取り組む上でタケダとのパートナーシップの重要性について述べています。これらのインタビューは、社内外の人々にグローバルヘルスにおける課題やソリューションについての関心を高め、またタケダが支援するプロジェクトがもたらすインパクトや、タケダとの協働によって創り出される価値についてお伝えしています。



**ラジ・パンジャビ博士**

ラスト・マイル・ヘルス  
共同創業者・CEO

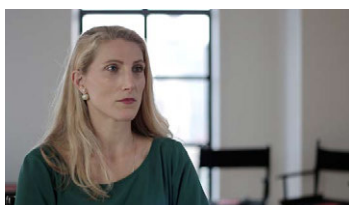
[詳しくはこちら >](#)



**ピーター・ピオット教授**

ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院  
学長

[詳しくはこちら >](#)



**バネッサ・ケリー博士**

シード・グローバルヘルス  
共同創業者・CEO

[詳しくはこちら >](#)



**ヘンリエッタ・フォア氏**

ユニセフ事務局長

[詳しくはこちら >](#)

インタビューの  
視聴はこちらから >

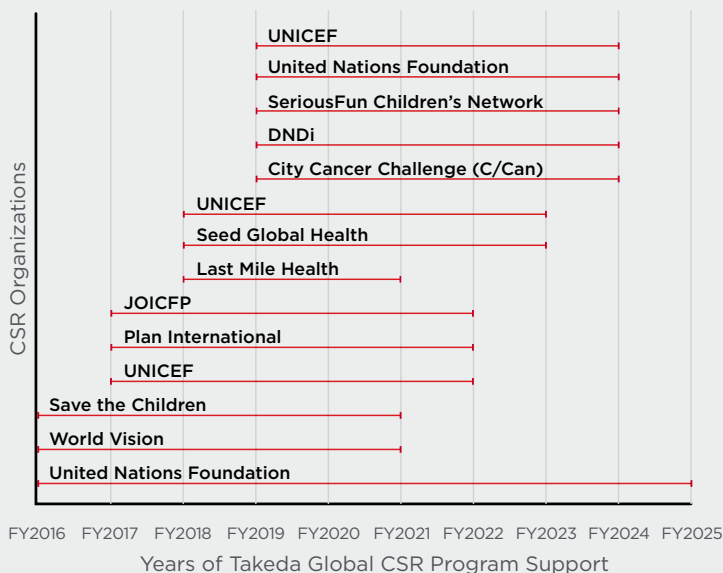




## グローバルCSRプログラム

### 変化をもたらす活動にフォーカス

2019年度にタケダの従業員が選んだ5つのグローバルCSRプログラムは、既に実施中の9つのプログラムと共に、タケダのグローバルCSRプログラムとして開始されています。



途上国・新興国における  
保健人材の育成を通じた  
疾病予防

2016~25年  
にわたり少なくとも  
1700万人以上に貢献

## グローバルCSRプログラム



小児の「はしか」予防接種のグローバル展開プログラム

サハラ以南のアフリカ諸国における予防接種とユニバーサル・ヘルス・カバレッジの強化



アフリカの妊産婦と女性の命を守る



深刻な病気を抱える子供たちを対象とした無料キャンプ



南スーダン・シリア難民を対象とした包括的保護プログラム



「人生最初の1000日」への保健・栄養プログラム

サハラ以南のアフリカ諸国における保健システムの強化

イノベーションと最先端テクノロジーによる医療アクセス改善



サハラ以南のアフリカ諸国における医療専門家5,000人養成プログラム



顧みられない熱帯病5疾患に対する治療と診断へのアクセスを拡大



地域ヘルスワーカーの能力強化を通じた母子保健プログラム



5年間で387,500名の地域住民へ母子保健教育、研修とサービスを提供



10都市において持続可能ながんの解決策の構築、計画および実施を支援



世界で8,000人のコミュニティ・ヘルス・ワーカーを養成

## 今後の活動

すべての人々にユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）を達成するには、タケダの企業市民活動の考え方を大きく変える必要があります。タケダはCSRパートナーと共に新たな仕組みを模索し、地方自治体レベルの課題に取り組んでいきます。CSR活動に伴うグローバルヘルスリーダーとのパートナーシップによって、タケダは持続可能で柔軟な資金調達のソリューション提供を考えています。例えば、地方自治体が課題分野の専門家やメンター、イノベーションプラットフォームへのアクセスを可能とするほか、スケーラビリティに対する道筋を示したり、地方自治居合で企画・管理できるような革新的な解決方法を提供するなど多くの国々が自立できるようになることを期待しています。

## その他のグローバルCSRパートナーシップ

従業員が選んだプログラム以外にも、タケダは下記の活動を支援しています。

タケダ・イニシアティブ2ではアフリカの中でも特に支援を必要とする国々において出生前後のケアにおけるHIV、結核およびマラリアの対策を統合した活動に2020年から5年間にわたって年間2億円の寄付を実施します。この取り組みは、「世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）」を通じてアフリカの保健医療人材の育成を目的として10年間にわたり年間1億円の寄付を行った「タケダ・イニシアティブ1」の後継プログラムです。

タケダが支援を行うタイミングは極めて重要であったと考えています。HIV、結核とマラリアへの対策は近年で大きく進歩しましたが、その後の資金不足や薬剤耐性株の出現など新たな脅威が生じ、患者さんが増加に転じたからです。2030年までにこれら感染症を根絶させるというSDG目標の達成が危ぶまれる状況になっていました。世界では、毎日1,000人近くの思春期女児や若年女性がHIVに感染し、2分に1人の子どもがマラリアで死亡しています。また結核は、世界で最も死亡数が多い感染症です。妊婦ケアの質が上がり、治療にかかる費用が低減できれば、各国はユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成に近づけると考えています。

リレー・フォー・ライフ（RFL）は、世界的ながんの制圧を目指したチャリティ活動です。タケダは、RFLを主催するアメリカ対がん協会（ACS）と協働し、2020年までにRFLの活動地域を46カ国以上に拡げ、全世界でがん患者さんへの支援を強化することをサポートしています。

デジタル出生登録プログラムは、公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパンと協働し、ケニアの出生登録率が低い地域において、デジタル機器を用いた定期健診促進や、保健医療に関する意識啓発を通じた出生登録を推進する活動を支援しています。子どもたちの基本的人権を保護するとともに、ワクチン接種などの保健医療サービスを受受できる仕組みを整え、保健医療アクセス改善に貢献しています。



写真：ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院

## Takeda Chair in Global Child Health

### ロンドン大学衛生熱帯医学大学院における教授職

タケダは、最先端の研究を通じて、世界中の患者さんの人生をより良くするための医薬品ワクチンをお届けしています。この活動の一環として、ロンドン大学衛生熱帯医学大学院（LSHTM）に300万ポンドを寄付し、Takeda Chair in Global Child Healthの教授職を設置しました。この教授職は、中低所得国における、約530万人の小児死亡の減少に向けた研究を支援し、100カ国以上におけるLSHTMの小児の健康に関する研究に重要な役割を果たします。





# A Conversation with Haruhiko Hirate

Corporate Communications & Public Affairs Officer

## 持続可能な価値創出に向けた活動のなかで、あなたが最も喜びに感じることは何ですか？

タケダで働く全ての人々にとって、疾病予防に貢献する機会を得ることが私たちの原動力となります。健康な人々の健康を維持することは極めて重要であり、これには健康政策が重要な役割を果たします。タケダは、政治的な立場に立ち、私たちが患者さんに役立つと信じる保健医療システムの改善策を提案することを恐れません。患者さんや保健医療システムを整備し、疾病予防に最善をつくしても、人々は病気になります。日本は、数十年前にユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（国民皆保険制度）を実現しました。制度にはまだ整備中の部分がありますが、日本では全ての患者さんが保健医療にアクセスできます。ユニバーサル・ヘルス・カバレッジは、すべての人々が経済的負担に苦しむことなく保健医療にアクセスできるようになってはじめて実現します。ゆえにアクセスは極めて重要です。官民連携や NGO とのパートナーシップを通じ、タケダは保健医療アクセスが十分に整備されていない国々での支援に努めてきました。タケダの価値観は、私たちがいかに行動すべきかを指し示す道標となっています。「誠実」を価値観の中心に置く企業として、タケダは世界中の課題解決に貢献しています。

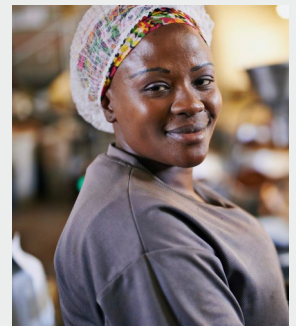
## 価値創出における最大の課題、また、最大の機会は何ですか？

タケダは、私たちの価値観、従業員や企業文化、また私たちの革新的な製品や、世界中で展開している多くのパートナーシップを通じて、患者さんのために持続可能な社会を強化する一助となるべく存在していると強く考えています。ヘルスケア製品やソリューションをお届けする企業として、私たちは保健医療アクセス、医療従事者の育成や水の衛生管理を支援するほか、自然災害に見舞われた地域を支援し（Appendixをご参照ください）、感染症の拡大、食料や水の不足、薬剤耐性株の発生原因となる環境汚染や地球温暖化の防止と緩和に向け、できる限りのことをしたいと考えています。私たちの目の前にある大きな課題として、疾病予防につながるワクチンや治療をもたらす革新的な医薬品を作り出すためには高度な科学研究が必要である一方、多くの国では保健医療システムが大きな財政難に陥っているという現状があります。



## あなたの仕事は、タケダの患者さんへの貢献をさらに高める上でどのような役割を果たしていますか？

タケダの R&D は、将来、患者さんに最高の治療をお届けするために不可欠な要素です。また私たちは、患者さんを中心とした活動を強化するにあたり、企業の社会的責任 (CSR) に力を入れています。タケダにとって、CSR は私たちの活動の不可欠な要素であり、タケダに深く組み込まれ、最高レベルのマネジメントでサポートされています。タケダのグローバル CSR プログラムは従業員が選択し、世界中の熱意ある革新的な組織とのパートナーシップを通じて、保健医療、疾病予防、医療従事者や保健人材の育成に大きなインパクトをもたらしています。これらの活動に併せてタケダは医薬品アクセス戦略を展開し、タケダの医薬品とソリューションを提供しています。



写真：C/Can



## グローバル CSR フォーラム

タケダの CSR 活動への取り組みとして、2019 年にタケダとしては初のグローバル CSR プログラム・パートナーシップ・フォーラムを開催しました。35 の国際 NGO や国際機関の代表者がタケダの従業員と一同に会し、共有価値の創造とパートナーシップの機会に関する主な課題を学び、議論を交わしました。フォーラムでは、タケダと主な開発パートナーとの間で建設的な対話を行い、さらなる連携の道を見出しました。具体的には、タケダがそのグローバル CSR プログラムの背景にあるビジョンと戦略をステークホルダーに説明するほか、ステークホルダーが世界の保健医療における優先課題を説明し、タケダの 2020~2030 年度の CSR 戦略に向けた情報を提供するなど、双方向の対話が行われました。プラン・インターナショナルやセーブ・ザ・チルドレン、シード・グローバルヘルス、ワールド・ビジョンによるパネルディスカッションが行われ、それぞれの知見を共有しました。また、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、GAVI、ユニセフおよび世界食糧計画 (WFP) からの参加者と世界の保健医療の優先課題を語り合うパネルディスカッションも行われました。

## CSR タウンホールミーティング

タケダの従業員は、毎年、グローバル CSR プログラムを選択する重要な役割を果たしています。従業員の各プログラムに対する見識を深めるために、CSR チームは東京、チューリッヒとボストンでタウンホールミーティングを開催しました。東京ではワールド・ビジョンが参加し、アフガニスタンでの母子保健プログラムに関する発表を行い、またチューリッヒでは 2019 年度のグローバル CSR プログラムの詳細が発表されました。米国マサチューセッツ州のレキシントンとケンブリッジでは、シード・グローバルヘルスとラスト・マイル・ヘルスによる活動報告を受けました。タウンホールミーティングに参加した従業員は、タケダが世界各地で支援している活動に誇りを持ち、2020 年度のセッションに期待を寄せています。



## タケダのコミットメント



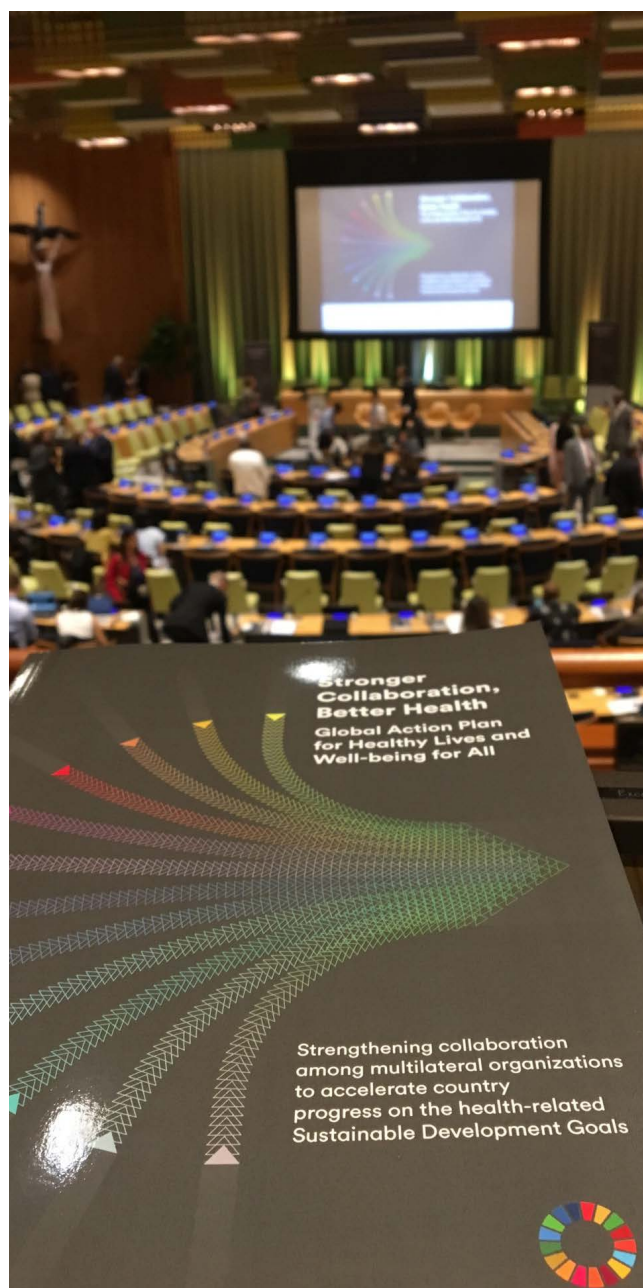
## グローバル行動計画の立ち上げ

タケダのグローバルCSRパートナーシップは、SDGの目標3「すべての人に健康と福祉を」の達成に向けた活動強化を支援することを目的としています。このため、タケダは第74回国連総会に招かれ、グローバル行動計画の採択に立ち会いました。国連総会では、12の多国間支援団体が、SDG目標3の達成に向けたサポートの強化を協力して実施することを発表しました。国連総会では、ドイツ、ガーナ、ノルウェーのリーダーのほか、GAVI、グローバル・ファイナンス・ファシリティ、グローバルファンド、国連合同エイズ計画 (UNAIDS)、国連開発計画 (UNDP)、国連人口基金 (UNFPA)、国連児童基金 (ユニセフ)、国際医薬品購入ファシリティ (UNITAID)、国連女性機関 (UN Women)、世界銀行、世界食糧計画 (WFP) および世界保健機関 (WHO) のリーダーも出席しました。タケダはこの歴史的な会議に招待される機会を得ました。

## 国連総会のイベント

国連総会は、世界各地のハイレベルの代表が集い、最も危機が差し迫った地球規模の課題に対する解決策を検討します。2019年、タケダは、国連総会のハイレベル会合のサイドイベントとして、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジと資金調達に関するイベントを開催し、現在の取り組みを評価するとともに、さらなる進歩を促すことを目標とした発表が行われました。タケダは、デベックス社と、タケダのグローバルCSRプログラムパートナーであるシード・グローバルヘルスとの共催で、「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ達成に向け総力を結集：医療人材への投資」と題したパネルディスカッションを行いました。イベントには、各国政府、基金・もしくは国際NGO、多国間支援団体およびメディアから180名が参加しました。タケダのコーポレート・コミュニケーションズ&パブリックアフェアーズ・オフィサーの平手晴彦が開会の辞を述べ、ルワンダの保健大臣のダイアン・ガシュンバ博士、WHOのUHC担当エグゼクティブ・ディレクターのピーター・サラマ博士、米国のグローバルAIDSコーディネーターのデボラ・L・パークス大使、シード・グローバルヘルスのCEOであるバネッサ・ケリー博士がパネリストを務めました。

タケダはグローバルCSRパートナーシップの仕組みを通して、グローバルヘルスのリーダーとの連携をさらに強化し、全ての人々により健やかで輝かしい未来をより早くお届けできるよう活動していきます。



写真：武田薬品工業/L HARA



国連総会におけるパネルディスカッション  
「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ達成に向け総力を結集：医療人材への投資」





## A Brighter Future Through a Better Workplace

### IN THIS CHAPTER

- ・グローバル・タレント・マネジメント
- ・ダイバーシティ&インクルージョン
- ・労働安全衛生



# Overview



## タケダは、患者さんへのゆるぎないコミットメントを示す グローバルなバイオ医薬品のリーディングカンパニーへと成長しました。

この成長は、世界各地で働く献身的な従業員がいたからこそ果たせました。タケダのミッションを継続し、将来に向けてさらに成長するには、私たちは優れた手腕と明確な目標をもつ多様なリーダー人材を獲得、育成し維持しなければなりません。これには、それぞれの従業員の貢献が評価されるインクルーシブで安全な活気あふれる環境が必要です。このようにして、タケダのバリューすなわち、タケダイズムと Patient, Trust, Reputation, Business に基づき、タケダはその独自の文化をさらに育んでいきます。

タケダは、従業員を支援するアプローチを通じて、全従業員がそれぞれのポテンシャルを最大限に発揮し、タケダでのキャリアを伸ばしていけるような、活気あふれる環境を整備しています。タケダは、約 80 カ国に拠点を持ちます。タケダは、様々な経験、背景や見解をもつ人々の力を結集して、革新的な医療の実現に向けて歩みを進めています。多様性はタケダがもつ強みであり、私たちが貢献すべき患者さんにとって大きなメリットとなります。

優れた職場の構築に向けたタケダの取り組みは、評価機関からも高く評価され、2019 年には「Global Top Employer」に認定された 14 社の 1 社として 3 年連続で評価されました。Global Top Employers は、トップ・エンプロイヤーズ・インスティテュートが毎年優れた人事制度を有する企業を認定するもので、10 項目の評価に基づき、従業員が職務的、個人的に成長できる最適な環境が整えられた企業が認定されます。

### Global Top Employers 評価項目

- 1 Talent Strategy (人材戦略)
- 2 Workforce Planning (人員計画)
- 3 Talent Acquisition (人材採用)
- 4 Onboarding (入社時オリエンテーション)
- 5 Learning and Development (能力開発)
- 6 Performance Management (パフォーマンス・マネジメント)
- 7 Leadership Development (リーダーシップ開発)
- 8 Career and Succession Management (キャリア開発および後継者育成)
- 9 Compensation and Benefits (報酬・福利厚生制度)
- 10 Culture (文化)



# グローバル・タレント・マネジメント



## 研究主導型の企業として、一人ひとりが違いを生み出す

タケダはタレント・マネジメントを積極的に行っています。タケダで働く全ての人々には、それぞれが提供した貢献によって評価されます。人材育成は優先事項であり、高い可能性を持つ人材を発掘し、質の高い対話（クオリティ・カンパセーション）を行い、新たな機会に備えて後継者を育成することを重視します。タレント・マネジメントは、人事部門、上司、そして部下とが、継続的に一体となって取り組みます。組織目標やバリュー、そして責任をしっかりと理解した従業員によってタケダの成功がもたされます。私たちは、上司と部下が明確な目標を設定し、頻繁にきちんとしたコミュニケーションを行うことで信頼関係を構築し、事業を牽引するためのツールを開発しました。

例えば、タケダのリーダーに求められる4つの要素を以下の通り定義しました。

- ・ 患者さんへの貢献、社会との信頼関係構築、レピュテーションの向上、ビジネスの発展を実現する革新的な方策を見出すため、会社全体を見渡す戦略的思考を実践する
- ・ 組織を成長させることに従業員がモチベーション高く取り組める環境を作る
- ・ 最も重要な優先事項を絞り込み、優れた成果を導き出す
- ・ 現在および未来のために、組織の能力を向上させる

従業員のパフォーマンスについて話し合うことは、タケダのタレント・マネジメントのプロセスで重要な側面の一つです。タケダは「クオリティ・カンパセーション」と呼ばれる考え方にに基づき、従業員同士でフィードバックを提供し、また受け取る環境を構築しています。このクオリティ・カンパセーションの取り組みを通じ、上司と部下との継続的な対話を促し、目標を設定し、強みを活かし、開発課題と明確にし、能力の向上を目指す環境づくりを行っています。タケダは、



頻繁な(またはリアルタイムの)対話を行い、部下が上司にフィードバックすることも推奨しています。このプロセスにより、上司も部下もともに成長することができます。

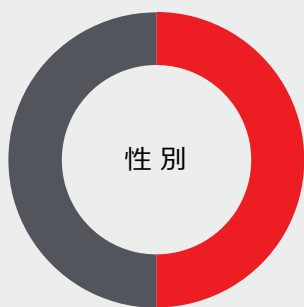
もうひとつの重要なツールとして、タケダの従業員がどのような気持ちで働いているかを評価する仕組みがあります。タケダに新たに入社する人々や、タケダを退職する人々が、どのように感じているかを調査します。また頻繁に全社的な調査を行い、フィードバックを求め、改善が必要な分野をあきらかにしています。



## 人材 AT A GLANCE

約 **50,000** 人

従業員数



性別

50% 女性

50% 男性



### 人材開発の取り組み

タケダの事業の成功は、常に新しいチャレンジが続けられるかどうかにかかっています。タケダは、従業員が学び、キャリアをさらに伸ばせる機会を提供することに力を入れています。これにより、現在の活動を優れたものとすると同時に、将来に向けた準備も進めています。

私たちは、各従業員の現在のパフォーマンスのみならず、将来のポテンシャルも評価する「トーキング・タレント(Talking Talent)」と呼ばれるプロセスで、組織内の人材のポテンシャルを把握しています。一人ひとりに焦点をあてるクオリティ・カンバセーションと並行して、適切にタレントレビューを行うことで、タレントプールの質を測定しています。これにより、差し迫った人材ニーズに対応できるとともに、タケダのビジョンに沿った長期ニーズにも備えることができます。またタケダは、これらのレビューをグローバルな人材育成に役立てています。豊富な人材を備え、後継者の育成を行いながら、従業員が目標を到達できるような環境づくりを行っています。

タケダは、様々な人材育成プログラムを実践しています。

- ・プレジデント・フォーラム：CEO と経営幹部が当事業を牽引する影響力のある未来のリーダーの育成に時間を投資する、タケダの最重要育成プログラムの一つで、世界中からシニアリーダーが集い、事業上の課題に取り組み、CEO と経営幹部 (Takeda Executive Team, TET) に提案します。
- ・アクセラレーター・プログラム：高いポテンシャルを持つ従業員向けの、キャリアの早い段階から行う部門横断的なプログラムで、地域をまたぐアサインメント、メンタリング、学習イベントを通じて育成しています。現在 30 名が参加し、TET によるサポートを受けています。

- ・グローバル・インダクション・フォーラム：最近入社したシニアリーダーへの入社研修で、CEO や経営幹部のファシリテーションのもと、タケダの歴史、企業文化、価値観と伝統について学び、伝統を守りつつ社会との信頼関係を醸成する責任感の醸成を目標としています。また、グローバル・インダクション・フォーラムは、シャイアーとタケダとが統合し一つの企業文化を確立するため、双方のリーダーが互いに協力し、価値観とビジネスモデルを共有する場にもなっています。世界的な企業として、タケダが事業を展開する地域のそれぞれで異なる人材ニーズを満たすことが重要です。このため、タケダが事業を展開する約 80 の国と地域で、多様な学習の機会を提供しています。タケダは、マサチューセッツ工科大学や、INSEAD ( 欧州、アジアと中東にキャンパスをもつ経営大学院 ) などの教育機関とのパートナーシップを通じて、従業員に学習機会を提供しています。



# A Conversation with Padma Thiruvengadam

Chief Human Resources Officer

**持続可能な価値創出に向けた活動のなかで、あなたが最も喜びに感じることは何ですか？**

タケダで働く人々は、タケダの成功のカギを握っています。タケダは、その人材プラットフォームにより、人材の能力強化や、企業文化に命を吹き込む職場環境の構築を行っています。タケダは、高い目的意識を持った人材を惹きつけ、キャリア形成に役立つユニークな経験を積める機会を提供できるよう務めています。このような機会によって、従業員が自信をもち、患者さんの生活に変化をもたらす活動に集中し、私たちが暮らし、働く地域社会にインパクトをもたらせるようになります。

**価値創出における最大の課題、また、最大の機会は何ですか？**

約 80 の国と地域で約 5 万人が働くタケダは、多様なスキルと経験をもつ人材の集まりです。このことは従業員のもつ視点、アイデアやアプローチが、タケダが事業を展開する市場や、私たちがサービスをお届けする患者さんの多様性に対応できることを意味しており、タケダにとって大きな力となります。しかしこの多様性のため、1 つの方法で全てに対処することはできません。そのようなことをすれば各自がもっている可能性を制限してしまうからです。私たちはリーダーとして、多様性のあるチームのマネジメントは容易ではなく、高いレベルのスキルが必要であることを知っておかねばなりません。

**あなたの仕事は、タケダの患者さんへの貢献をさらに高める上でどのような役割を果たしていますか？**

タケダの意志決定における「Patient, Trust, Reputation, Business」という枠組みは、私たちの行動の礎にあり、タケダを特徴づける大きな要素です。タケダはこの意志決定の枠組みを全ての行動に用い、全てのプロセスを「これは患者さんにとって正しい判断だろうか？」と問いかけるところから始めています。この問いかけは、あらゆるレベルの人材の採用、育成と確保においても中心となります。また、この問いかけは、タケダの人材プラットフォームを構築する際の指針となり、それぞれの従業員が、患者さんに最高の製品をお届けしつつ、各自がそれぞれの最高のポテンシャルを発揮する原動力となります。

## シャイアーの統合

シャイアーをタケダに統合する際、全ての従業員がバリューと意志決定の枠組みを理解し、統合した組織においてこの枠組みが用いられるよう活動に取り組んでいます。この取り組みは、One Takeda への移行を速やかに行うという目標に効果的です。この活動の一例として、私たちのミッション、ビジョン、バリューと経営理念の理解を共有するための従業員向けのワークショップを開催しています。このワークショップは、統合後の環境での成功に必要な研修を提供することと併せ全社を挙げて実施中です。グローバル・インダクション・フォーラムは、全てのリーダーに対して一体感を感じさせる重要な機会です。統合を加速するため、CEO は各地域のリーダーシップチームと共に各地でタウンホール・ミーティング

を定期的に行い、タケダの目標、戦略ロードマップや期待されるリーダーの役割を説明しています。

私たちは現在、業績管理、職務レベル、人材評価や報酬計算式などのグローバルな枠組みを策定中です。私たちは、各地域のニーズにあった事業活動が行えるよう配慮しています。私たちは、人材育成や学習プログラムを統一し、両組織の良いところを活用し、相互に強化できるよう取り組んでいます。新たな環境においてパフォーマンスの評価方法を理解したいと考える従業員のために、統合後の数カ月間は、上司と部下の間の対話の頻度と質を高めるための「クオリティ・カンバセーション」と称するパフォーマンスマネジメントの基本概念をグローバルに展開しています。



# ダイバーシティ& インクルージョン



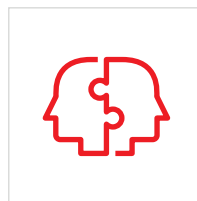
**タケダは、私たちが貢献すべき患者さんが多様であるのと同様に、  
多様な従業員が活躍でき、創造性や革新性を発揮できるよう努めています。**

本当の意味でのダイバーシティは、世界の様々な課題に、より効果的に対応するために不可欠な要素です。このため、従業員の個々の意見や才能を活かすために、従業員が受け入れられ、自信を持ち、活気にあふれるインクルーシブな環境の創出を目指しています。これにより、患者さんやタケダの医薬品を待ち望んでおられる医療関係者の皆さん、コミュニティに貢献するための革新的なアプローチを見出すことができます。これは、私たちが最高のポテンシャルを引き出す方法でもあります。

タケダは、従業員一人ひとりが性別、年齢、国籍、人種、宗教、信条、障がい、セクシャル・オリエンテーション、ジェンダー・アイデンティティ、ライフスタイルに関わらず、それぞれの強みや能力、熱意に応じた成長の機会を提供できる企業であることを目指しています。

タケダではダイバーシティ&インクルージョンの取り組みを進めていますが、さらなる促進が必要です。日本では、女性管理職比率をさらに上げる目標を立てています。タケダは、全社的にダイバーシティ&インクルージョンの促進に向けた下記などの取り組みを進めています。

- ・ジェンダー、人種/民族、セクシャル・オリエンテーションおよびジェンダー・アイデンティティおよび米国でのミリタリーステータスなどをテーマとする社員ネットワークを設立
- ・ダイバーシティ&インクルージョンに関するセミナー、研修、従業員プロジェクトを実施
- ・フレキシブルワークの促進
- ・女性従業員を対象とした人材開発プログラム
- ・LGBTQイベントの支援・参加、LGBTQ啓発セッションを全世界で開催



**38%**

グローバルにおける  
女性管理職比率<sup>1</sup>



<sup>1</sup>シャイアーの買収によるデータを除きます



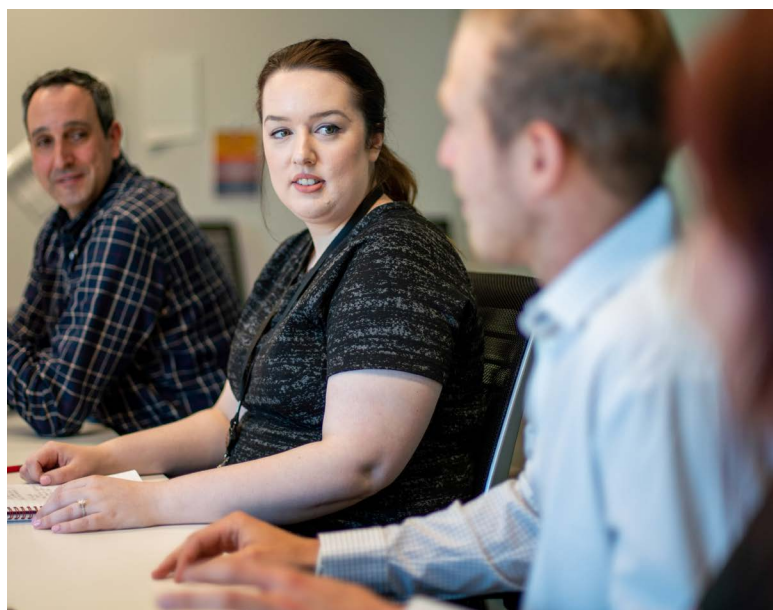
## 労働安全衛生



**タケダは、従業員と私たちが働き、住み、貢献する地域の健康と安全を守る方法で事業を行うことを約束します。**

これは、タケダの優先事項でありミッションである、「人々の健康と医療の未来に貢献する」ことを実現するための基本となります。社会との深い信頼関係を築くための一歩は、タケダの従業員とパートナーに健康で安全な職場を提供することから始まります。このミッションを実行するため、次の原則に従っています。

- ・タケダは、革新的な管理方法を実践し、自動車事故の防止に取り組み、潜在的な危険とこれに伴うリスクを認識しつつ、危険除去に務めるなどの活動を通じ、健康と安全のグローバルリーダー企業となるべく努力しています。
- ・タケダは、従業員が健康的な生活習慣を構築するために役立つツール、リソースやプログラムを提供しています。
- ・リーダーシップの関与や説明責任を通じて EHS( 環境、健康、安全 ) をタケダに根付かせ、従業員の業務のあらゆる面で EHS を考慮し、EHS のリスク低減に積極的に貢献するよう推進しています。
- ・プロセスの開発や改善に際しては、従業員、従業員の代表および必要に応じてパートナーが参加し、協議しています。

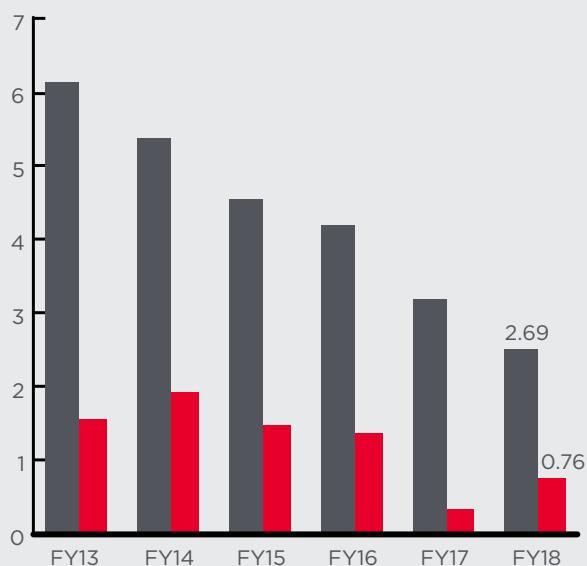




## Safe Takeda

タケダは、2020年度の休業災害度数率を2013年度比で30%低減するという目標を掲げ、2015年度より安全活動「Safe Takeda」を全社で推進しています。タケダは2017年度にこの目標を到達した後も、さらなる改善を進めています。

### Safe Takedaのパフォーマンス



● 労働災害度数率<sup>1</sup>

● 休業災害度数率<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 不休災害を含む

<sup>2</sup> 100万延実労働時間当たりの労働災害による死傷者数

集計範囲：旧タケダの全ての研究所、生産拠点、

オフィス、営業部門。全従業員の約95%を占める。

(シャイアーの買収によるデータを除く)

データより、事故の多くは製造現場で発生しており、休業災害で多かったのは、動いている物への激突、有害物等との接触、切れ・こすれ、および転倒・転落事故でした。このような背景を踏まえて、「Safe Takeda」は、これらの事故の削減を最優先課題として、取り組みを進めてきました。具体的には、安全週間における啓発活動、職場巡視、責任者やオペレーターによる安全宣言、事業所間でのベストプラクティスの共有などの活動を推進しています。オフィスと営業部門で報告された休業災害で多かったのは、転倒・転落事故と車両事故であり、一部地域のオフィスではこれら事故の削減を目指した活動を推進しています。

EHS監査の他に実施されている、安全向上策の一つがフラッシュレポートとフォローアップレポートの仕組みです。これにより事故の根本的原因を把握し、速やかに対策を講じることができます。また各サイトにおいて事故削減目標を設定しています。また、労働関連疾患も含めた取り組みを進めています。Safe Takedaは、従業員一人ひとりの安全意識を高め、安全文化を強固にしていきます。

2018年度には、各施設での重大なEHS事故の減少に向けた取り組みであるEHSアラートを開始しました。これは2段階の取り組みです。第1段階として、EHSアラートは、世界各地のタケダのサイトにおける重大なEHS



事故をマネージャーに通知します。事故と、重大な結果に至る可能性のあった事故が報告対象です。第2段階では、マネージャーは各チームにそのリスクを伝えます。このような事故の多くは、他のサイトでも発生する可能性があるためです。必要な場合は、リスクアセスメントを行い、リスク低減に向けた行動計画を策定します。このように、EHSアラートは情報伝達と予防管理の両面で活用されます。2018年度には、安全な機械操作、高所からの転落、リフト、構内委託業者の管理、移動式脚立に関する事例などを共有しました。

## EHSアラート：リスクを伝え、事故を防止する

Takeda

### SAFE TAKEDA

#### EHS Alert 004

ASIA – GMS SITE; 22ND OCTOBER 2018  
SAFETY – Non Lost time Injury: Unsafe chemical handling-Projections

**Description**


The quality control operator was conducting a routine solution preparation, inside the laboratory fume hood (1), using a 250ml volumetric flask in order to mix Methylene Chloride with Dimethyl-2-butene and Methanol. During the manual stirring step (2), the stopper unexpectedly blew up and the solvents released reaching the operator and causing him/her some minor eyes injuries. The consequences could have been even worse because of hazardous properties of these substances (3) and the unsuitable protection.

**Immediate Causes**

- While mixing the solvents, the internal pressure increased causing the content being projected from the flask.
- The fume hood's front sash glass window was not moved down by operator before starting operations (2).
- The operator was wearing conventional corrective glasses, without protection against droplets projections.

**Contributory and Root Causes**

- Inadequate SOP: the use of corrective glasses was allowed for this task.
- Inadequate safety culture: general safety rules were not followed (fume hood glass window safe position)
- MOC (management of change) non applied: a minor modification of solvents concentration was introduced without considering it as a significant change, then the task risk assessment was not reviewed.

**Actions**

- Update SOP: use of safety glasses even while wearing eye correction glasses (4), and sealed goggles (5) when there is a risk of projection.
- Re-training workers on general safety rules and specific procedures
- Improve safety culture: safety gembu walks, unsafe situations report, ...

**Key learning**

- Safety leadership, follow rules & SOPs.
- Proper risk assessment.
- MOC also for minor changes.

EHS ALERT 004 – SAFETY (UNSAFE CHEMICAL HANDLING) – PROJECTIONS

- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>1 EHS アラートの表題</li> <li>2 地域、分類</li> <li>3 内容</li> <li>4 写真</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>5 直接の原因</li> <li>6 根本的原因</li> <li>7 是正・予防措置(CAPA)</li> <li>8 重要な指針</li> </ul> |
|--|--|

Takeda

### EHS ALERT MANAGEMENT

EHS Alert : 004 SAFETY 22<sup>nd</sup> -OCTOBER 2018  
Safety (unsafe chemical handling) -Projections  
Site: ..... Date Analysis: .....

→ Communication Plan

Action	Y/N	When	Who	Status	Comment
Translation into local language					
E-mail managers					
E-mail employees					
Posted on EHS communication board					
Posted on workplaces boards					
Toolbox talk, Gemba Walk, Safety dialogs, etc.					
EHS meetings					
Screens					
Other 1:					
Other 2:					

→ Could it happen to us?

Date Analysis: ..... Could it happen to us? Yes / No (if "No" skip the following analysis)  
Where: Site Department/s .....  
Workstation/s .....

Action	Y/N	When	Who	Status	Comment
Risk Assessment Review					
Gap Analysis					
Engineering Actions					
Procedural Actions (SOP, etc.)					
Behavioural Actions (training, etc.)					
PPEs					
Other					
Other					
Other					
Other					
Other					

→ Follow-up

When has been the CAPA completed? Has been verified the effectiveness of action plan implementation? (Who, When, Conclusions) Key Learning

- |  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>1 EHSアラート記録</li> <li>2 情報伝達</li> <li>3 当施設での発生の可能性</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>4 CAPA</li> <li>5 フォローアップ</li> </ul> |
|--|---|

## 製造プロセスの安全への取り組み

製造プロセスの火災、爆発、漏洩による人と環境へのリスク低減の取り組みも重要な課題の一つです。各事業所では、潜在的な危険性を把握するためのリスクアセスメントに基づいてEHS目標を定め、下記などの項目についてリスク低減に向けた活動を推進します。

- ・ 老朽化施設に対する計画的保全を行っています。
- ・ 施設内の可燃性ガスや粉塵に引火する可能性のある静電気や可燃性・爆発性物質に対する安全管理を行っています。
- ・ 安全性マニュアルの作成などを含めた教育訓練を行っています。
- ・ 自然災害や緊急事態が発生したときの対応手順を定め、避難訓練、緊急時の対応訓練などを実施しています。
- ・ 各事業所での大規模工事においては、安全管理に万全の注意を払うとともに、協力会社と安全情報を共有し、事故や災害の防止対策を徹底しています。

製造プロセスにおける火災・爆発の防止は最優先事項です。安全性を高めるために、使用する化学物質及び製造する医薬品の物理化学的性質を把握し、その性質に見合った製造プロセスと製品の安全性アセスメントを開発しています。また多くの生産拠点では、重傷や生命が脅かされる可能性がある事故を検討する Serious Injury and Fatality (SIF, 重傷・死亡) プログラムを策定しています。SIFに至りかねない事故に着目し検討することを通じて、原因を解明し、予防措置を講じています。このプログラムは、タケダの全ての生産拠点での導入を進めています。





## A Brighter Future Through a Better Environment

### IN THIS CHAPTER

- ・環境マネジメント
- ・気候変動
- ・温暖効果ガス排出以外の環境負荷

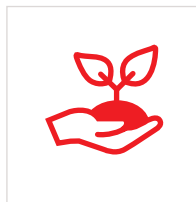


# Overview



## 地球環境保全に貢献する活動は、 患者さんの健康に対するタケダの取り組みの一環です。

近年、大気汚染問題、安全な水や天然資源の不足、生物多様性の減少、気候変動の影響など様々な環境問題が生じ、人の健康への脅威となっています。地球環境を守ることは患者さんの健康を守ることに繋がります。そのために、タケダは環境保全活動に取り組み、また事業活動に必要な資源の保全を進めています。また、タケダの従業員や未来の従業員、顧客、投資家をはじめとするステークホルダーからも、環境に留意し、タケダの製品のライフサイクルを通じた環境負荷削減の取り組みを積極的に実践することが期待されています。環境保全活動と持続可能な事業の実践は、タケダイズム（誠実・公正・正直・不屈）と4つのバリュー（Patient, Trust, Reputation, Business）に直接つながるタケダの責務でもあります。環境保全活動は、全世界の患者さんにより健やかで輝かしい未来をお届けするというタケダのミッションを果たすための活動の一つです。





# 環境マネジメント



## タケダは、1970年に「環境保全対策委員会」を設置して以来、 ほぼ50年間にわたり環境保全活動を継続しています。

タケダは2019年度にさらなるマイルストーンを達成し、環境・健康・安全(EHS)に関するグローバルポリシーを更新し、事業の進歩を反映し、ステークホルダーの期待に沿う内容としました。タケダの環境保全の方法、特に天然資源の保全とタケダの製品と事業が環境に及ぼす影響を低減する取り組みは、従業員、患者さん、規制当局および社会に対するタケダのレピュテーションを上げるものと考えます。

新たなEHSポリシーでは、以下の取り組みを行います。

- ・ タケダイズムとタケダの重要事項に示す価値観を反映します。
- ・ シャイアーとの統合により世界有数のEHSパフォーマンスを上げることを目標に、EHSプログラムの基盤を築きます。
- ・ EHSマネジメントシステムをISO 14001(環境)とISO 45001(労働安全衛生)などの国際基準に適合させます。
- ・ 全ての製品ライフサイクルを通じ、環境への悪影響を最小限に留めるよう積極的に取り組みます。
- ・ 廃棄物、エネルギーや水の使用量、CO2排出量の削減を行うことで、事業において環境の持続可能性を向上させ、気候変動に対する影響を低減するよう取り組みます。

EHSマネジメントは一歩進めることができましたが、さらに行うべきことは多くあります。タケダの生産拠点のうち20施設はISO 14001を取得しています。今後3年以内に全34施設でISO 14001を取得することを目標にしています。

タケダは、タケダ・エグゼクティブ・チーム(TET)のメンバーであるグローバル マニュファクチャリング&サプライ オフィサー(GMSO)を委



員長とする「コーポレートEHS委員会」を設置し、EHSの戦略と活動を監督しています。コーポレートEHS委員会は、タケダの全部門の代表者で構成し、EHSに関するタケダの戦略と目標を承認し、進捗を管理します。活動内容については、社長CEOを委員長とするビジネス・レビュー・コミッティーに報告しています。タケダのガバナンス体制には、サイトレベルのサステナビリティ・チーム、省エネルギーや水保全のワーキンググループも含まれています。

製造、研究およびBioLifeの施設のいずれも、グローバルEHSスタンダードに基づくEHS管理システムを構築し、運営する必要があります。タケダの各サイトは、Plan-Do-Check-Actサイクルに沿って、リスクと

機会を評価し、優先順位を設定して、リスク軽減策をとっています。具体的には、リスクと機会に対する目標の設定、目標達成のための行動計画の策定と実行、活動のモニタリング、さらなる改善のための結果のレビューなどを行います。さらに、タケダのコーポレートEHSチームは、EHSに関する規定と技術的なガイダンスを継続的に強化し、グローバルEHS管理体制の枠組みの元でEHSパフォーマンスの改善を行っています。

## 生産拠点のEHS認証<sup>1</sup>

	国名	都市	ISO 14001 環境マネジメントシステム	ISO 50001 エネルギーマネジメントシステム	OHSAS 18001またはISO 45001 労働安全衛生マネジメントシステム <sup>2</sup>
1	オーストリア	リンツ	X		
2	オーストリア	オルト・アン・デア・ドナウ	X		X
3	オーストリア	ウィーン	X		X
4	ベルギー	レシーヌ	X		X
5	ブラジル	ジャグアリウーナ	X		
6	中国	天津	X		
7	ドイツ	オラニエンブルク	X		X
8	ドイツ	ジンゲン	X		
9	インド	バシー、ナビ・ムンバイ	X		X
10	アイルランド	グレンジ・キャッスル		X	
11	イタリア	ピサ	X		X
12	イタリア	リエーティ	X		X
13	日本	福知山	X		
14	日本	光	X		
15	日本	大阪	X		
16	シンガポール	シンガポール	X		X
17	スイス	ヌーシャテル	X		X
18	米国	カリフォルニア州ロサンゼルス	X		X
19	米国	イリノイ州ラウンド・レイク	X		
20	米国	ジョージア州ソーシャル・サークル	X		X
21	米国	カリフォルニア州サウザンドオークス	X		X

1 一覧には、旧シャイアーと旧タケダの生産拠点を含みます。

2 タケダは現在、OHSAS 18001 認証から ISO 45001 労働安全衛生マネジメントシステムへの移行を進めています。





# A Conversation with Thomas Wozniewski

Global Manufacturing & Supply Officer

## 持続可能な価値創造に向けた活動のなかで、あなたが最も喜びに感じることは何ですか？

私は、タケダが環境、健康および安全について野心的な目標を掲げ、積極的に活動しており、今までの歩みがタケダを成功に導いてきたことを誇りに思っています。タケダのグローバルでの製造工程とサプライチェーンの全体で、タケダの製造活動が環境に及ぼす影響を低減する活動を積極的に行っています。また、タケダの全従業員が、タケダの持続可能な成長に貢献したいという高い意欲を持っています。

## 価値創出における最大の課題、また、最大の機会は何ですか？

外部ステークホルダーは、タケダのような企業に対して、環境や社会への影響を管理する高い能力を発揮することを期待しています。タケダは全社的に新たな技術の活用を進める機会を得て、管理を進めています。例えば、デジタル化は、タケダの生産拠点の環境への影響をより正確に分析し、最適化を行うことができます。また、タケダの拠点におけるプロセスの安全性、廃棄物発生量や水使用量の改善を実現するためのプログラムを実行しています。



## あなたの仕事は、タケダの患者さんへの貢献をさらに高める上でどのような役割を果たしていますか？

患者さんの健康を維持するだけでは十分ではありません。私たちは、地球を健康に保たなければなりません。タケダは、環境フットプリントの低減に向けた活動を通じ、クリーンな（清浄な）大気や水を守り、持続可能な未来に貢献していきます。



## 目標と進捗状況

タケダ環境自主行動計画は、課題とする環境問題を定め、中長期の目標を定めて、地球温暖化に向けた対策と、天然資源の責任ある使用を目指します。目標は毎年進捗を確認しています。また、目標達成のために、省エネルギーワーキンググループによるCO<sub>2</sub>ロードマップの作成、サイト間での省エネベストプラクティスの共有などの活動を推進しています。タケダの事業（シャイアーの買収により加わった事業を除く）における目標と進捗状況は、次のとおりです。2019年度末までにタケダとシャイアーの統合を反映した新たな目標を設定し、ワールドクラスの環境保全戦略を進めます。



## 環境削減目標

インパクトエリア	削減目標	基準年	2018年度末までの削減実績 <sup>2</sup>	目標年度
CO <sub>2</sub> 排出量	30%	2015	7.8%	2030
CO <sub>2</sub> 排出量	25%	2005	33.7%	2020
NO <sub>x</sub> 排出量 <sup>1</sup>	20%	2005	59%	2020
SO <sub>x</sub> 排出量 <sup>1</sup>	75%	2005	99.1%	2020
淡水使用量	30%	2005	48%	2020
廃棄物最終処分量(日本のみ)	60%	2005	68.3%	2020

1 施設内での燃焼により発生した硫黄酸化物と窒素酸化物

2 進捗状況は、シャイアーの買収による寄与を含みません。





進捗状況を把握する方法として、環境保全コストの投資額や費用額の把握・管理を行っています。環境保全コストの投資額には、排水処理施設などの環境施設の新規導入や既存設備の更新などにかかる費用が含まれます。費用額には、既存の環境設備の維持に要する物品・サービスの購入費や、環境保護に用いる材料の購入費が含まれます。2018年度の環境保全に対する投資額は19億5,600万円、費用額は50億8,600万円でした。タケダにおける省エネルギーに伴う経済効果は、約9,900万円でした。



## 環境保全のための投資<sup>1</sup>

分類		投資額(100万円)	費用額(100万円)
事業エリア内コスト	公害防止コスト	855	3,863
	地球環境保全コスト	920	208
資源循環コスト		150	813
管理活動コスト		31	202
合計		1,956	5,086

<sup>1</sup> 環境投資額と環境費用額には、シャイアーの買収による寄与を含みません。



## 世界環境デー

2019年度の「世界環境デー」では、世界各地のタケダの従業員が1週間にわたり地球を守るための啓発活動と環境保護活動を行い、グローバルヘルスと環境との関係を示す取り組みを展開しました。この「世界環境デー」に関連した取り組みは、世界中のサイトから社内のメッセージボードで共有され、トップトレンドになりました。世界環境デーには、タケダの従業員が全米植樹祭財団と共同で4万本の植樹を行いました。世界環境デーは、従業員がタケダの環境活動について知り、目標に向けた進捗状況を把握する機会となりました。

## EHS に関する監査体制

EHS に関する監査は、タケダの EHS 管理体制が有効であることを確認するガバナンス・監視体制として、重要な役割を果たしています。タケダのグローバル EHS 監査部門が主導するこのプログラムは、管理体制とコンプライアンスに関する監査が含まれています。EHS の法令遵守に関する監査は、対象となる事業所の国・地域の規制に精通した社外監査人と、社内の監査人が、協働して実施します。これらの監査では、各事業所内の内部統制について、タケダのマネジメントの要求事項ならびに基準・業務手順書、ならびに各国の規制要件への遵守状況を確認しています。

事業所は監査結果に基づき、是正および再発防止の計画 (CAPA) を策定します。事業所は、監査部門の代表者および各地域の EHS 部門より CAPA の承認を受けた後、指摘事例への対応が完了するまで、改善状況を報告します。また、タケダは、監査結果の傾向を分析し、翌年の重点課題を特定した上で、コーポレート EHS 部門が、ガバナンス体制の改善プロセスの一環とし



て、その課題への支援を行っています。コーポレート EHS 部門のヘッドは EHS 監査ヘッドとともに、これらの監査結果および CAPA の進捗状況をリスク・エシックス・コンプライアンス・コミッティーに報告します。EHS 監査部門は業務に伴う EHS リスクに応じて監査の頻度を決定しています。工場および研究所では、2~3 年ごとに監査が行われます。EHS リスクは、業務の種類、複雑さ、活動の規模および過去の EHS パフォーマンスなどにより異なります。2018 年度は、27 サイトで EHS 監査を実施しました。



## よりグリーンな働き方

持続可能な環境に向けたタケダの取り組みは、生産拠点だけではなく世界各地の事業所にも広がっており、以下などの活動を展開しています。

- ・タケダは、オフィスでのベストプラクティスを共有する「Takeda Goes Green」イニシアティブを立ち上げました。このプログラムにより、大阪オフィスの CO2 排出量が 8.2% 低減、日本国内のタケダのオフィス施設における排出量は前年比で 16.3% 低減しました。
- ・スイス・チューリヒのオフィスビルでは、新たな廃棄物管理の概念を取り入れています。このビルでは、各自のデスクにあるゴミ箱を廃止し、各フロアに設置したリサイクルステーションに、一般ゴミ、アルミ、ポリエチレン・テレフタレート (PET)、その他のプラスチックに分別して廃棄するシステムを導入しました。このシステムにより、年間で 9 万枚以上のゴミ袋を節約できると期待されます。
- ・米国マサチューセッツ州ケンブリッジのピネーストリートのタケダ研究所は、非営利団体米国グリーンビルディング協会の LEED 認証 (Leadership in Energy and Environmental Design) のゴールドレベルを取得しています。
- ・多くのオフィスビルでグリーンチームを結成し、次年度のサステナビリティ目標の達成に向け活動しています。



## 気候変動



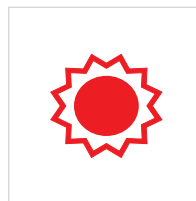
### 気候変動と地球温暖化が及ぼす影響はますます拡大しており、このまま放置すると、世界中の人々の健康に大きな影響を及ぼします。

タケダは1974年に省エネルギー対策委員会を設立し、気候変動に取り組んできました。私たちは、タケダの事業活動が自然環境に及ぼす影響を低減する活動を継続しています。特に、エネルギー使用量や温室効果ガス排出量の削減に注力しています。

タケダは、国際社会とともに環境保全活動に取り組む重要性を認識しており、「国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）」で採択された「パリ協定」を支持し、その実現に向けて取り組むことを宣言する「パリ行動誓約」に署名しました。また、科学的根拠に基づくCO2排出量の削減目標設定を推進する国際的なイニシアティブ ScienceBased Targets initiative に参加しています。さらに、気候変動に関する世界最大の企業主導型イニシアティブ「Caring for Climate」にも参加し、毎年CDPに参加し、気候変動に対する戦略、イニシアティブとインパクトを公表しています。

### ガバナンス

気候変動に対する取り組みは、タケダの経営幹部が監督しています。現在は、タケダ・エグゼクティブ・チームのメンバーであるグローバルマニュファクチャリング&サプライ オフィサー (GMSO) が、気候変動取り組みの最高責任者として社長 CEO から任命されています。そして、GMSOを委員長とする全部門横断組織「コーポレート EHS 委員会」を設置し、気候変動への取り組みを含む、EHS（環境、健康、安全）に関する戦略や活動を制定し、全社目標および重要課題を決定しています。また GMSO は、省エネルギー活動への設備投資資金を管理しています。各サイトは、再生可能エネルギーの導入などのプロジェクトの予算申請が行えます。また、全ての生産拠点と研究開発拠点のメンバーで構成される「グローバル省エネルギーワーキンググループ」が、ベストプラクティスの共有や、従業員の啓発活動を展開することで、省エネルギー活動を加速させています。



## 気候リスクへの対応

タケダは、気候関連リスクが事業活動に大きな影響を与えるという認識のもと、社長 CEO およびタケダ・エグゼクティブ・チームで構成されるビジネス・レビュー・コミッティーへのレポートラインを整備し、管理しています。また、独自のガイドラインに基づいて、工場・研究所などのサイトごとに気候関連リスクを評価しており、監査などによって明らかとなった気候関連リスクについては、リスク・エシックス&コンプライアンスコミッティーに報告し、全社のリスクマネジメントに統合することによって、適切な対応を行っています。タケダは、「気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) による提言」に沿った情報開示のさらなる充実を引き続き図っていきます。

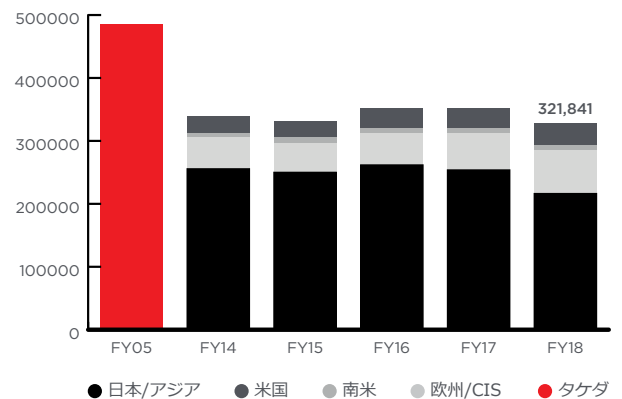
タケダは、気候変動によってリスクが高まると考えられる疾患に対するワクチンや医薬品の開発も行っています。例えば、デング熱は、蚊が媒介する深刻なウイルス感染症で、世界の約 50% の人々がその脅威にさらされており、毎年 3 億 9 千万人が感染していると推定されています。また、世界的な所有権機関 (WIPO) が主催する、顧みられない熱帯病 (NTD)、マラリア、結核の治療薬とワクチンの研究開発を促進させるための共同事業体である WIPO リサーチコンソーシアムに加盟し、途上国における保健医療分野の基盤強化に取り組んでいます。詳しくは「[保健医療](#)」(p.17~) の章をご覧ください。

## 戦略とパフォーマンス

気候変動への対応は、特にグローバル企業にとって、きわめて複雑な問題です。タケダは、事業とサプライチェーンの全体にわたり、カーボンフットプリントの低減に向けて様々な活動を持続可能な方法で展開しています。

2015 年に策定した「タケダ環境自主行動計画」(EAP) では、エネルギー起原の CO<sub>2</sub> 排出量を、2020 年度に 2005 年度比で 25% 削減するとの目標を設定しました。この目標は 2017 年に達成したため、気候科学と整合した新たな目標値として、エネルギー起原の CO<sub>2</sub> 排出量を、2030 年度に 2015 年度比で 30% 削減することを目標に設定しました。

## CO<sub>2</sub> 排出量 (トン-CO<sub>2</sub>)<sup>1,2</sup>



- 1 集計範囲：全ての生産拠点・研究所（武田薬品は本社、営業所などを含む）。シャイアーの買収による寄与は除外しています。
- 2 株式譲渡した子会社を除いて、過去のデータを再計算しています。

### 算定方法

算定対象 CO<sub>2</sub> 排出量は、化石燃料の燃焼による直接排出およびエネルギー起原の間接排出を対象としています。

CO<sub>2</sub> 排出係数 日本の実績については、「エネルギー使用の合理化に関する法律」に基づいており、購入電力の CO<sub>2</sub> 排出係数は、各電気事業者ごとの 2005 年度係数を使用しています。海外の購入電力の CO<sub>2</sub> 排出係数は、各年度、各電気事業者ごとの係数または IEA の各国ごとの係数を使用しています。





## タケダの事業活動に伴う 温室効果ガス排出の管理

省エネルギーとCO<sub>2</sub>削減活動をグローバルで進めるため、タケダはISO50001の要求事項を満たすエネルギーマネジメントシステムの全社的なスタンダードの運用を開始しました。グローバル省エネルギーワーキンググループが、この基準の実施をリードします。各サイトで新たなエネルギーマネジメントシステムを導入する際にはグローバル・エンジニアチームが支援し、エネルギー消費量の削減、エネルギー効率の改善、CO<sub>2</sub>排出量の削減とプロセスの最適化を進めます。このエネルギーマネジメントシステムを各サイトで実行する際には、エネルギーマネジメントチームを設置します。ベストプラクティスの共有は、サステナビリティを推進し、気候変動に取り組む際に大きな力となります。成功事例が共通の技術に基づくものであった場合でも、成功のエビデンスを共有すれば、他のサイトでの採用が進みます。例えば、ジンゲン工場（ドイツ）におけるエネルギー・アセスメント・プロジェクトの成功例は、全世界の生産拠点のネットワークで共有されています。エネルギー・アセスメントの結果に基づいて作成した計画には、エネルギー使用量、運用コスト、およびCO<sub>2</sub>排出量の削減につながる19項目の改善活動とプロジェクトが盛り込まれています。タケダは各サイトに改善策の提案を推奨し、75以上のヒントを得て、ベスト・プラクティス集としてまとめています。再生可能エネルギーの導入を進めることも、長期目標の達成に向けた重要な戦略です。タケダは、低炭素エネルギーの活用を推進しており、新規設備を建設する際には、太陽光発電設備の導入を検討しています。これまでに、中国、ドイツ、インドネシア、日本の生産拠点に太陽光発電設備を設置しました。また、欧州の工場で再生可能エネルギーを導入し、アスキー工場（ノルウェー）では、化石燃料からバイオ燃料への変換を行うことによってCO<sub>2</sub>排出量を削減し、SO<sub>x</sub>排出量もゼロになりました。

## 気候変動抑制に向けた パートナーとの連携

2018年からは、サプライヤーや顧客などの活動を含むバリューチェーン全体のグローバルなスコープ3排出量の算定を開始しました。これにより、

## 2018年度のCO<sub>2</sub> 排出量<sup>1</sup>

**6% スコープ 1 直接排出**  
(自社施設における化石燃料の  
燃焼)  
157,958 t-CO<sub>2</sub>

**7% スコープ 2 間接排出**  
(購入した電力・蒸気の使用に  
よる)  
163,883 t-CO<sub>2</sub>

**87% スコープ 3 間接排出**  
(スコープ 2 以外のタケダの  
バリューチェーンでの排出)  
2,224,643 t-CO<sub>2</sub>



- スコープ1 直接排出
- スコープ2 間接排出
- スコープ3 間接排出

## スコープ 3 排出量の詳細

83%	購入した製品・サービス
6%	スコープ1、2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動
4%	輸送、配送（上流）
3%	従業員の通勤
2%	リース資産（上流）

<sup>1</sup>CO<sub>2</sub> 排出量のグラフには、シャイアーの買収による寄与を含みません。

バリューチェーンの各段階におけるCO<sub>2</sub>排出量についての理解を深めます。このため、タケダはTrucostと提携し、2018年度のスコープ3排出量データの改善につなげています。タケダの上流・下流の活動を詳細に分析することで、最も大きなGHG排出源を評価し、タケダのスコープ3排出量の目標を策定することができます。

製品の輸送で生じるカーボンフットプリントの削減に向けた方法を見出すことは、CO<sub>2</sub>排出量削減活動の重要なポイントです。タケダは、複数のイニシアティブを通じ、2018年度は製品の輸送におけるCO<sub>2</sub>排出量を14%削減しました。例えば、出荷の際に複数の輸送方式を組み合わせることで、費用と全体としてのCO<sub>2</sub>排出量を削減しました。タケダはモーダルシフトを進め、航空便などのCO<sub>2</sub>排出量の多い輸送手段から船便などのCO<sub>2</sub>排出量の少ない手段への切り替えを進めています。また、地域においても、出荷物をまとめ、トラックに空きを作らないなどして、配達網の最適化を行っています。これによりCO<sub>2</sub>排出量が100トン減少し、乗用車21台が1年間走行したと場合のCO<sub>2</sub>排出量に相当する削減効果が得られました。また、電源不要で一定温度が維持できるハイブリッド軽量コンテナを用いるなど、様々な革新的技術を用いた対策も講じています。これらの革新的技術により、時間と費用の削減につながると同時に、環境性能が高まります。また、コンテナの重量とサイズを削減し、再利用可能な輸送用品を導入するなどの対策も進めています。タケダとシャイアーとの統合により、コストとGHG排出量の削減にシナジー効果が得られるものと期待しています。

カーボンフットプリントの削減に向けた活動を行う上で、以下の課題があります。

- ・需要の高まりと買収により、エネルギー消費量とCO<sub>2</sub>排出量が増加していること。
- ・GMP(医薬品などの製造管理及び品質管理に関する基準)のため、清掃作業や換気などのプロセスの最適化の機会に制限が生じること。
- ・再生可能エネルギーの普及や促進が進んでいない国では購入可能なグリーン電力に限りがあること。
- ・生分解やエネルギー消費量の少ない方法によって処理できない高薬理活性原薬や有害物質を含む排水を焼却処分すること。
- ・スコープ3排出量の削減として、サプライヤーが自社の排出削減目標に取り組む活動はタケダの直接の管理下でないこと。

## タケダの2018年度のスコープ3排出量<sup>1,2</sup>

バリューチェーン (スコープ3) のカテゴリー		GHG合計 (tCO <sub>2</sub> e)	スコープ3の割合 (%)
上流	1. 購入した製品・サービス	1,850,033	83%
	2. 資本財	16,115	<1%
	3. 燃料及びエネルギー関連活動	138,710	6%
	4. 輸送、配送 (上流)	81,425	4%
	5. 事業から出る廃棄物	1,155	<1%
	6. 出張	17,613	<1%
	7. 通勤	61,385	3%
	8. リース資産 (上流)	43,526	2%
下流	9. 輸送、配送 (下流)	該当なし	該当なし
	10. 販売した製品の加工	7,464	<1%
	11. 販売した製品の使用	該当なし	該当なし
	12. 販売した製品の廃棄	6,123	<1%
	13. リース資産 (下流)	該当なし	該当なし
	14. フランチャイズ	該当なし	該当なし
	15. 投資	1,094	<1%
合計 <input checked="" type="checkbox"/>		2,224,643	

<sup>1</sup> スコープ3排出量の表には、シャイアーの買収による寄与を含みません。

<sup>2</sup> スコープ3排出量の計算法については、Appendix (p.92) をご覧ください。



# 環境マネジメント

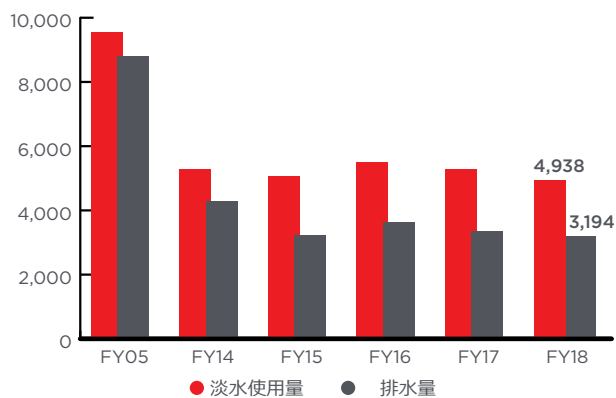
## 水

世界各地で水不足が深刻な問題となっています。タケダは工場と研究所の水使用の実態をよりよく把握し、削減するための活動を進めています。WBCSD（持続可能な開発のための世界経済人会議）が提供している Global Water Tool<sup>1</sup> に基づいた評価では、タケダの生産拠点は45%が水リスクが低い地域にあり、28%が水リスクが中等度、27%が水リスクが高いまたはきわめて高い地域にあります。  
<sup>1</sup> WBCSD（持続可能な開発のための世界経済人会議）が提供している、水関連のリスクを指標化できるツール。

「タケダ環境自主行動計画」では、2020年度の淡水使用量について、2005年度比で30%削減するという目標値を設定しています。2018年度の淡水使用量は4,938千m<sup>3</sup>で、2005年度比で48%削減となりました。タケダは、以下の考え方に基づいて、「排出する水の質」の管理を進めています。



### 淡水使用量/排水量の推移 (千m<sup>3</sup>)<sup>1,2</sup> ✓



1 集計範囲：全ての生産拠点・研究所。シャイアーの買収による寄与を除外しています。間接冷却水を含みません。

2 株式譲渡した子会社を除いて、過去のデータを再計算しています。





- ・排出中の化学物質によるヒトや生態系への影響を防ぐ
- ・法を遵守する
- ・科学的エビデンスに基づき、化学物質の濃度と環境毒性による管理を併用し、合理的に排水を管理する

これらに基づき、各種のプログラムとモニタリングツールを用いています。排水中に有害物質が含まれないよう、医薬品有効成分の回収・焼却を行うほか、処理後の排水を直接海に排出している光工場においてWET(Whole Effluent Toxicity)試験を実施し、水環境への影響を評価しています。またタケダは、土壌・地下水汚染の防止に努めており、汚染が問題となりうる事業所では、定期的な地下水のモニタリングを行っています。

## 廃棄物の削減

タケダは、廃棄物発生量を削減することを第一に、事業所内での有効利用と減量化や、社外での再資源化を促進することにより、最終処分量の削減に努めています。「タケダ環境自主行動計画」では、「2020年度の日本の廃棄物最終処分量について、2005年度比で60%削減する」という目標値を設定し、継続して活動を進めています。2018年度の日本での最終処分量は、ゼロエミッション活動やリサイクルの推進などで廃棄物削減に努めたことにより、124トンで、2005年度比で68%の削減となり、2020年度の目標を上回りました。

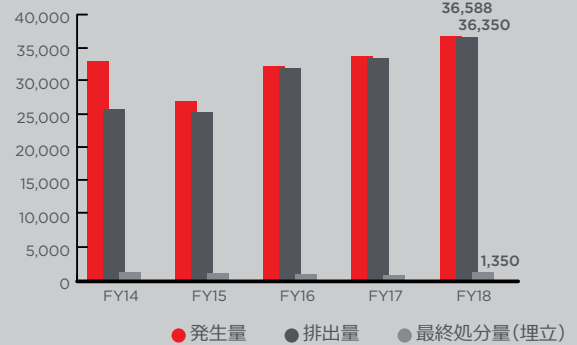
## 化学物質排出量の削減

タケダは、製品としての医薬品を含め、多種類の化学物質を取り扱っています。タケダは、「化学物質の環境への排出量削減に努め、削減にあたってはリスク評価に基づき、優先的に削減を検討する」という方針に沿って、化学物質の適正管理に取り組んでいます。

タケダは、医薬品有効成分(API)が環境に及ぼす潜在的影響と、製造・研究開発に伴う環境中の医薬品物質(PIE)に関する問題をさらに理解し、これを最小限に留めるよう取り組みを進めています。

生産拠点におけるPIEに関しては、国、州や自治体の排出物に関する規

## 廃棄物発生量・排出量・最終処分量の推移(トン)<sup>1,2</sup>



- 1 集計範囲:全ての生産拠点・研究所。シャイアーの買収による寄与は除外しています。
- 2 株式譲渡した子会社を除いて、過去のデータを再計算しています。

制に従い、厳格な廃棄物管理と廃水処理プロセスによる管理を行っています。タケダは、有害物質や副生物の環境中への排出を防止するため、医薬品製造受託機関(CMOs)へもEHSの必要事項を提供するなどの連携を行っています。

タケダは各国の規制要件に従い、環境リスクアセスメントや毒性・安全性評価を行い、米国ならびに各国における承認申請の要件として環境および患者さんにおける安全性を確保しています。タケダは、社内およびCMOsを通じて製造する製品について、開発の各段階において製品に求められる規制要件や製品に対する影響を常に見直し、環境への影響を最小限におさえます。またタケダは、EFPIA(欧州製薬団体連合会)のコンソーシアムの一員として、業界としてのPIE対策へのロードマップの策定を進めています。

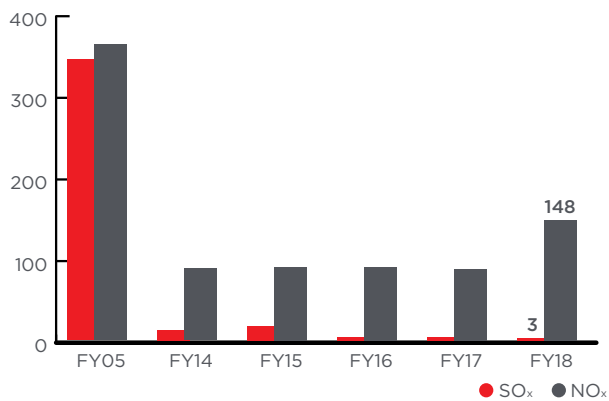
2018年度のタケダの揮発性有機化合物(VOC)の大気排出量は、104.8トンでした。日本でのPRTR届出対象物質は13物質で、大気への排出量は7トンとなりました。



## その他の排出

タケダは、各事業所において、NOx(窒素酸化物)・SOx(硫黄酸化物)・ばいじん排出量、COD(化学的酸素要求量) 負荷量の削減に向けた計画を策定しています。「タケダ環境自主行動計画」では、2020年度のNOx排出量について2005年度比で20%削減、SOx排出量については75%削減するという目標値を設定しています。2018年度のNOxおよびSOx排出量は、2005年度比でそれぞれ59%削減、99%削減となりました。

### NOx/SOx排出量の推移<sup>1,2</sup>(トン)



- 1 NOx/SOx 排出量は、全ての生産拠点・研究所を含み、シャイアーの買収による寄与を除外しています。
- 2 株式譲渡した子会社を除いて、過去のデータを再計算しています。



## 生物多様性保全

タケダは、地球の健康にとって生物多様性を保全することの重要性を認識し、「EHSに関するグローバルポリシー」に生物多様性保全に関する内容を盛り込み、生物多様性条約の目的をふまえて、事業所ごとに取り組みを進めています。

タケダは、製品の原料として、また研究開発過程での間接的な利用も含めて、生物資源を利用しています。原料としては、一般用医薬品の漢方・生薬製品に生薬を使用しています。主に栽培品が中心ですが、一部、野生品の生薬も利用しています。野生品については、安定的な調達のために栽培品への切り替えを検討しており、自生地の生物多様性の保全につながるものと認識しています。また、研究開発過程においても、遺伝資源を利用する場合は、生物多様性条約に十分配慮した活動を進めています。

タケダでは、生物多様性保全につながる生薬の自社栽培に早くから着手しています。例えば甘草は、漢方・生薬製品に用いられる重要な生薬で、古くから和漢薬の多くの処方に用いられてきました。生薬の安定供給および環境保全への取り組みの一環として、1996年から甘草の自社栽培に向けた研究を進め、2014年に国産初の「都1号」を品種登録しました。2020年までに国産甘草の自社製品への適用を開始し、その後、使用比率を高めて全て国産甘草に切り替える方針です。



## A Brighter Future Through Better Business

### IN THIS CHAPTER

- ・コーポレート・ガバナンス
- ・品質マネジメント
- ・エシックス & コンプライアンス
- ・医療倫理
- ・サプライチェーン管理



# Overview



**患者さんを中心に考えるミッションの実現には、競争力のある、企業価値の向上を追求する研究開発型グローバルバイオ医薬品企業のリーディングカンパニーとして、健全な事業を行う必要があります。**

強靱で誠実な事業を行うには、正しい事業運営体制が必要です。タケダは、グローバル企業にふさわしい事業運営体制の構築に向け、ステークホルダーや患者さんに貢献できる、品質、倫理、コンプライアンス、行動規準、サプライチェーン管理を含めた内部統制の整備・強化を進めています。これらの取り組みを通じて、企業価値を最大化し、患者さんに貢献するための迅速な意思決定に努めています。



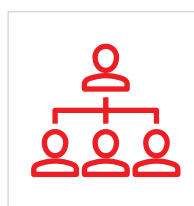
# コーポレート・ガバナンス

## タケダは、取締役会においてタケダグループの基本方針を定め、その機関決定に基づいてタケダ・エグゼクティブ・チーム (TET) が経営・執行を行う体制をとっています。

取締役会は現在、11名の社外取締役を含む16名の取締役で構成されています。取締役は、企業経営に関する高い見識と、大規模な企業統合の経験を有しています。TETは現在、年齢、出身地域が多様な11カ国を代表する男女19名のリーダーから構成されています。タケダは、社外取締役が、製薬業界の内外からの高い見識および健全な意思決定に必要な知見を提供することで、業務執行をより高いレベルにしているものと考えています。

また、当社取締役会の役割は、業務執行を監視・監督すること、さらに、企業経営に関わる戦略的案件や特に重要な事案に関する意思決定を行うことにあります。また、TETは、社長CEOおよび当社グループ各機能を統括するメンバーで構成され、事業運営を管理する最終的な責任を有しています。これにより、取締役会とTETとの間の効率的な役割分担を実現し、変化が著しい事業環境において迅速な意思決定が行えます。その他の監督案件は、主として社外取締役から構成されるコミッティーが取り扱っています。監査等委員会は、取締役の業務執行の監査その他法令および定款に定められた職務を行っています。また、指名委員会と報酬委員会は、取締役会に答申を行っています。

タケダの取締役会は、定款の定めに基づき、重要な業務執行の決定権限の一部を経営陣に委任しています。具体的には、ビジネス・レビュー・コミッティー、ポートフォリオ・レビュー・コミッティー、リスク・エシックス&コンプライアンス・コミッティー等での意思決定にあたり、一部の取締役に権限が委任されています。ビジネス・レビュー・コミッティーは、一般的な経営案件を所管し、ポートフォリオ・レビュー・コミッティーは研究開発および製品関連案件を所管します。2019年5月、タケダは、リスク管理の実効性を高めるため、監査・リスク・コンプライアンス・コミッティーの名称をリスク・エシックス&コンプライアンス・コミッティーに変更するとともに、その組織体制および役割等につ





いて見直しました。リスク・エシックス&コンプライアンス・コミッティ  
ーは、リスク管理、企業倫理およびコンプライアンス案件を所管します。

内部統制も、タケダのガバナンス体制の重要な構成要素です。グローバルな事業運営で直面したリスクについては、各事業・部門内に設置したリスク管理チームが管理します。また、各機能の役割と責任は、「タケダグループの経営管理方針 (T-MAP)」に基づいて明確にしています。定期的な内部監査やコンプライアンス・モニタリング・プログラムなどの実施により、グループの各事業および各部門における法令遵守ならびに適正な事業運営を担保しています。

グループ内部監査部門と、グローバル・マニュファクチャリング & サプライのコーポレート EHS(環境、健康、安全)部門は、「グループ内部監査基準」および「EHSに関するグローバルポリシー・ガイダンス」にそれぞれ基づき、タケダの各機能の内部監査を定期的に行います。

## トータルリワード基本理念

タケダは、TET およびグローバルに活躍する従業員に対して、患者さん、社会、従業員及び株主のみなさんへのコミットメントを果たすべく他社と比べて競争優位性があり、目的意識のある成果に報いるトータルコンペンセーションを提供できるように努めています。

長期的な企業の成長に加えて、統合成功へのタケダのコミットメントも

競争的差別化

グローバル・マインド  
ドセット/ローカル・  
アプリケーション

パフォーマンス  
インパクト

選ばれる企業

示すため、短期・長期的なインセンティブプランにおける 2019 年度の業績評価指標 (KPI) を設定しました。これにより、CEO、TET および従業員に対する報酬とタケダのビジネスにおける最重要事項の達成とを連動させることができます。**2019 年度の KPI に関する詳細は、こちらをご覧ください。**

### 取締役報酬

タケダが、グローバルにおけるベスト・イン・クラスであり、企業価値を追求する、グローバルな研究開発型のバイオ医薬品リーディングカンパニーへの変革を遂げるという目標を達成するには、取締役として貢献できる優秀で多様なビジネスリーダーを確保することが必要です。取締役の報酬は、グローバルに競争力のある水準とする必要があります。社内取締役を含む取締役の報酬等に対して助言を行う取締役会の諮問機関として、社外取締役で構成される報酬委員会を設置しています。社外取締役と監査等委員である取締役の報酬は、定額の基本報酬と株式報酬で構成されています。株式報酬は、報酬、会社業績と株価との連動性を強化し、中長期的な企業の価値向上に対する貢献意識を高める設計としています。

取締役報酬の設定にあたり、報酬委員会は、下記の原則と目標を示しています。

- ・タケダのビジョンの実現に向けた優秀な経営陣の確保・リテンションと動機付けに資するものであること
- ・常に患者さんを中心とするタケダのバリュー（価値観）をさらに強固なものとする一方で、中長期的な業績の向上と企業価値の増大への貢献意識を高めるものであること
- ・会社業績との連動性が高く、かつ透明性・客観性が高いものであること
- ・株主との利益意識の共有や株主重視の経営意識を高めることを主眼としたものであること



- ・タケダイズムの価値観に則り、取締役のチャレンジ精神を促すものであること
- ・ステークホルダーの信頼と支持を得られるよう、透明性のある適切な取締役報酬ガバナンスを確立すること



### リスク管理

タケダは、患者さんに貢献し、レピュテーションを守り、戦略を実行し、リスクを管理し、機会を捉え、事業運営に混乱をきたさないことを目標に活動に取り組んでいます。これらの目標を達成するため、コーポレート・ガバナンスとカルチャーにおいて、確実なリスク管理を重視しています。

リスク管理は、取締役会、TET、ビジネスユニット、事業部門、各国の生産・販売拠点、従業員とビジネスパートナーの責任と捉えています。

タケダの「グローバルリスク管理ポリシー」は、リスク管理に関する一般原則を示しています。ポリシーは以下の領域にわたり、各領域について標準業務手順書 (SOP) を定めています。

- ・全社的リスク管理 (REM: Enterprise Risk Management)
- ・事業継続マネジメント (BCM: Business Continuity Management)
- ・IT 災害復旧マネジメント (ITDR: IT Disaster Recovery)

リスクが発生した場合は、グローバル危機管理ポリシーに従い、「危機管理委員会」が調査を行います。ERM プログラムは、業界基準に適合するプログラムとして作成され、タケダの戦略・事業目標に影響を及ぼす可能性のある主要リスクの特定に用いられています。これらのリスクを把握し、影響を評価し、適切な対策を講じることが、タケダの長期的な価値を守り、最大化することにつながります。タケダの ERM プログラムは、事業をサポートするために、ツールやアプローチなどリスクに応じた手法を用いています。中期計画に沿った形で、リスクが顕在化する可能性、リスクの影響、リスクの緩和方法を向こう 3 年間の時間軸で評価しています。主要なリスクは、リスク・エシックス&コンプライアンス・コミッティーと取締役会に毎年報告しています。

リスク管理を事業内容に組みこみ、該当する領域は各自の重要なリスクを管理する責任を負います。主なリスク低減戦略には、事業継続計画、クライシスプランニング、プロセス再設計、マネジメントと技術の導入、モニタリング、コミュニケーション、トレーニング、第三者機関との取り組みなどがあります。

製薬業界におけるリスクには、R&D 情報の漏洩、法規制の遵守、知的財産権、特許権満了、有害事象、業界再編、政策変更に伴う影響、合併・買収 (M&A) および統合に関連する問題、安定供給、環境関連法令の遵守、競合、地政学的な動向、サイバーセキュリティ、天災や人災などがあります。





## クライシスマネジメント

タケダは、危機管理にも積極的に取り組んでいます。危機管理に関する基本的な考え方、原則・規準をまとめた「グローバル危機管理ポリシー」に従い、発生が予測される危機に対し可能な限りの予防措置を講じています。また本ポリシーに沿って、危機の種類に応じて的確・迅速に対応できるような体制・仕組みを構築し、危機が発生してもタケダが受ける人的・経済的被害や社会に及ぼす影響を最小限にしています。

タケダグループ各社は、それぞれの責任の下で危機管理体制を構築し、予防措置を講じ、危機発生時には対策を実施します。タケダ全体での対応が必要な事態には、タケダの社長 CEO を委員長とする「グローバル危機管理委員会」が対策の指示を行います。

### 危機管理トレーニング

タケダの CEO、多くの TET メンバーと上級管理者も参加する危機管理トレーニングを毎年異なる想定で実施しています。

### 2016

首都直下型大地震（日本）  
サイバー危機

### 2017

南海トラフ巨大地震（日本）  
ソーシャルメディアの危機

### 2018

当社拠点への乱射テロ  
（アメリカ）

### 2019

グローバルパンデミック  
子会社の不正行為から発生  
した製品危機

## 税務コンプライアンス

タケダが事業を遂行するにあたり、法人税・関税・使用税・資産税・印紙税・公益あるいは退職金積立に関する雇用関係税など、さまざまな形で事業に関する税金が生じます。また個人所得税、あるいは付加価値税（VAT）・消費税のような間接税の徴収・納付を行います。タケダが徴収・納付する税金は、地域経済とその充実に対するタケダの貢献の一部となっています。

タケダは、事業を行う地域の関連税務法規を遵守し、全世界の所轄税務当局と透明かつ専門的・建設的な関係を構築していきます。また、国内ならびに国際租税体系に対する透明性と公共の信頼を確保するよう取り組みます。ステークホルダーに対する日頃からの連携と信頼の獲得のための取り組みが、事業活動を行う地域における適切な納税に対する意識を高めています。

タケダは、適用される開示規制の遵守、ならびに税務の透明性への取り組みについて記載した文書「タケダグループの税務コンプライアンスに対する取り組み」をホームページで公開しており、以下の項目について開示を行っています。

- ・ガバナンス、リスク管理、コンプライアンス
- ・移転価格ポリシー
- ・税務戦略
- ・税務当局との取り組み
- ・現行の国際税務体制
- ・税務リスクに対する考え方

## 品質マネジメント



**我々が下す意思決定の質や我々が造る医薬品の質は、タケダのビジョン、ミッション、バリューに支えられています。**

品質は、タケダが患者さんへの貢献を支える大きな要素です。タケダのグローバルクオリティ体制は、品質に関する意思決定をタケダの重要事項である Patient（患者さん中心）、Trust（社会との信頼関係構築）、Reputation（レピュテーション向上）と Business（事業の発展）に基づいて行い、実践をサポートします。タケダの品質重視の姿勢は、革新性を重視し、継続的な業務改善と知識・ベストプラクティスの共有を組織的に展開する活動にも注力し、タケダの企業文化の重要な要素として共有しています。

### 品質ガバナンス

品質ガバナンスは、タケダの品質プログラムの鍵です。グローバルクオリティ体制は、サイエンス、システム、人材の3つの柱からなるビジョンに基づき、タケダの関連部署と事業パートナーと綿密に連携しています。クオリティ体制は、グローバルクオリティ・オフィサー（GQO）が率い、GQOは社長 CEO に直接レポートします。グローバルクオリティ・カウンシルは、トレンド分析に基づく問題発見と解決という視点を考慮に入れ、進捗管理を強化する体制としています。生産拠点のクオリティ部門では、組織横断的に機能、役割、責任の一貫性を維持するためのスタンダードサイトストラクチャーモデルを適用しています。

タケダの「as global as needed, as local as possible（グローバルでありつつ、ローカルニーズに対応する）」方針に従い、各地でのガバナンスへの対応、品質とコンプライアンスの監視、および経営陣の関与を確実に実行するためにローカルクオリティ・カウンシルを設置しています。クオリティ・カウンシルは、製造拠点からの情報を、地域単位のカウンシルを通じて連携させたり、グローバルに報告する機能を有しています。このプロセスは、問題を現場レベルで解決することを可能とするとともに、タケダ全体としての検証やレビューのための上層部への報告の機会を提供しています。





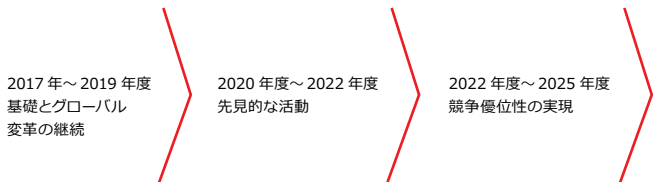
## 品質戦略

タケダは、品質への取り組みを一貫した優れた形で行うことを目指しています。グローバルクオリティは、全社において、品質に関する意思決定は、常に患者さんを中心に考えて行えるよう活動し、コンプライアンスの徹底を図っています。この取り組みの一つとして、品質に関する最高レベルの文章である品質ポリシーは、このアプローチを取り入れています。

グローバルクオリティは、タケダのビジョンの実現に向けたクオリティロードマップを大きく前進させました。クオリティロードマップはダイナミックかつ戦略的です。規制、業界環境やタケダにおける変化を反映できるよう毎年見直しを行い、必要に応じて更新しています。昨年は、研究所の変革、サプライヤーの品質マネジメント、グローバル vs. ローカル戦略の定義・明確化を進捗させつつ、品質要件を満たし、患者さんに革新的な製品をお届けることに注力しました。



## 2025年に向けたクオリティロードマップ



### サイエンス

確立と理解 > 可能性の向上 > 先進性の加速

### システム

データ収集と把握 > データ信頼性、統合 > データ志向、予測

### 人材

育成と行動 > 柔軟性とカルチャー > 優れた人材を引き寄せる組織に

## Shire 社の統合

2019年度には、タケダと Shire 社がそれぞれ運用していた品質マネジメントシステムを1つに統合するという大きなプロセスがありました。この統合プロセスの実行中、統合された事業を念頭におきつつグローバルクオリティ体制の再設計を行いました。これにより、グローバルスタンダードと必要なグローバル手順に焦点をあてた統一品質ポリシーを確立し、より良い結果を生み出すための方向性を示しました。このアプローチにより、手続きの透明性が増すとともに、近年の業界の要請に応えるものとなっています。

2019年を通じて主要指標の調整を行い、重要な品質 IT システムの統合に着手しました。円滑な移行の実現のため、QMSブリッジドキュメントを作成し2つのシステムを統合する際のガバナンスを強化しました。同時に、統合により、それ以外の活動への注意がそれることのないよう、明確なステップを定め、患者さんに製品をお届けすることに集中しています。

グローバルクオリティ・リーダーシップチーム (GQLT) は、旧タケダと旧 Shire 社のクオリティ体制が統合したシニア・クオリティ・リーダーシップチームです。GQLT は、ワールドクラスの Global Pathogen Safety 部門、Manufacturing Sciences Quality、Plasma & BioLife Quality、および Product Quality & Incident Management が含まれ、これらは旧 Shire 社の品質リーダーシップチームのリーダーらが指揮しています。GQLT は、グローバルクオリティ・ロードマップを、随時、更新・確認しています。

統合の一環として、プロセスとプログラムの統合を優先課題としました。クオリティ部門は、GMS とグローバルクオリティが連携して実施している「AGILE」プログラムで大きな役割を果たし、Lab Excellence (ラボラトリー内の効率向上) に向けた活動を展開しています。このプログラムは、Agile 4.0の一部として、タケダの GMSGQ ネットワーク全体で継続しています。Lean ツールを活用することで、ラボラトリー内の効率が高まり、検査担当者のエンゲージメントとエンパワメントが高まりました。

統合における最優先事項が、クオリティ部門内のシステムの電子化です。標準化、簡素化を行い、業界内のベストプラクティスを導入して統合活動を加速し、コストを管理し、複雑な業務を円滑化し、分析技術の向上に向けた基礎固めを行いました。統合に向けた計画策定は、3つの重要なシステムプラットフォームについて実施中です。いずれのプロジェクトも IT 部門とクオリティ部門が連携して行っています。

## 製品の品質と安全性

タケダは、品質に関して一貫して優れた取り組みが行えるよう活動しており、グローバルクオリティは全社的に取り組みを強化しています。

研究、開発から安全性評価に至る製品ライフサイクル全体においてベストプラクティスを追求しています。この取り組みが、革新的、安全、かつ効果的な製品を開発することを可能にしています。

グローバルクオリティは研究開発部門と連携し、各国の関連法規および社内の規則・標準の遵守を徹底しています。

研究と非臨床試験において、グローバルクオリティはデータの完全性に対する高い規準を設定しています。臨床試験は、フェーズや実施地域に関わらず、患者さんの安全性と健康、臨床試験データの完全性が確保できるよう設計しています。試験が科学的に正当なプロトコルに基づいて行われ、データの収集、分析と報告が透明かつ責任ある方法で行われるようにしています。

生産・販売段階の製品も、上市前と同じように高い水準の品質が求められます。全ての治験薬および医薬品の製造の際には、最新の GMP（医薬品などの製造管理及び品質管理に関する規準）を遵守しています。タケダ製品の完全性とセキュリティは GDP（医薬品の適正流通規準）の

遵守により保護されています。市場に出た製品に関して、臨床研究者や市場から品質に関する重要な情報を収集し、引き続き品質の保証に取り組んでいます。このように潜在的な問題点の早期検知と、プロセスの継続的な改善に努めています。

開発段階から、医薬品の製造販売終了に至るまで、安全性情報を継続して収集し、安全性に関する問題に発展する可能性のある事象の発見に活用しています。万一、潜在的な問題が発見された場合には、迅速に規制当局、医療機関、販売会社に通知するとともに、製品の適正使用方法について最新の情報を提供しています。

## 規制への取り組み

タケダは、規制当局との関係の維持・強化を進めています。具体的には、国際製薬技術協会 (ISPE)、Parenteral Drug Association (PDA)、Global Pharmaceutical Manufacturing Leadership Forum (GPMLF)、米国研究製薬工業協会 (PhRMA) などの業界団体の活動に積極的に参加し、最新の GMP（医薬品適正製造基準）の改善に向けたワーキングチームや提案に積極的に貢献しています。

また、米国食品医薬品局 (FDA)、ブラジル国家衛生監督庁 (ANVISA)、欧州医薬品庁 (EMA) が参加している会議にも出席し、活動に貢献しています。タケダはウイルス分野のグローバルリーダーとしての評価を得ており、Global Quality Pathogen Safety は病原微生物の安全性を検討する国際規制団体・学会で活動し、新興ウイルスの研究に積極的に取り組んでいます。





## エシックス& コンプライアンス



### バリューに基づく企業として、 タケダは法令遵守の枠に留まらない 倫理基準を満たす義務があると考えます

このことは、タケダのバリューであるタケダイズム（誠実・公正・正直・不屈）と、4つの重要事項である「Patient（患者さんを中心に考える）」「Trust（社会との信頼関係を築く）」「Reputation（レピュテーションを向上させる）」「Business（事業を発展させる）」に示されています。またタケダは、全従業員の倫理面における行動規範として「タケダ・グローバル行動規準」を制定し、18の言語で運用しています。

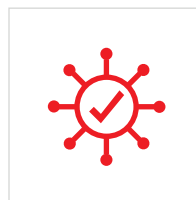
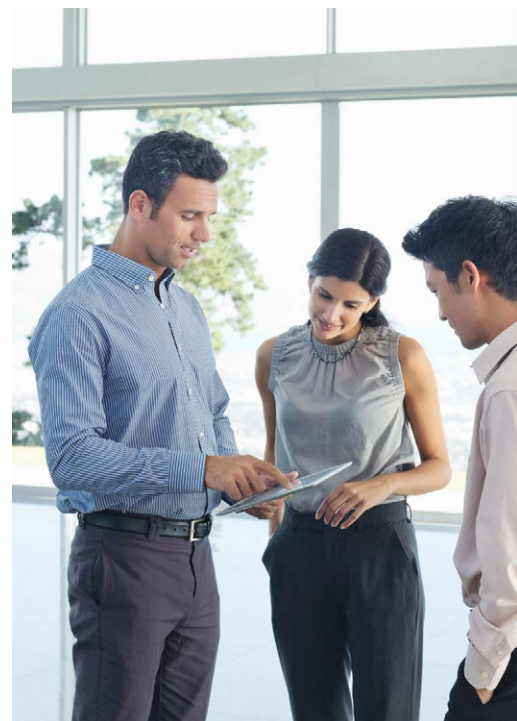
タケダの事業全体として倫理観の醸成やコンプライアンスを推進するため、チーフエシックス&コンプライアンスオフィサーおよびリスク・エシックス・コンプライアンス・コミッティーを設置し、両者が協働して倫理およびコンプライアンス事案が全社的なアプローチで対応する体制を構築しています。全てのグループ会社において、「タケダ・グローバル行動規準」および関係するグローバルポリシーに則したエシックス&コンプライアンス・プログラムの実行と強化を進めています。これらのポリシーの承認は、ビジネス・レビュー・コミッティー（BRC）が行います。

タケダは、最高水準の企業倫理を維持するため、世界中の全ての従業員が24時間利用できるタケダエシックスラインを整備しました。エシックスラインは18の言語で運用中で、タケダの従業員はこのエシックスラインを通じて質問したり、懸念を相談したりすることができます。2019年度上半期には、94件の相談が電話またはウェブ経由でタケダエシックスラインに寄せられました。誠意ある報告者が不利益に取り扱われることは一切ないように、ポリシーを定めています。

### 腐敗防止

タケダは常に、事業活動に誠実に取り組んでいます。このため、タケダは事業活動や意思決定に際して各種の規制を遵守するとともに、バリューに基づいた行動を行っています。

「贈収賄禁止グローバルポリシー」と「公務員及び政府機関との交流に関するグローバルポリシー」は、タケダの従業員の活動の指針となる主



な原則を示しており、違法または不適切ないかなる誘引、賄賂またはいかなる経済的利益を申し入れたり行うことを禁じています。また、ファシリテーション・ペイメントの支払いや支払いの許可も禁じています。贈収賄禁止グローバルポリシーは、自ら行うことが禁止されている活動を、第三者を介して行うことを禁じています。第三者仲介者を起用する場合、仲介者も贈収賄禁止グローバルポリシーを遵守することが求められます。タケダは、第三者仲介者に対してデューデリジェンスを実施し、タケダに対するリスクを実際にもたらしているか、もたらす可能性のある問題を特定し、対応する必要があります。

内部監査を定期的に行い、賄賂や不正の事例について調査するほか、モニタリングプログラムを実施し、ハイリスク取引のサンプルを見直してコンプライアンスの徹底を図ります。2019年、タケダは新たな企業リスク評価プロセスを展開し、コンプライアンスリスクの評価も含めた活動を行っています。タケダのグローバル行動規準と社内ポリシーは、全従業員に合理的かつ詳細、正確な帳簿、記録および勘定書を作成することを求めており、正確に記載された目的以外で支払いが行われないように徹底しています。





## 医療倫理

## 新薬の研究開発では、ヒト組織の研究使用に伴う問題や社会的弱者の保護など、様々な医療倫理上の問題が生じます。

タケダは、試験に参加する患者さんを守り、研究活動において高い倫理基準を遵守する姿勢を反映するポリシーおよび手順書を策定しています。

医薬品の研究においては、臨床試験を実施する前にヒトにおける安全性と有効性を予測するために、ヒト由来試料（血液、組織、細胞など）を利用する必要があります。ヒト由来の試料の採取と使用については、タケダのバリューと倫理基準に基づき、特に高い基準を設けています。日本においては、ヒト由来試料に関して、「研究倫理審査委員会」を設置し、「ヘルシンキ宣言」に則り、研究への試料使用の適否を審査しています。

ヒトの疾患に対する新薬候補の治療効果を検討するには、多くの場合、動物実験が必要となります。動物実験の実施にあたっては、研究所内委員会（IACUC: Institutional Animal Care and Use Committee）による詳細な審査と承認が必要です。



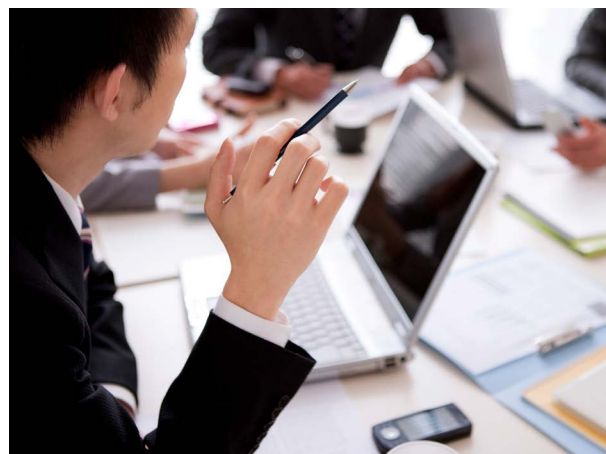
- ・動物実験においては下記の3Rsの実践を積極的に進めています。
- ・Refinement（動物の苦痛軽減）：動物の苦痛を軽減するため、試験手順の改善を進めます。
- ・Reduction（使用する動物数の削減）：試験に用いる動物の数を減らし、妥当性のある結果を得るために必要な最小限の動物を用いて試験を行います。
- ・Replacement（動物を使用しない実験への置き換え）：動物実験から、動物を用いない研究方法に切り替える取り組みを進めます。

また、タケダの研究開発施設は、AAALC インターナショナル（国際実験動物ケア評価認証協会）の完全認証を取得しています。AAALC は、自主的な審査と認証プログラムを通じて、科学研究における動物の人道的な取り扱いを促進する非営利組織です。

また、臨床試験の計画と実施、患者さんの自由意志による同意（インフォームド・コンセント）の取得、および試験参加者のデータの管理についても、タケダのバリューと倫理基準に従い実施しています。臨床試験は、試験参加者と患者さんの肉体的・精神的な健全性に貢献し、知見が得られる試験となるよう設計します。臨床試験の実施は、各国の規制要件、ヘルシンキ宣言 2013 年改訂版、ICH-GCP（日米 EU 医薬品規制調和国際会議ガイドラインにおける医薬品の臨床試験の実施の基準）、EFPIA/PhRMA の原則の宣言（欧州製薬団体連合会と米国研究製薬工業協会が作成）をはじめとする国際原則・基準に従っています。

臨床試験では被験者の人権に特に配慮し、新興国・途上国での臨床試験において、対象者に社会的弱者が含まれる場合などにも、被験者の人権が損なわれることのないよう十分な配慮を行っています。臨床試験にあたっては、インフォームド・コンセントの手順に則り、予想される効果や起こりうる可能性のある副作用などについて十分に説明を行ったうえで、患者さんが自らの意思で試験参加の是非を判断いただけるようにしています。臨床試験のプロセスは、試験参加者の肉体的・精神的な健全性を確保し、患者さんのプライバシーや個人情報を保護するよう策定しています。

タケダは、PhRMA や IFPMA（国際製薬団体連合会）などの業界団体に積極的に参加し、研究開発における倫理やコンプライアンスに関する最新動向を把握しています。また、グローバル・エシックス & コンプライアンス部門のメンバーは、The FCPA Blog（米国海外腐敗行為防止法の遵守と執行に関する解説・ニュースサイト）や、BioCentury（バイオ医薬品業界のニュースサイト）などのニュースメディアを常に参照しています。



## 倫理的販売・マーケティング

タケダでは「タケダ・グローバル行動規準」を定め、事業活動のあらゆる意思決定は第一に「患者さん中心」とすることとし、次に「社会との信頼関係構築」、「レピュテーションの向上」、「事業の発展」の4つの順番で行う方針を示しています。マーケティング活動においても、患者さんの利益を最優先することを方針とし、タケダ製品の処方、使用、投与、購入または推奨に対して不当な影響力を行使したり、またその見返りとして、金銭、ギフト、サービス、接待その他の利益を約束したり、申し出たり、提供いたしません。

タケダではこれらの方針を具体化するため、「医療関係者及び医療機関との交流に関するグローバルポリシー」、「患者および患者団体との交流に関するグローバルポリシー」、「公務員及び政府機関との交流に関するグローバルポリシー」「贈収賄禁止グローバルポリシー」などの各種グローバルポリシーを定め、倫理的な事業活動を推進しています。タケダは、各国の薬事関係法令や「IFPMA コード・オブ・プラクティス」（IFPMA コード）や、各国の業界団体が作成した行動基準などを遵守した活動を進めています。

医薬情報は、適切なチャネルを通じ、正確、公正に、バランスの取れた形で提供しています。タケダは、社内外のガイドラインに基づき、医薬品広告資料の審査を行っています。独立組織による審査を行う場合もあり、定期的なモニタリングを行っています。審査とモニタリングは、標準業務手順書（SOPs）に基づいて行っています。

教育訓練は、倫理的マーケティングの取り組みに欠かせない要素です。新たに入社した従業員には行動規準、贈収賄禁止ポリシー、職務に関連するポリシーや SOPs などの研修を行い、必要に応じて法令・通知・業界基準等のトレーニングも行います。既存の従業員に対するトレーニングの必要性も、継続的に評価しています。従業員に対して、定期的に倫理的な意思決定に関する研修を行い、バリューを行動に反映するためのトレーニングを行います。

## プロダクトスチュワードシップ

タケダの EHS（環境・健康・安全）戦略において、プロダクトスチュワードシップは重要な部分を占めます。タケダは、バリューチェーン全



体でプロダクトステewardシップの実践に取り組んでいます。製品がライフサイクル（研究、開発、購買、製造、物流、販売・消費、廃棄）を通じて環境や人の健康・安全に与える影響に配慮し、タケダの事業活動の全てにおいて、下記などのプロダクトステewardシップの実践に取り組んでいます。

- ・製品の安全性に関わるリスク情報の開示
- ・グリーンケミストリーを考慮した R&D プロセスの検討
- ・化学物質の危険性評価
- ・医薬品製造に用いる材料・素材に関する規制の遵守
- ・製品の製造業者への影響を考慮した作業方法の確立
- ・業務上暴露管理
- ・環境に配慮した包装容器の採用
- ・製品の輸送における CO2 排出量の削減
- ・製品の環境リスクアセスメント

## 偽造医薬品対策

偽造医薬品に代表される違法な医薬品の流通は、世界中の消費者と患者さんに重大な脅威といえます。タケダは、世界中の人々の健康に貢献するというミッションの一端として、グローバルプロダクトプロテクション（GPP）チームが、タケダ製品のサプライチェーンの安全性を確保するとともに、違法な活動に対応しています。

国内および国外の法執行機関、規制当局、他の製薬企業、業界団体と積極的に協力して、偽造医薬品や違法取引と戦う一方で、患者さん、取引企業、そして医療関係者などに偽造医薬品や違法取引に関する危険性について啓発します。国際製薬団体連合会（IFPMA）の "Fight the Fake"（二重薬に気をつける！）キャンペーンや安全なオンライン薬局連盟（ASOP）などとのパートナーシップを通じ、患者さんを啓発する活動に寄与します。

世界中の取引企業に対して常時、高度な安全性基準や要件を設定し、これらの要件に照らしてデューディリジェンスと監査を行ないます。医薬品の偽造、盗難や流用、改ざんを検知し事前に防ぐため、製品とパッケージに関して革新的な不正防止策を開発してきました。



# サプライチェーン 管理



**タケダは、グローバル製薬企業として、  
世界中の6万社ものサプライヤーから資材を調達し、  
医薬品の生産と流通を行っています。**

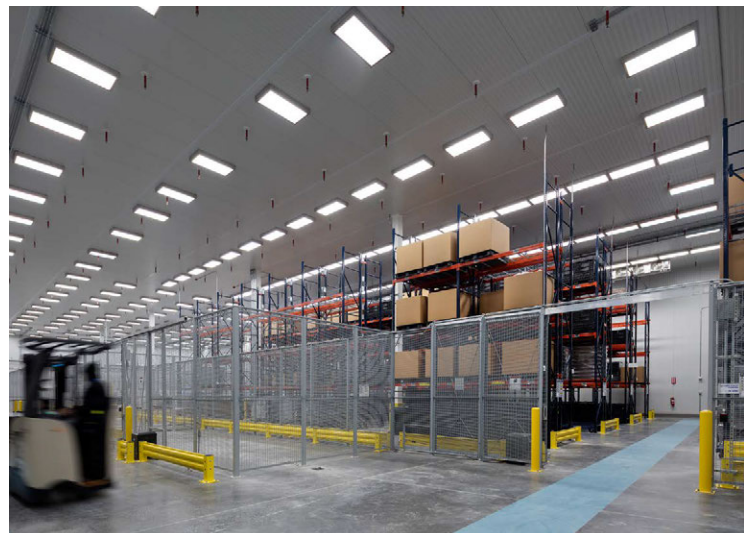
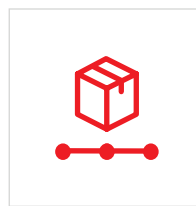
サプライヤーとの関係や、サプライチェーンにおける物資の流れを管理することは、タケダの医薬品のサステナビリティ、品質と安全性、さらには患者さんの健康にとって不可欠な活動です。

タケダの倫理的調達・サプライヤー・リスクマネジメントにおける取り組みは、タケダのバリューとタケダイズムに基づき、常に患者さんを中心に考え、ステークホルダーとの信頼関係を築き、タケダのレピュテーションを向上させています。倫理的調達・サプライヤー・リスクマネジメントを通じ、タケダと同様の事業活動がサプライヤーも行えるよう取り組んでいます。

## 倫理的調達・サプライヤー・リスクマネジメントのガバナンス

プロキュアメント・センターオブエクセレンスは、サプライチェーンにおけるリスクの管理、サステナビリティの向上を管轄するとともに、サプライヤーとの関係を強化しています。センターオブエクセレンスは、サプライヤーのパフォーマンスと革新性（SP&I）、倫理的調達とリスクマネジメント、およびサプライヤーの多様性の3点を重点的に管理します。SP&Iチームは、客観的データに基づきサプライヤーの能力を評価・活用するスコアカードを用いて、サプライヤーとの関係を管理します。スコアカードでは、社会・環境リスクとパフォーマンスを測定するKPIを定めています。SP&Iチームは、サプライヤーとともに、イノベーションをもたらす外部ソースを発掘する、パフォーマンス上の課題を明らかにして修正する、ワークショップなどを通じて改善の機会を継続的に提供するなどの活動も行っています。

2018年度には、倫理的調達・サプライヤー・リスクマネジメントプログラムは、これまでの地域ごとのアプローチから全社の戦略的アプロ





子に移行し、組織全体での新たなサステナブル購買の目標を定めました。各部門が、サステナブル購買の目標について合意し、責任を持ちます。

- ・キーサプライヤーと戦略上重要なサプライヤーによる、サプライヤー行動規範の確認
- ・キーサプライヤーと戦略上重要なサプライヤーに対するスタンダード・デューデリジエンスの完了
- ・サプライヤーに対し、オンサイト・サステナビリティ・アセスメントを実施

- ・EcoVadisプラットフォームによりサプライヤーとのエンゲージメントを行う
- ・小規模かつ多様なサプライヤーへの支出を目標額まで行う

## Ethical Sourcing and Supplier Risk Management

(倫理的調達とサプライヤー・リスクマネジメント)

倫理的調達・サプライヤー・リスクマネジメントは、タケダのサプライヤーが期待事項に応じて事業活動を行い、事業を不必要なリスクにさらすことなく、コストを超える価値の提供を支えられるように、サプライヤー管理を行います。



### タケダ・サプライヤー行動規範

- > 関連法規と  
> サプライヤー行動規範の遵守
- > ビジネス慣行
- > 動物保護
- > データプライバシー
- > 人権  
> 労働・雇用慣行
- > 健康・安全  
> 環境

### 期待事項の設定

- > サプライヤー行動規範

### サプライヤーのリスク

- > 財務
  - > 業務
  - > 継続性
  - > 戦略
  - > 社会・倫理&環境
- サプライヤーの所在地 + 支出 + セクター

### 採用時の必要条件

- > 標準的なデューデリジエンス

### ecovadis

サプライヤーの  
持続可能性  
パフォーマンスと  
リスクを評価



### 継続的モニタリング

- > EcoVadis
- > PSCI サプライヤー  
オンサイト監査

### 能力構築



### 継続的向上

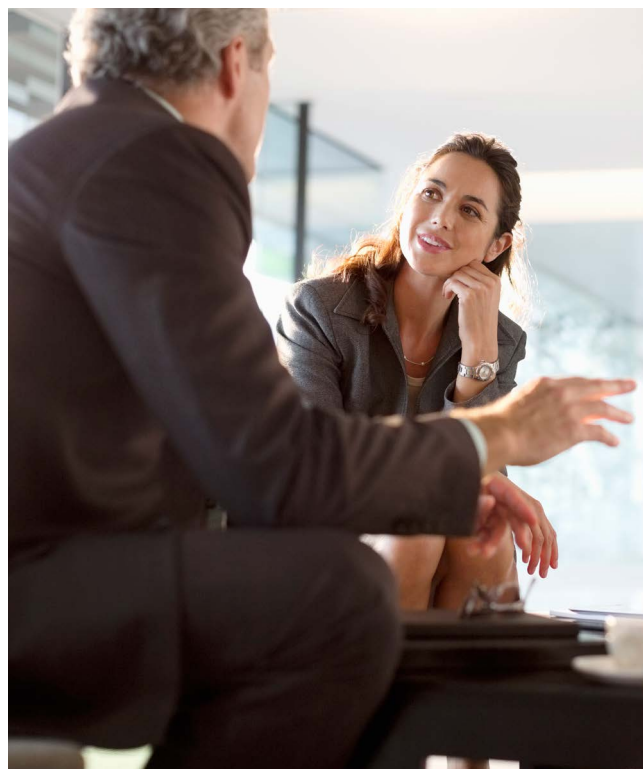
- > 是正行動計画
- > サプライヤーの能力構築

## 2018年度の実績

タケダのプログラムは、下記に関する主要な KPIs の年間目標の達成状況に基づき、進捗状況を評価しています。

- ・ サプライチェーンのリスクを管理し、サステナビリティを向上する
- ・ サプライヤーの CSR パフォーマンスを測定し、向上を図る
- ・ 小規模かつ多様なサプライヤーとのビジネスを増加させる

2018年度は、すべての指標で目標値を上回りました。プログラムでの追跡開始以来3年間で、タケダ調達部門の管理対象となる支出のあったサプライヤーの10% に対してKPIs の適用が可能となりました。この割合の上昇は続いており、今後は Shire 社の統合による協働によりさらに上昇が加速すると考えられます。



## 倫理調達とサプライヤー・リスクマネジメントプログラムのKPIs

プログラムKPI	2016		2017		2018	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績
<b>KPI 1</b> 支出上位、戦略的かつ推奨サプライヤーのうち、「タケダ・サプライヤー行動規範」の同意を得たサプライヤーの数	50	88	50社追加	92	50社追加	89
<b>KPI 2</b> PSCI サステナビリティ監査の実施数	30	28	40	40	40	47 <sup>1</sup>
<b>KPI 3</b> EcoVadis システム上の CSR& サステナビリティ・スコアカード登録数	試験運用の成功	31	100社追加	131	125社追加	233
<b>KPI 4</b> 多様なサプライヤーへの支出	目標額の設定なし	137百万ドル	131百万ドル <sup>2</sup> 190百万ドル <sup>3</sup>	234百万ドル <sup>2</sup> 187百万ドル <sup>3</sup>	162百万ドル <sup>2</sup> 190百万ドル <sup>3</sup>	179百万ドル <sup>2</sup> 231百万ドル <sup>3</sup>

<sup>1</sup> EHSサプライヤーのオンサイトアセスメントを2件含みます

<sup>2</sup> 小規模なサプライヤーと、小規模で多様性のあるサプライヤー

<sup>3</sup> 多様性のあるサプライヤーの全カテゴリーは、小規模事業およびその他の多様性のある事業を含みます。



## サプライヤー行動規範

タケダの「グローバル購買ポリシー」と「タケダ・サプライヤー行動規範」は、Ethical Sourcing Supplier Risk Management（倫理的調達とサプライヤー・リスクマネジメント）活動の基本となるもので、サプライヤーの社会・環境・経済的活動に対する評価と監督機能の改善に向けたタケダの取り組みを明確に示すものです。

「タケダ・サプライヤー行動規範」は、タケダと共にビジネスを行う上でサプライヤーに期待する事項を明記しています。「タケダ・サプライヤー行動規範」には、商業倫理と不正防止、人権、公正な労働・雇用規準、データプライバシー、動物保護、環境・健康・安全および同規範に述べる事項に対する全般的な管理システムにおける原則を明記しています。タケダは、「タケダ・サプライヤー行動規範」をその調達部門が管理するサプライヤーの認定プロセスの一部として用い、詳細検討に優先的に進めるサプライヤーを選択する際のリスクアセスメントモデルに用いています。

2018年度には、89社のタケダ主要サプライヤーや戦略上重要なサプライヤーを含む4,700社以上と、この行動規範に基づいたサステナブル購買の取り組みを進めました。累計で、タケダの購買部門が管理する支出の60%はサプライヤー行動規範に基づいており、今後も支出の80%この評価システムでモニターすることをことを目指し、数値のモニターを継続してきます。

### 業界連携：PSCI

「タケダ・サプライヤー行動規範」は、PSCI（製薬業界サプライチェーンイニシアティブ）のメンバーである39社以上のグローバル製薬企業が制定・使用している、サプライヤーの規準と要望事項を示すPSCI原則に合致しています。PSCIは、サプライヤー監査や、サプライヤーの能力向上を目的とする会議やウェビナー研修セッションを通じて、責任あるサプライチェーン慣行を促進しています。2018年度には、タケダは他のメンバー企業と共にPSCI サプライヤー会議を中国とインドで開催しました。中国の会議では124社のサプライヤーとメンバー企業が参加し、インドの会議では77社が参加しました。

## サプライヤー・デューディリジェンスとサステナビリティ・エンゲージメント

タケダは、患者さんに優れた品質の医薬品を届けるための重要な取り組みとして、購買のプロセスの中に「サプライヤー・デューディリジェンス」を組み込んでいます。6ステップでのスタンダード・デューディリジェンス・プロセスを基本としており、包括的な視点からサステナビリティや事業継続リスクなど、サプライヤーリスクを評価します。スタンダード・デューディリジェンス・プロセスは、動物保護、環境、健康、安全、労働および人権、財務健全性、腐敗・汚職、データプライバシーと情報セキュリティ等における潜在的なリスクの有無を評価します。上記は、タケダが検討する全リスク項目を示すものではなく、事業の利害関係者がサプライヤーを選択する際に、サプライヤー候補からの提供を期待する情報の種類を示しています。

何らかのリスクが特定された場合、必要に応じて社内外の専門家によるエンハンスト・デューディリジェンスを実施します。2018年度には2,333社についてデューディリジェンスを実施しました。また、Takeda Business Services

と連携して、サプライヤーの登録と認定をより効果的で効率的に進め、デューディリジェンスの完了や潜在的なリスクの検出をより確実に進めるよう進めています。

またサプライヤーのサステナビリティ評価を行いスコアカードに記録するデジタルシステムであるEcoVadisの活用をさらに進め、戦略上重要なサプライヤー、リスクのあるサプライヤーなどの各種サプライヤーのサステナビリティのモニタリングを行っています。EcoVadisプラットフォームを用いることで、サプライヤーのKPIsのモニタリングが行え、サプライヤーのエンゲージメントや向上のための基盤とすることができます。2018年度は、EcoVadisの活用の幅を拡げ、スコアカードのレコード数が233件増加しました。タケダは、サプライヤーがサプライチェーンに及ぼすインパクトをサプライヤー自身で管理する能力が高めることで、サプライヤーのパフォーマンスがさらに向上すると期待しています。

「タケダ・サプライヤー行動規範」に関連したサステナビリティリスクのあるサプライヤーを特定した場合、あるいはサプライヤーがEcoVadisから低スコアの通知を受けた場合は、年1回、第三者監査機関を用いて行う労働、倫理、環境、健康、安全、および管理システムのオンサイト・アセスメントプログラムの対象とし、PSCIのプロトコルに基づく監査を行います。2018年度には、13カ国で47社のサプライヤーに対するオンサイト・アセスメントを行いました。評価結果に基づき、サプライヤーのサステナビリティ・パフォーマンスの向上を目標とする改善計画を作成し、タケダとサプライヤーにより定期的な見直しを行っています。サプライヤーに対しPSCIサステナビリティ監査プログラムを開始した2016年以来、サプライヤーの初回監査後に改善計画が完了した割合は55.8%に達しています。（追跡評価を除く）

## 2018年度の購買部門の サプライヤー・デューディリジェンスと CSRパフォーマンス



スタンダード・デューディリジェンスを実施したサプライヤー  
(SDD) 地域別 n=2333

タケダ・サプライヤー行動規範

2018年度 - 4701 | 同意を得たサプライヤー

米州

SDD 実施サプライヤー — 710

PSCI アセスメント — 10

EcoVadis — 74 社

EMEA

SDD 実施サプライヤー — 811

PSCI アセスメント — 5

EcoVadis — 117 社

日本

SDD 実施サプライヤー — 185

PSCI アセスメント — 0

EcoVadis — 25 社

APAC

SDD 実施サプライヤー — 627

PSCI アセスメント — 30

EcoVadis — 17 社



### サプライチェーンにおける人権

タケダのサプライチェーンは世界全体に及び、労働者保護が不十分なことの多い新興市場も含まれています。タケダは、労働者の権利を含む人権を尊重することは、調達活動を行い、サプライヤーとの関係を構築する上で求められる責任のなかでも特に重要な部分であると考えています。

サプライチェーンに人権関連リスクの可能性を特定した市場においては、アセスメントを強化する仕組みを適用します。2018年度のアセスメントでは、強制労働、児童労働、奴隷労働や束縛などの現代奴隷リスクは認められませんでした。タケダは、「グローバル購買ポリシー」と「タケダ・サプライヤー行動規範」を通じて、バリューチェーン全体で上記問題に対する取り組みを強化しています。また、2018年度のアセスメントでは、強制労働、児童労働、奴隷労働や束縛などの現代奴隷法リスクは認められませんでした。

### PSCIサステナビリティ監査 結果の要約 -タイプ別割合

(追跡評価を除く)

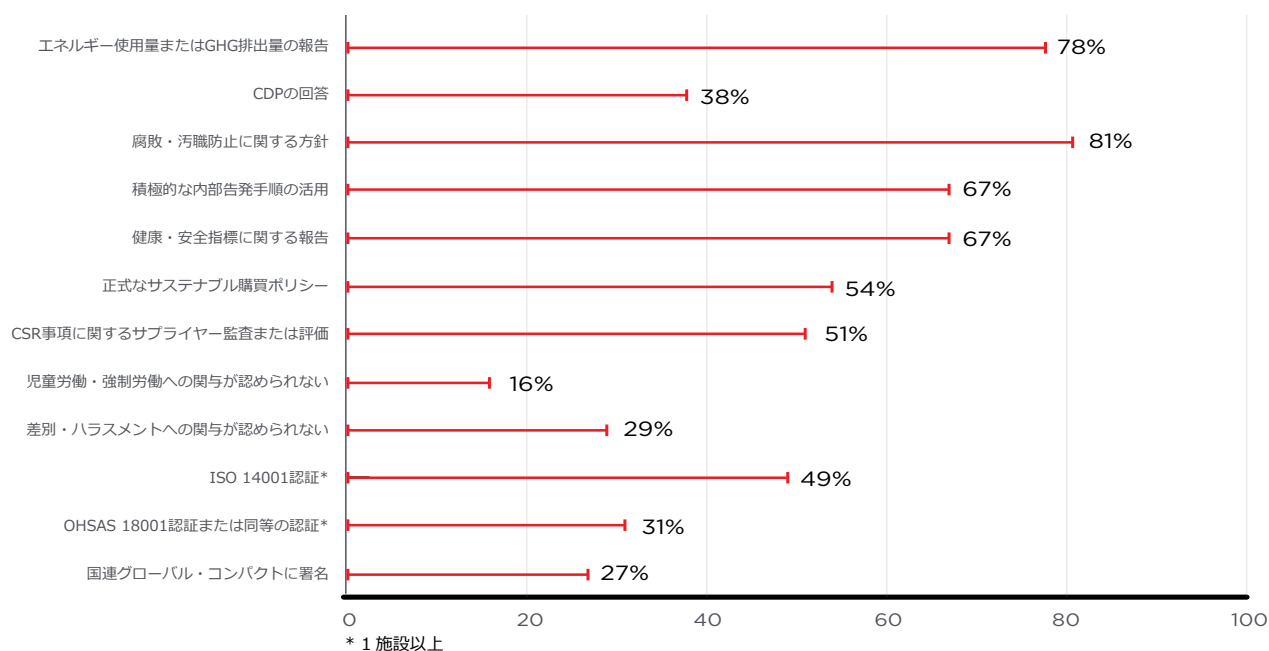


- 33% 健康・安全関連のコンプライアンス
- 25% マネジメントシステム
- 16% 労働 / 社会的責任
- 14% 環境コンプライアンス
- 12% 倫理



## サプライヤー・サステナビリティKPI (EcoVadis)

CSR関連のエビデンスを明示しているサプライヤーの割合



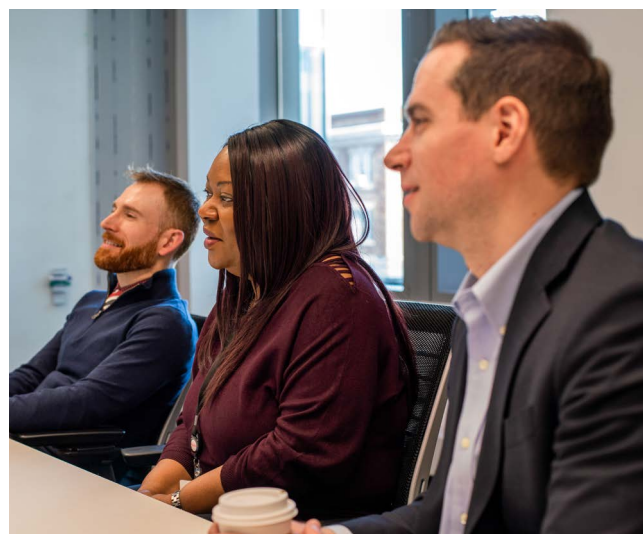
### 主要製品リスク

グローバル購買部門は、デューデリジェンスに基づき、患者さんへの安定供給に向けて、タケダ上製品の原材料を供給する全サプライヤーに関するリスクアセスメントを実施しています。対象製品は、重点疾患領域のもので、売上収益の70%近くを占めています。このプロセスでは、調達状況、特殊原材料、財務健全性、サステナビリティおよびレピュテーションリスク、契約条件/関係の強さ、コンプライアンスおよび品質リスクが検証されます。タケダは、これらの検討結果に基づき、リスクを軽減する取り組みを優先的に実施し、サプライヤーの継続的な向上と患者さんへの付加価値の提供を実施します。

### サプライヤー・ダイバーシティ

タケダが全世界の人々により良い未来をお届けするためのタケダのコミットメントは、地域社会や、あらゆる背景の人々にまで及びます。タケダは、世界中から資材を調達するグローバル企業として、そのサプライヤーのネットワークにもダイバーシティ & インクルージョンに取り組み、タケダの支出力を通じて変化を生み出せるよう努めています。

タケダは、様々な方法を用いてこの取り組みを進めています。例えば、タケダの購買ポリシーでは、見積をとる際に見積書の提出を求める複数のサプライヤーの少なくとも1社は、小規模企業または多様性のある企業とするよう定めています。米国では、購買支出のうち小規模企業および多様性のある企業への支出割合の目標値を定めており、2018年度には小規模企業に1億7,900万ドル、多様性のある企業（小規模企業、大規模企業を含む）に2億3,100万ドルを支出しました。タケダはその経済効果を検討する研究を行い、タケダは、サプライヤー・ダイバーシティ・プログラムを通じて小規模サプライヤーや多様性あるサプライヤーから調達することにより、地域社



会に特に大きな影響を及ぼすとの結果を得ました。2018年の「サプライヤー・デイ」はこの調査結果をビデオで上映し、全従業員にも配信しました。また、タケダにとってのサプライヤー・ダイバーシティの意義を説明する社内研修を行い、小規模サプライヤーや多様性のあるサプライヤーを取り上げたタケダ・サプライヤー・ダイバーシティ・プログラムについての最新情報やストーリーを社内でも共有しています。

タケダのニーズを満たす小規模サプライヤーや多様性のあるサプライヤーを発掘するため、タケダのサプライヤー・ダイバーシティ・プログラムと購買部門のリーダーらは、様々なアドボカシー活動に参加しています。2018年には、ダイバーシティ・アライアンス・フォー・サイエンス、全米女性経営者企業評議会（WBENC）、全米マイノリティ・サプライヤー育成評議会（NMSDC）、マサチューセッツ LGBT 商工会議所、女性事業センター（CWE）などのイベントに参加しました。マサチューセッツ LGBT 商工会議所は2018年に設立した団体で、タケダは設立時出資者の1社です。

- ・小規模サプライヤーや多様性のあるサプライヤーとの取引を拡大する際に妨げとなるのが、サプライヤー側がタケダのニーズを把握しておらず、グローバルな大企業への供給に躊躇するという状況です。タケダは、この課題の解決に向け、次の取り組みを行っています。
- ・研究開発部門やワクチン部門との取引のあるサプライヤーやサプライヤー候補を招いて行う「サプライヤー・ダイバーシティ・デイ」に、購買部門のスタッフ等が参加しています。
- ・小規模かつ多様なあるサプライヤーが事業内容に関するプレゼンテーションを米国マーケティング本部に対して行っています。
- ・サプライヤー・ダイバーシティ・メンターシップ・プログラムに購買部門等が参加しています。2018年には、タケダは3社に対してメンタリングを行いました。
- ・小規模企業や多様な企業に対して1対1研修等の研修を行い、タケダがサプライヤーに求める必要条件を満たすよう指導しています。

上記をはじめとする活動を展開したタケダのサプライヤー・ダイバーシティ・プログラムは、ダイバーシティ・アライアンス・フォー・サイエンスから2018年のプログラム・マネジャー・オブ・ザ・イヤーとして表彰されました。





## Appendix

### IN THIS CHAPTER

- ・被災地支援
- ・Social Value 参考文献一覧表
- ・スコープ 3 排出量算定方法
- ・環境・健康・安全パフォーマンスデータ
- ・国連 GC アドバンスドレベル COP 対照表
- ・GRI スタンダード対照表
- ・第三保証
- ・重要な注意事項

## 被災地支援

従業員が生活し、働く地域に自然災害が発生したときには、タケダは被災地域が最も良い形で対応できるよう、支援を行います。タケダの支援は、募金から従業員ボランティアまで多岐にわたります。日本国内では、タケダは被災地、特に震災地の支援に取り組んでいます。2011年の東日本大震災による被災地に対する復興支援活動として一般用医薬品アリナミン類の収益の一部を拠出するプロジェクト「日本を元気に・復興支援」のプログラムの一つである「タケダ・いのちとくらし再生プログラム」は、2021年までの支援期間の最終段階にあります。また、従業員ボランティアのサポート、被災地の特産品を社内で販売する「(労使共催)復興支援企業内マルシェ」など、幅広い支援活動を行っています。

## 熊本地震による被災地支援

2016年4月に発生した熊本地震による被災地に対する支援として、労使共同のマッチングギフトを含む約2,230万円の寄付金を支援団体に寄付したほか、地震発生直後の緊急期の対応として、一般用医薬品や支援物資の提供を行いました。

さらに、2018年7月に西日本で発生した平成30年7月豪雨に対して、労使共同でマッチングギフトを実施し、820万円を社会福祉法人 中央共同募金会に寄贈しました。

## 「日本を元気に・復興支援」の支援先一覧

	プログラム名	支援先	支援期間	拠出額
いのちとくらし	 タケダ・いのちとくらし再生プログラム	日本 NPO センター	10年間(2011年~2021年)	12億円
	 タケダ・赤い羽根広域避難者支援プログラム	中央共同募金会	5年間(2014年~2018年)	2億9,008万7,207円
	 災害ボランティア・NPO サポート募金	中央共同募金会	第7次助成(2012年)	2,000万円
	 タケダ・キャパシティ・ビルディング ・イニシアティブ	東日本大震災現地 NPO 応援基金	3年間(2012年~2014年)	2,000万円
	 クリニクラウン東北支援事業	日本クリニクラウン協会	6年間(2013年~2018年)	1,052万2,223円
産業復興	 IPPO IPPO NIPPON プロジェクト	経済同友会	4年間(2011年~2015年)	8億2,972万912円
	 東北未来創造イニシアティブ	東北ニュービジネス協議会	5年間(2012年~2016年)	2,000万円
次世代育成	 TOMODACHI	日米カウンシル	10年間(2011年~2020年)	1億8,000万円
	 BEYOND Tomorrow	教育支援グローバル基金	3年間(2011年~2013年)	6,000万円
	 ARK NOVA こどもの音楽プログラム	ARK NOVA プロジェクト	3年間(2013年~2015年)	4,000万円
	 OECD 東北スクール	福島大学	1年間(2013年)	1,000万円
政策提言	 日本再建イニシアティブ	日本再建イニシアティブ	10年間(2011年~2020年)	5億円
	 岩手県山田町の高齢者健康 ・生活総合支援プロジェクト	日本医療政策機構	2年間(2012年~2014年)	2,500万円

合計：32億533万342円



## Social Value 参考文献一覧表

Indicator	Valuation Approach	Multiplier	Source	Link
自社に創出した経済価値 (内部性)	Net profit – dividend + depreciation, amortization, and impairment losses	N/A	Takeda Annual Securities Report [p.136]	<a href="https://www.takeda.com/investors/reports/quarterly-announcements/quarterly-announcements-2018/">https://www.takeda.com/ investors/reports/quarterly- announcements/quarterly- announcements-2018/</a>
ステークホルダーに創出 した経済価値 (外部性)	Salaries and bonus, interest on loans, taxes paid, and dividends	N/A	Takeda Annual Securities Report [p.136]	<a href="https://www.takeda.com/investors/reports/quarterly-announcements/quarterly-announcements-2018/">https://www.takeda.com/ investors/reports/quarterly- announcements/quarterly- announcements-2018/</a>
戦略的なコミュニティ 投資	Amount invested in community projects multiplied by a specific social return on investment (SROI) multiplier based on project characteristics  The SROI is dependent per project	22.6	Masters R, Anwar E, Collins B, et al. (2017). Return on investment of public health interventions: a systematic review. J Epidemiol Community Health. 71:827-834.	<a href="https://jech.bmj.com/content/71/8/827">https://jech.bmj.com/ content/71/8/827</a>
		11.8	Hutton, Guy. (2012). Global costs and benefits of reaching universal coverage of sanitation and drinking- water supply. Journal of Water and Health. 11. 1-12.	<a href="https://iwaponline.com/jwh/article/11/1/1/2773/Global-costs-and-benefits-of-reaching-universal">https://iwaponline.com/jwh/ article/11/1/1/2773/Global- costs-and-benefits-of-reaching- universal</a>
		3.2	Montenegro, C. & Patrinos, H. (2014). Comparable Estimates of Returns to Schooling Around the World. Policy Research working paper; no. WPS 7020. Washington, DC: World Bank Group.	<a href="http://documents.worldbank.org/curated/en/830831468147839247/pdf/WPS7020.pdf">http://documents.worldbank.org/ curated/en/830831468147839247/ pdf/WPS7020.pdf</a>
		22.6	Masters R, Anwar E, Collins B, et al. (2017). Return on investment of public health interventions: a systematic review. J Epidemiol Community Health. 71:827-834.	<a href="https://jech.bmj.com/content/71/8/827">https://jech.bmj.com/ content/71/8/827</a>

## Social Value 参考文献一覧表(continued)

Indicator	Valuation Approach	Multiplier	Source	Link
戦略的なコミュニティ投資	Amount invested in community projects multiplied by a specific social return on investment (SROI) multiplier based on project characteristics  The SROI is dependent per project.	21.48	White et al. (2011). Costs and cost-effectiveness of malaria control interventions – a systematic review. <i>Malaria Journal</i> , 10. 337	<a href="https://malariajournal.biomedcentral.com/articles/10.1186/1475-2875-10-337">https://malariajournal.biomedcentral.com/articles/10.1186/1475-2875-10-337</a>
		21.48	White et al. (2011). Costs and cost-effectiveness of malaria control interventions – a systematic review. <i>Malaria Journal</i> , 10. 337	<a href="https://malariajournal.biomedcentral.com/articles/10.1186/1475-2875-10-337">https://malariajournal.biomedcentral.com/articles/10.1186/1475-2875-10-337</a>
		\$27	Resch, S. et al. (2011). Economic returns to investment in AIDS treatment in low and middle income countries. <i>Plos one</i> , 6. 10.	<a href="https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC3187775/">https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC3187775/</a>
		2.87	Masters R, Anwar E, Collins B, et al. (2017). Return on investment of public health interventions: a systematic review. <i>J Epidemiol Community Health</i> . 71:827-834.	<a href="https://jech.bmj.com/content/71/8/827">https://jech.bmj.com/content/71/8/827</a>
		22.6	"Safe Work Australia (2012). The cost of work-related injury and illness for Australian employers, workers and the community: 2008-2009.  HSE (2016-2017). Costs to Great Britain of workplace injuries and new cases of work-related Ill Health – 2016/17	<a href="https://www.safeworkaustralia.gov.au/system/files/documents/1702/cost-of-work-related-injury-and-disease-2012-13.docx.pdf">https://www.safeworkaustralia.gov.au/system/files/documents/1702/cost-of-work-related-injury-and-disease-2012-13.docx.pdf</a>  <a href="http://www.hse.gov.uk/statistics/pdf/cost-to-britain.pdf">http://www.hse.gov.uk/statistics/pdf/cost-to-britain.pdf</a>



Indicator	Valuation Approach	Multiplier	Source	Link
労働安全衛生	Number & type of occupational incidents multiplied by employee & community cost per incident	3,300 – 3,550,000 USD/incident	Safe Work Australia (2012). The cost of work-related injury and illness for Australian employers, workers and the community: 2008-2009.  HSE (2016-2017). Costs to Great Britain of workplace injuries and new cases of work-related ill health – 2016/17	<a href="https://www.safeworkaustralia.gov.au/system/files/documents/1702/cost-of-work-related-injury-and-disease-2012-13.docx.pdf">https://www.safeworkaustralia.gov.au/system/files/documents/1702/cost-of-work-related-injury-and-disease-2012-13.docx.pdf</a>  <a href="http://www.hse.gov.uk/statistics/pdf/cost-to-britain.pdf">http://www.hse.gov.uk/statistics/pdf/cost-to-britain.pdf</a>
廃棄物	Total waste sent to landfill with energy recovery (tonnes) multiplied by shadow price for waste and correction coefficient impact waste disposal method	Dependent on waste disposal method between 24 USD/tonne 250 USD/tonne	CE Delft (2017) Handbook Environmental Prices. Dijkgraaf, Elbert & Herman R.J. Vollebergh (2003) Burn or Bury?: A Social Cost Comparison of Final Waste Disposal Methods	<a href="https://www.cedelft.eu/en/publications/2012/environmental-pricing-manual-2017">https://www.cedelft.eu/en/publications/2012/environmental-pricing-manual-2017</a>
大気汚染	Tonnes of pollutants multiplied by shadow price of air pollutants and correction coefficient population density	Dependent on air pollutant	Department for Environment and Rural Affairs (2019). Air Quality Damage Costs	<a href="https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/770576/air-quality-damage-cost-guidance.pdf">https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/770576/air-quality-damage-cost-guidance.pdf</a>
CO <sub>2</sub> 排出	Total GHG emissions multiplied by internal carbon price	\$137.40/tCO <sub>2</sub> e	N/A	N/A
水	Direct net water consumption [per level of scarcity] multiplied by social cost of water	0.12-17.79 USD/m <sup>3</sup>	TEEB for Business Coalition (2013) Natural Capital at Risk: the top 100 externalities of business.	<a href="https://www.trucost.com/publication/natural-capital-risk-top-100-externalities-business/">https://www.trucost.com/publication/natural-capital-risk-top-100-externalities-business/</a>

## 武田薬品工業のスコープ3排出量算定方法

スコープ3排出源	算定状況	排出量算定方法
1) 購入した製品・サービス	重要であり算定済み	タケダのサプライヤーへの支出額（セクターごと）に Truecost 社の環境を含めたインプット / アウトプット (EEI-O) モデルから求めたセクター / サプライヤーの排出原単位を乗じ、サプライチェーンの原材料の採取を含む全段階の GHG 排出量を算出。燃料およびエネルギー関連活動は、燃料の採掘と送配電ロスに関連する排出のみを含む。
2) 資本財	重要であり算定済み	
3) 燃料及びエネルギー関連活動	重要であり算定済み	
4) 輸送、配送（上流）	重要であり算定済み	
5) 事業から出る廃棄物	重要であり算定済み	排出量はタケダの廃棄物データと英国環境・食料・農村地域省 (Defra) の排出係数 (2018) (UK Government GHG Conversion Factors for Company Reporting) を用いて算出。
6) 出張	重要であり算定済み	タケダの出張手配システムから取得した交通手段別の支出データに Truecost 社の EEI-O モデルによる交通手段ごとの排出係数を乗じて算出。
7) 通勤	重要であり算定済み	タケダの国別従業員数を用い、OECD が発表した各国の通勤時間の平均値および通勤形態と距離に関する公表データに基づき、従業員の通勤による GHG 排出量を算出。
8) リース資産（上流）	重要であり算定済み	タケダの賃貸オフィスの面積のデータを用い、エネルギー消費源別の平均値（米国エネルギー情報局のデータ）をあてはめ、各オフィスについてエネルギー源別の総使用量を推定。リース車の燃料使用による排出も、本カテゴリーに含まれる。IEAの国別の電力グリッド係数と、Defra (2018) UK Government GHG Conversion Factors for Company Reporting の燃料排出係数を用いた。
9) 輸送、配送（下流）	重要でなく算定していない	該当なし <sup>1</sup>
10) 販売した製品の加工	重要であり算定済み	排出量は、販売した製品の加工に用いられた電気・蒸気（販売した各製品の1単位の加工に必要なエネルギーに基づいて推定）に IEA の国別電力グリッド係数と日本の地球温暖化対策推進法に示される蒸気の排出係数を乗じて算出。
11) 販売した製品の使用	重要でなく算定していない	該当なし
12) 販売した製品の廃棄	重要であり算定済み	包装材の支出額データを用い、金属取引所と B2B プラットフォームから得た材料（例：プラスチック、金属、紙）の平均価格に基づき、包装材の重量を推定。世界銀行が発表している世界の廃棄物の処理率と廃棄率、Defra (2018) (UK Government GHG Conversion Factors for Company Reporting) の排出係数を用いた。
13) リース資産（下流）	重要でなく算定していない	該当なし
14) フランチャイズ	重要でなく算定していない	該当なし
15) 投資	重要であり算定済み	投資先 <sup>*3</sup> のスコープ1排出とスコープ2の排出の合計 <sup>*2</sup> にタケダの保有比率（%）を乗じて算出。



<sup>1</sup> 重要性の再評価に基づきます。本カテゴリーの評価は、今後変更する可能性があります。

<sup>2</sup> 投資先の GHG 排出量は、地球温暖化対策推進法に基づく公表値（2015年度の調整後排出量）に当社の保有比率を乗じて算定しています。

<sup>3</sup> 発行済み株式総数の5%超を TPC が保有している銘柄を算定対象としています。



## 環境・健康・安全パフォーマンスデータ

インジケータまたは指標	単位	タケダの事業 (2018年度)	KPMG あずさサステナビリティによる保証	シャイアーの事業 (2019年1月～ 2019年3月)	Apex Companies LLC による保証	合計 (2018年度)
エネルギー総使用量	テラジュール (TJ)	7,469 <sup>1</sup> 	X	957	X	8,425
スコープ 1 GHG 排出量	トン	157,958 <sup>2</sup>	X	37,100 <sup>3</sup>	X	195,058
スコープ 2 GHG 排出量 マーケットベース	トン	163,883 <sup>4</sup>	X	24,500 <sup>5</sup>	X	188,333
スコープ 2 GHG 排出量 ロケーションベース	トン	204,125 <sup>6</sup>		29,500 <sup>7</sup>	X	233,625
スコープ 3 GHG 排出量	トン	2,224,643	X	425,700 <sup>8</sup>		2,654,343
淡水使用量	千 m <sup>3</sup>	4,938 <sup>9</sup>	X	1,082	X	6,020
化学的酸素要求量 (COD) 負荷量	トン	19 <sup>10</sup> 	X	—		
窒素酸化物 (NOx) 排出量	トン	148	X	11 <sup>11</sup>	X	159
硫黄酸化物 (SOx) 排出量	トン	3	X	<1 <sup>11</sup>	X	<4
揮発性有機化合物 (VOC) 排出量	トン	104.8	X	—		
ばいじん排出量	トン	3				
廃棄物総発生量	トン	36,588	X	7,449	X	44,355
指定廃棄物発生量	トン	25,922 <sup>12</sup>		2,553	X	28,521
非指定廃棄物発生量	トン	10,666 <sup>13</sup>		4,896	X	15,934
廃棄物のリサイクル率	百分率	83%		64%	X	78%
労働災害度数率	100万延実労働時間あたり	2.69	X	7.38	X	3.48
休業災害度数率	100万延実労働時間あたり	0.76	X	1.00	X	0.80

## タケダの事業の集計範囲：

- エネルギー総使用量、スコープ 1 およびスコープ 2 のマーケットベースおよびロケーションベースの GHG 排出量については、タケダの全ての生産事業所・研究所（武田薬品は本社、営業所などを含む）を集計範囲とします。シャイアーの買収による寄与は含みません。
- その他の環境パフォーマンス指標は、タケダの全ての生産事業所・研究所を集計範囲とします。営業所およびシャイアーの買収による寄与は含みません。
- 安全パフォーマンス指標は、タケダの全ての生産事業所、研究所および営業所を集計範囲とし、これには従業員の約 95% が含まれます。シャイアーの買収による寄与は含みません。

## 環境・健康・安全パフォーマンスデータの注釈

1. 購入電力由来のエネルギーは、「エネルギー使用の合理化に関する法律」に示される変換係数を用いて一次エネルギー量に換算しています。
2. 化石燃料の燃焼によるスコープ1排出量は、「エネルギー使用の合理化に関する法律」に示される排出係数を用いて算出しています。
3. 化石燃料の燃焼によるスコープ1排出量は、GHSプロコルの「セクター横断ツール - 固定燃焼 (2014年4月)」に示される排出係数を用いて算出しています。
4. マーケットベースのスコープ2排出量は、日本については各電気事業者ごとの2005年度係数、海外についてはIEAが公表している排出係数を用いて算出しています。
5. マーケットベースのスコープ2排出量は、米国の事業については米国環境保護庁の「排出・発電情報総合データベース(EGRID)2016年版」、欧州の事業については欧州発電  
電源証明発行機関連盟  
(ASSOCIATION OF ISSUING BODIES, AIB)の「EUROPEAN RESIDUAL MIXES 2017」、その他の地域についてはIEAが公表している排出係数を用いて算出しています。
6. ロケーションベースのスコープ2排出量は、IEAが公表している各国の排出係数を用いて算出しています。
7. ロケーションベースのスコープ2排出量は、米国の事業については米国環境保護庁の「排出・発電情報総合データベース(EGRID)2016年版」、その他の地域についてはIEA  
が公表している排出係数を用いて算出しています。
8. 2019年1月~2019年3月のスコープ3排出量は、2018年のスコープ3排出量の計算結果に基づいて推定しています。
9. 水使用量のデータには、間接冷却水を含みません。
10. COD負荷量は、公共用水域への排水を対象として算出しています。
11. NOxとSOxの排出量は、EPAが公表した“COMPILATION OF AIR POLLUTANT EMISSION FACTORS, AP-42, FIFTH EDITION, VOLUME I: STATIONARY POINT AND AREA  
SOURCES”の燃料使用量と排出係数に基づいて算出しています。
12. 日本国内の事業により生じる廃棄物のうち、産業廃棄物に分類される廃棄物は、指定廃棄物の合計に含めています。
13. 日本国内の事業により生じる廃棄物のうち、一般廃棄物に分類される廃棄物は、非指定廃棄物に含めています。



## 国連グローバル・コンパクト アドバンストレベルCOP対照表

10原則を戦略と事業活動に導入する	
国連グローバル・コンパクトの原則	該当ページへのリンク
基準1： COPは、業務機能および事業ユニットへの主流化について説明している	<a href="#">APPROACH</a> <a href="#">CEOメッセージ</a> <a href="#">Corporate Philosophy</a> <a href="#">Global Scale and Scope — タケダの戦略ロードマップ</a> <a href="#">ガバナンス</a>
基準2： COPは、バリューチェーンの展開について説明している	ビジネス <a href="#">品質管理 — 品質戦略</a> <a href="#">医療倫理 — 製品の偽造防止策</a> <a href="#">サプライチェーン管理</a>  環 境 <a href="#">気候変動 — 気候変動抑制に向けたパートナーとの連携</a>
確固たる人権管理ポリシーと手順	
国連グローバル・コンパクトの原則	該当ページへのリンク
基準3： COPは、人権分野における確固たる取り組み、戦略またはポリシーについて説明している	<a href="#">アプローチ</a> <a href="#">Materiality</a>  ビジネス <a href="#">サプライチェーン・マネジメント — サプライヤー行動規範、倫理的調達とサプライヤーリスク管理ガバナンス</a>
基準4： COPは、人権原則を統合するための有効な管理システムについて説明している	<a href="#">アプローチ</a> <a href="#">ガバナンス</a>  ビジネス <a href="#">サプライチェーン・マネジメント — サプライチェーンにおける人権</a>
基準5： COPは、人権の統合に関する有効な監視・評価の仕組みについて説明している	ビジネス <a href="#">サプライチェーン・マネジメント — 倫理的調達とサプライヤーリスク管理ガバナンス</a> — <a href="#">倫理的調達とサプライヤーリスク管理に関するKPIs、サプライヤーのデューデリジェンスとサステナビリティ・エンゲージメント、サプライヤーのサステナビリティに関するKPIs (EcoVadis)</a>
確固たる労働管理ポリシーと手順	
国連グローバル・コンパクトの原則	該当ページへのリンク
基準6： COPは、労働分野における確固たる取り組み、戦略またはポリシーについて説明している	職 場 <a href="#">A Brighter Future Through a Better Workplace — Overview</a> <a href="#">Diversity and Inclusion</a> <a href="#">労働安全衛生</a>  ビジネス <a href="#">サプライチェーン・マネジメント — サプライヤー行動規範、企業連携: PSCI</a>
基準7： COPは、労働原則を統合するための有効な管理システムについて説明している	職 場 労働安全衛生 — <a href="#">Safe Takeda、製造安全イニシアティブ</a> ビジネス <a href="#">Ethics and Compliance</a>
基準8： COPは、労働原則の統合に関する有効な監視・評価の仕組みについて説明している	職 場 <a href="#">労働安全衛生 — Safe Takeda</a>  ビジネス <a href="#">サプライチェーン・マネジメント — 倫理的調達とサプライヤーリスク管理、倫理的調達とサプライヤーリスク管理に関するKPIs、サプライヤーのサステナビリティに関するKPIs (EcoVadis)</a>

## 国連グローバル・コンパクト(続き)

確固たる環境管理ポリシーと手順	
国連グローバル・コンパクトの原則	該当ページへのリンク
<p>基準9： COPは、環境ステewardシップ分野における確固たる取り組み、戦略またはポリシーについて説明している</p>	<p>環 境 <a href="#">Overview</a></p> <p>環境マネジメント — <a href="#">環境保全に対する投資額</a>、<a href="#">環境により優しい働き方</a> <a href="#">気候変動 — 戦略と業績</a></p> <p>ビジネス <a href="#">サプライチェーン・マネジメント — サプライヤー行動規範</a></p>
<p>基準10： COPは、環境原則を統合するための有効な管理システムについて説明している</p>	<p>環 境</p> <p>環 境マネジメント — <a href="#">目標と進捗状況</a> — <a href="#">環境削減目標</a> <a href="#">気候変動 — ガバナンス</a>、<a href="#">気候リスクへの対応</a>、<a href="#">タケダの事業活動に伴う温室効果ガス排出の管理</a>、<a href="#">気候変動抑制に向けたパートナーとの連携</a></p>
<p>基準11： COPは、環境ステewardシップに関する有効な監視・評価の仕組みについて説明している</p>	<p>環 境</p> <p>環 境マネジメント — <a href="#">EHSに関する監査体制</a> <a href="#">温暖効果ガス排出以外の環境負荷</a></p> <p>ビジネス <a href="#">サプライチェーン・マネジメント — サプライヤーのデューディリジェンスとサステナビリティ・エンゲージメント</a>、<a href="#">サプライヤーのサステナビリティに関するKPIs (EcoVadis)</a></p>
確固たる腐敗防止管理ポリシーと手順	
国連グローバル・コンパクトの原則	該当ページへのリンク
<p>基準12： COPは腐敗防止分野における確固たる取り組み、戦略またはポリシーについて説明している</p>	<p>ビジネス <a href="#">Ethics and Compliance</a> <a href="#">医療倫理</a> <a href="#">サプライチェーン・マネジメント — サプライヤー行動規範</a></p> <p>健 康 <a href="#">医薬品アクセス — 革新的なパートナーシップの枠組み：Patient Journey</a></p>
<p>基準13： COPは、腐敗防止原則を統合するための有効な管理システムについて説明している</p>	<p>ビジネス <a href="#">Ethics and Compliance</a> <a href="#">医療倫理</a> <a href="#">サプライチェーン・マネジメント — サプライヤーのデューディリジェンスとサステナビリティ・エンゲージメント</a></p>
<p>基準14： COPは、腐敗防止の統合に関する有効な監視・評価の仕組みについて説明している</p>	<p>ビジネス <a href="#">サプライチェーン・マネジメント — サプライヤーのデューディリジェンスとサステナビリティ・エンゲージメント</a>、<a href="#">サプライヤーのサステナビリティに関するKPIs (EcoVadis)</a></p>

## 国連グローバル・コンパクト(続き)

国連のより広範な目標および課題を支援する行動を取る	
国連グローバル・コンパクトの原則	該当ページへのリンク
基準15： COPは、国連の目標および課題における中核事業の貢献について説明している	<p>アプローチ <a href="#">Our Approach to Sustainable Value — ESGに取り組み持続可能な価値を創出するには</a> <a href="#">Materiality</a></p> <p>健康 <a href="#">(全体)</a></p> <p>職場 <a href="#">Diversity and Inclusion</a> <a href="#">労働安全衛生</a></p> <p>環境 <a href="#">気候変動</a> <a href="#">温暖効果ガス排出以外の環境負荷</a></p> <p>ビジネス <a href="#">Ethics and Compliance</a></p>
基準16： COPは、戦略的な社会投資および慈善活動について説明している	<p>アプローチ <a href="#">Our Approach to Sustainable Value</a></p> <p>健康 <a href="#">医薬品アクセス</a> <a href="#">グローバルCSRプログラムとパートナーシップ</a></p>
基準17： COPは、戦略的な社会投資および慈善活動について説明している	<p>アプローチ <a href="#">Our Approach to Sustainable Value</a></p> <p>健康 <a href="#">グローバルCSRプログラム&amp;パートナーシップ</a></p>
基準18： COPは、パートナーシップおよび集団行動について説明している	<p>アプローチ <a href="#">Strategic Engagement</a></p> <p>健康 <a href="#">グローバルCSRプログラムとパートナーシップ</a></p>
企業サステナビリティに関するガバナンスおよびリーダーシップ	
国連グローバル・コンパクトの原則	該当ページへのリンク
基準19： COPは、最高経営責任者の取り組みとリーダーシップについて説明している	<p>アプローチ <a href="#">CEOメッセージ</a></p>
基準20： COPは、取締役会の採択と監督について説明している	<p>アプローチ <a href="#">Global Scale and Scope — タケダの戦略ロードマップ</a> <a href="#">ガバナンス</a></p> <p>ビジネス <a href="#">Corporate Governance</a></p>
基準21： COPは、ステークホルダーの関与について説明している	<p>APPROACH <a href="#">Evaluation of Social Value — 方法</a> <a href="#">Materiality</a> <a href="#">Strategic Engagement</a></p>



## GRIスタンダード対照表

開示事項 番 号	開示事項の内容	2019 掲載ページ/対応策
GRI 102: 一般開示事項		
組織のプロフィール		
102-1	組織の名称	武田薬品工業株式会社
102-2	活動、ブランド、製品、サービス	アプローチ タケダの製品とブランド 2019年度有価証券報告書 p.8~18
102-3	本社の所在地	日本・東京
102-4	事業所の所在地	アプローチ Global Scale and Scope 2019年度有価証券報告書 p.8~11
102-5	所有形態および法人格	2019年度有価証券報告書 p.137
102-6	参入市場	タケダは世界約80カ国にプレゼンスを有し、 日本と米国においてリーディングカンパニーとしての地位を築いています。
102-7	組織の規模	アプローチ Global Scale and Scope 2019年度有価証券報告書 p.2~12
102-8	従業員およびその他の 労働者に関する情報	アプローチ Global Scale and Scope 従業員 グローバル・タレント・マネジメント 2019年度有価証券報告書 p.12
102-9	サプライチェーン	ビジネス サプライチェーン・マネジメント
102-10	組織およびそのサプライチェーンに 関する重大な変化	2019年度有価証券報告書 p.13
102-11	予防原則または予防的アプローチ	タケダは予防原則に従っていませんが、包括的リスク管理計画を策定しています。
102-12	外部イニシアティブ	アプローチ Our Approach to Sustainable Value — 非債務情報の開示と透明性 Strategic Engagement  健 康 医薬品アクセス — 明確な目標を定めた持続可能なパートナーシップ  グロースルCSRプログラムとパートナーシップ  環 境 気候変動  ビジネス サプライチェーン・マネジメント — 企業連携: PSCI
102-13	団体の会員資格	欧州製薬団体連合会 (EFPIA)、Global Pharmaceutical Manufacturing Leadership Forum (GPMLF)、国際製薬団体連合会 (IFPMA)、国際製薬技術協会 (ISPE)、Parenteral Drug Association (PDA)、米国研究製薬工業協会 (PhRMA) および製薬業界サプライチェーンイニシアティブ (PSCI) など、各国のバイオ医薬品業界団体とともに活動しています。
戦 略		
102-14	上級意思決定者の声明	アプローチ CEOメッセージ
倫理と誠実性		
102-16	価値観、理念、行動基準・規範	アプローチ Corporate Philosophy  ビジネス Ethics and Compliance

## GRIスタンダード対照表 (続き)

開示事項 番 号	開示事項の内容	2019 掲載ページ/対応策
102-17	倫理に関する助言および懸念のための制度	ビジネス Ethics and Compliance 世界中の全ての従業員が24時間、オンラインまたは電話で利用できる、18カ国の言語に対応可能なタケダエシックスラインを整備しています。タケダの従業員はこのエシックスラインを通じて質問したり、懸念を相談したりすることができます。 タケダの行動規範 – P. 36-37
<b>ガバナンス</b>		
102-18	ガバナンス構造	ビジネス コーポレートガバナンス
102-19	権限移譲	ビジネス コーポレートガバナンス
102-21	経済、環境、社会項目に関する ステークホルダーとの協議	APPROACH Strategic Engagement
102-22	最高ガバナンス機関およびその委員会の構成	ビジネス コーポレートガバナンス Executive Leadership: <a href="https://www.takeda.com/who-we-are/company-information/executive-leadership/">https://www.takeda.com/who-we-are/company-information/executive-leadership/</a> 有価証券報告書 p.98, 103~110
102-23	最高ガバナンス機関の議長	Executive Leadership: <a href="https://www.takeda.com/who-we-are/company-information/executive-leadership/">https://www.takeda.com/who-we-are/company-information/executive-leadership/</a> 有価証券報告書 p.98, 103
102-24	最高ガバナンス機関の指名と選出	有価証券報告書 p.98
102-25	利益相反	有価証券報告書 p.113z
102-26	目的、価値観、戦略の設定における 最高ガバナンス機関の役割	APPROACH Governance
102-28	最高ガバナンス機関のパフォーマンスの評価	有価証券報告書 p.101
102-29	経済、環境、社会へのインパクトの 特定とマネジメント	APPROACH Governance
102-30	リスクマネジメント・プロセスの有効性	有価証券報告書 p.98
102-31	経済、環 境、社会項目のレビュー	有価証券報告書 p.98
102-35	報酬方針	ビジネス 役員報酬、有価証券報告書 P.118
102-36	報酬の決定プロセス	有価証券報告書 p.116~118
102-37	報酬に関するステークホルダーの関与	有価証券報告書 p.116~118
<b>ステークホルダー・エンゲージメント</b>		
102-40	ステークホルダー・グループのリスト	アプローチ Our Approach to Sustainable Value Strategic Engagement
102-41	団体交渉協定	有価証券報告書 p.12
102-42	ステークホルダーの特定および選定	アプローチ Strategic Engagement
102-43	ステークホルダー・エンゲージメントへのアプ ローチ方法	アプローチ Strategic Engagement
102-44	提起された重要な項目および懸念	アプローチ Materiality

## GRIスタンダード対照表 (続き)

開示事項 番号	開示事項の内容	2019 掲載ページ/対応策
<b>報告実務</b>		
102-45	連結財務諸表の対象になっている事業体	有価証券報告書 p.8~11
102-46	報告書の内容および項目の該当範囲の確定	このレポートについて
102-47	マテリアルな項目のリスト	アプローチ Materiality
102-48	情報の再記述	CO <sub>2</sub> 排出量、淡水使用量/排出量、廃棄物発生量・排出量・最終処分量の推移、NOx/ SOx排出量は、株式譲渡した子会社を除いて過去のデータを再計算しています。
102-49	報告における変更	このレポートについて
102-50	報告期間	報告期間は、2018年度（2018年4月1日から2019年3月31日）です。
102-51	前回発行した報告書の日付	発行時期：2018年10月
102-52	報告サイクル	年1回
102-53	報告書に関する質問の窓口	<a href="mailto:sustainablevalue@takeda.com">sustainablevalue@takeda.com</a>
102-54	GRIスタンダードに準拠した 報告であることの主張	中核オプション
102-55	GRI内容索引	APPENDIX GRIスタンダード対照表
102-56	外部保証	APPENDIX 第三者保証
<b>GRI 200 : 経済</b>		
<b>GRI 203 : 間接的な経済インパクト</b>		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	健康 医薬品アクセス
103-2	マネジメント手法とその要素	健康 医薬品アクセス
103-3	マネジメント手法の評価	健康 医薬品アクセス
203-1	インフラ投資および支援サービス	健康 医薬品アクセス
203-2	著しい間接的な経済的インパクト	健康 医薬品アクセス、グローバルCSRプログラム&パートナーシップ
<b>GRI 205 : 腐敗防止</b>		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	ビジネス Ethics and Compliance
103-2	マネジメント手法とその要素	ビジネス Ethics and Compliance
103-3	マネジメント手法の評価	ビジネス Ethics and Compliance
205-2	腐敗防止の方針や手順に関する コミュニケーションと研修	ビジネス Ethics and Compliance
<b>GRI 300 : 環境</b>		
<b>GRI 302 : エネルギー</b>		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	環境 環境マネジメント — 目標と進捗状況 気候変動



## GRIスタンダード対照表 (続き)

開示事項番号	開示事項の内容	2019 掲載ページ/対応策			
103-2	マネジメント手法とその要素	環 境 環 境マネジメント — 目標と進捗状況 気候変動			
103-3	マネジメント手法の評価	環 境 環境マネジメント — 目標と進捗状況 気候変動			
302-1	組織内のエネルギー消費量		再生可能エネルギーによる発電量 (Mwh)	再生可能エネルギー以外の発電方式による発電量 (Mwh)	合計 (Mwh)
		総エネルギー消費量	42,887	1,320,764	1,363,651
Shire plc. を除く					
<b>GRI 305 : 大気への排出</b>					
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	環 境 気候変動			
103-2	マネジメント手法とその要素	環 境 気候変動			
103-3	マネジメント手法の評価	環 境 気候変動			
305-1	直接的な温室効果ガス (GHG) 排出量 (スコープ 1)	環 境 気候変動 — タケダの事業活動に伴う温室効果ガス排出の管理 — 2018 年度の CO <sub>2</sub> 排出の要約			
305-2	間接的な温室効果ガス (GHG) 排出量 (スコープ 2)	環 境 気候変動 — タケダの事業活動に伴う温室効果ガス排出の管理 — 2018 年度の CO <sub>2</sub> 排出の要約			
305-3	その他の間接的な温室効果ガス (GHG) 排出量 (スコープ 3)	環 境 気候変動 — タケダの事業活動に伴う温室効果ガス排出の管理 — 2018 年度の 2 の要約、気候変動抑制に向けたパートナーとの連携 — 2018 年度の タケダのスコープ 3 排出量			
305-5	温室効果ガス (GHG) 排出量の削減	環 境 気候変動 — 戦略と業績 — CO <sub>2</sub> 排出量			
<b>GRI 307 : 環 境コンプライアンス</b>					
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	環 境 環境マネジメント			
103-2	マネジメント手法とその要素	環 境 環境マネジメント			
103-3	マネジメント手法の評価	環 境 環境マネジメント			
307-1	環境法規制の違反	環境法規制の違反はありません。			
<b>GRI 308 : サプライヤーの環 境面のアセスメント</b>					
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	ビジネス サプライチェーン・マネジメント			
103-2	マネジメント手法とその要素	ビジネス サプライチェーン・マネジメント			
103-3	マネジメント手法の評価	ビジネス サプライチェーン・マネジメント			

## GRIスタンダード対照表 (続き)

開示事項番号	開示事項の内容	2019 掲載ページ/対応策
308-2	サプライチェーンにおけるマイナスの環境インパクトと実施した指標	ビジネス サプライチェーン・マネジメント — サプライヤーのデューデリジェンスとサステナビリティ・エンゲージメント
<b>GRI 400 : 社会</b>		
<b>GRI 403 : 労働安全衛生</b>		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	職 場 労働安全衛生
103-2	マネジメント手法とその要素	職 場 労働安全衛生
103-3	マネジメント手法の評価	職 場 労働安全衛生
403-1	正式な労使合同安全衛生委員会への労働者代表の参加	職 場 労働安全衛生 — Safe Takeda
403-2	傷害の種類、業務上傷害・業務上疾病・休業日数・欠勤および業務上の死亡者数	職 場 労働安全衛生 — Safe Takeda、製造安全イニシアティブ
403-3	疾病の発症率あるいはリスクが高い業務に従事している労働者	職 場 労働安全衛生 — Safe Takeda、製造安全イニシアティブ
403-4	労働組合との正式協定に含まれている安全衛生条項	プロセスの作成や改善に際しては、従業員、従業員の代表および必要に応じてパートナーが参加し、協議しています。
403-5	労働安全衛生に関する労働者研修	職 場 労働安全衛生 — Safe Takeda、製造安全イニシアティブ
403-7	ビジネス上の関係で直接結びついた労働安全衛生の影響の防止と緩和	職 場 労働安全衛生 — Safe Takeda、製造安全イニシアティブ
403-9	労働関連の傷害	職 場 労働安全衛生 — Safe Takeda — Safe Takedaの実績
<b>GRI 404 : 研修と教育</b>		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	職 場 グローバル・タレント・マネジメント
103-2	マネジメント手法とその要素	職 場 グローバル・タレント・マネジメント
103-3	マネジメント手法の評価	職 場 グローバル・タレント・マネジメント
404-2	従業員スキル向上プログラムおよび移行支援プログラム	職 場 タケダの従業員の92%が定期的な勤務評定を受けています。
<b>GRI 408 : 児童労働</b>		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	ビジネス サプライチェーン・マネジメント — サプライチェーンにおける人権
103-2	マネジメント手法とその要素	ビジネス サプライチェーン・マネジメント — サプライチェーンにおける人権
103-3	マネジメント手法の評価	ビジネス サプライチェーン・マネジメント — サプライチェーンにおける人権
408-1	児童労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	サプライチェーンにおける人権侵害の可能性を認めた市場において、評価の取り組みを強化しています。これらの評価では、2018年度は、強制労働、児童労働、人身売買、隷属、服従などの現代の奴隷労働のリスクは認められませんでした。

## GRIスタンダード対照表 (続き)

開示事項番号	開示事項の内容	2019 掲載ページ/対応策
<b>GRI 409 : 強制労働</b>		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	ビジネス サプライチェーン・マネジメント – サプライチェーンにおける人権
103-2	マネジメント手法とその要素	ビジネス サプライチェーン・マネジメント – サプライチェーンにおける人権
103-3	マネジメント手法の評価	ビジネス サプライチェーン・マネジメント – サプライチェーンにおける人権
409-1	強制労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	サプライチェーンにおける人権侵害の可能性を認めた市場において、評価の取り組みを強化しています。これらの評価では、2018年度は、強制労働、児童労働、人身売買、隷属、服従などの現代の奴隷労働のリスクは認められませんでした。
<b>GRI 412 : 人権アセスメント</b>		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	ビジネス サプライチェーン・マネジメント – サプライチェーンにおける人権
103-2	マネジメント手法とその要素	ビジネス サプライチェーン・マネジメント – サプライチェーンにおける人権
103-3	マネジメント手法の評価	ビジネス サプライチェーン・マネジメント – サプライチェーンにおける人権
412-3	人権条項を含むもしくは人権スクリーニングを受けた重要な投資協定および契約	ビジネス サプライチェーン・マネジメント – 倫理的調達とサプライヤーリスク管理に関するKPI、サプライヤー行動規範
<b>GRI 413 : 地域コミュニティ</b>		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	アプローチ Our Approach to Sustainable Value
103-2	マネジメント手法とその要素	アプローチ Our Approach to Sustainable Value
103-3	マネジメント手法の評価	アプローチ Our Approach to Sustainable Value
413-1	地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラムを実施した事業所	APPENDIX 被災地支援
<b>GRI 414 : サプライヤーの社会面のアセスメント</b>		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	ビジネス サプライチェーン・マネジメント
103-2	マネジメント手法とその要素	ビジネス サプライチェーン・マネジメント
103-3	マネジメント手法の評価	ビジネス サプライチェーン・マネジメント
414-1	社会的基準により選定した新規サプライヤー	ビジネス サプライチェーン・マネジメント – サプライヤー行動規範、サプライヤーのデューデリジェンスとサステナビリティ・エンゲージメント
<b>GRI 416 : 顧客の安全衛生</b>		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	ビジネス 品質管理 – 製品の品質と安全性
103-2	マネジメント手法とその要素	ビジネス 品質管理 – 製品の品質と安全性
103-3	マネジメント手法の評価	ビジネス 品質管理 – 製品の品質と安全性



## GRIスタンダード対照表 (続き)

開示事項 番 号	開示事項の内容	2019 掲載ページ/対応策
416-1	製品およびサービスのカテゴリーに対する 安全衛生インパクトの評価	ビジネス 品質管理 — 製品の品質と安全性
<b>GRI 419 : 社会経済面のコンプライアンス</b>		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	ビジネス Ethics and Compliance 医療倫理
103-2	マネジメント手法とその要素	ビジネス Ethics and Compliance 医療倫理
103-3	マネジメント手法の評価	ビジネス Ethics and Compliance 医療倫理
419-1	社会経済分野の法規制違反	違反による罰金や罰金以外の制裁措置はありませんでした。

## 第三者保証




### 独立した第三者保証報告書

2020年3月30日

武田薬品工業株式会社  
代表取締役 社長 CEO クリストフ・ウェバー 殿

KPMG あずさサステナビリティ株式会社  
東京都千代田区大手町1丁目9番5号

代表取締役

衛藤 和彦 

当社は、武田薬品工業株式会社(以下、「会社」という。)からの委嘱に基づき、会社が作成したサステナブルバリューレポート2019(以下、「レポート」という。)に記載されている2018年4月1日から2019年3月31日までを対象とした  の付されている環境・社会パフォーマンス指標(以下、「指標」という。)に対して限定的保証業務を実施した。

#### 会社の責任

会社が定めた指標の算定・報告基準(以下、「会社の定める基準」という。レポートに記載。)に従って指標を算定し、表示する責任は会社にある。

#### 当社の責任

当社の責任は、限定的保証業務を実施し、実施した手続に基づいて結論を表明することにある。当社は、国際監査・保証基準審議会の国際保証業務基準 (ISAE) 3000「過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務」及び ISAE3410「温室効果ガス情報に対する保証業務」に準拠して限定的保証業務を実施した。

本保証業務は限定的保証業務であり、主としてレポート上の開示情報の作成に責任を有するもの等に対する質問、分析的手続等の保証手続を通じて実施され、合理的保証業務における手続と比べて、その種類は異なり、実施の程度は狭く、合理的保証業務ほどには高い水準の保証を与えるものではない。当社の実施した保証手続には以下の手続が含まれる。

- レポートの作成・開示方針についての質問及び会社の定める基準の検討
- 指標に関する算定方法及び内部統制の整備状況に関する質問
- 集計データに対する分析的手続の実施
- 会社の定める基準に従って指標が把握、集計、開示されているかについて、試査により入手した証拠との照合並びに再計算の実施
- リスク分析に基づき選定した Takeda Ireland Limited の Grange Castle 工場における現地往査
- 指標の表示の妥当性に関する検討

#### 結論

上述の保証手続の結果、レポートに記載されている指標が、すべての重要な点において、会社の定める基準に従って算定され、表示されていないと認められる事項は発見されなかった。

#### 当社の独立性と品質管理

当社は、誠実性、客観性、職業的専門家としての能力と正当な注意、守秘義務及び職業的専門家としての行動に関する基本原則に基づく独立性及びその他の要件を含む、国際会計士倫理基準審議会の公表した「職業会計士の倫理規程」を遵守した。

当社は、国際品質管理基準第1号に準拠して、倫理要件、職業的専門家としての基準及び適用される法令及び規則の要件の遵守に関する文書化した方針と手続を含む、包括的な品質管理システムを維持している。

以上

## 第三者保証 (続き)

### INDEPENDENT ASSURANCE STATEMENT



#### Introduction and objectives of work

Apex Companies, LLC (Apex) was engaged to conduct an independent assurance of environmental, health and safety (EHS) data to be reported by Shire plc, now part of Takeda Pharmaceutical Company Ltd. for the first quarter of calendar year 2019 (January 1 through March 31, 2019). This Assurance Statement applies to the related information included within the scope of work described below.

#### Scope of work

The scope of our work was limited to assurance over the following EHS Data included within Takeda's Annual Sustainability Report ('the Report') for the first quarter of calendar year of 2019 (the 'Selected Information'):

- Air Emissions (NOx and SOx emissions from stationary equipment);
- Energy (consumption and renewable energy);
- Greenhouse Gas Emissions (Scope 1 emissions and Scope 2 emissions);
- Water consumption;
- Waste generation and disposition;
- Reportable Spills and Releases; and
- Health & Safety data.

#### Reporting Criteria

The Selected Information needs to be read and understood together with the Global Reporting Initiative (GRI) Standards and the World Resources Institute (WRI)/World Business Council for Sustainable Development (WBCSD) Greenhouse Gas (GHG) Protocol Corporate Accounting and Reporting Standard used by Shire as the basis of their reporting.

#### Limitations and Exclusions

Excluded from the scope of our work is any assurance of information relating to:

- Data outside the defined assurance period, the first quarter of calendar year of 2019.
- Any financial data (e.g., revenues) previously audited by an external third party.

#### Responsibilities

The preparation and presentation of the Selected Information in the Report are the sole responsibility of the management of Shire.

Apex was not involved in the determination of the Selected Information. Our responsibilities were to:

- obtain limited assurance about whether the Selected Information has been prepared in accordance with the Reporting Criteria;
- form an independent conclusion based on the assurance procedures performed and evidence obtained; and
- report our conclusions to Shire's management.



## 第三者保証 (続き)

Page 2

### Assessment Standard

We performed our work in accordance with International Standard on Assurance Engagements (ISAE) 3000 Revised, Assurance Engagements Other than Audits or Reviews of Historical Financial Information (effective for assurance reports dated on or after December 15, 2015), issued by the International Auditing and Assurance Standards Board.

### Summary of work performed

As part of Apex's limited assurance, Apex undertook the following activities:

1. Assessing the appropriateness of the Reporting Criteria for the Selected Information;
2. Conducting interviews with relevant Shire personnel responsible for collecting and reporting EHS performance data. These interviews included discussions with staff members responsible for contributing data within the scope of this assurance;
3. Reviewing the data collection and consolidation processes used to compile Selected Information, including assessing assumptions made, and the data scope and reporting boundaries;
4. Reviewing documentary evidence produced by Shire to support EHS data within the scope of this assurance;
5. Comparing a selection of the Selected Information to the corresponding source documentation;
6. Reviewing Shire data and information systems used for collection, aggregation, analysis and review of the Selected Information;
7. Assessing the disclosure and presentation of the Selected Information to ensure consistency with assured information; and
8. Conducting other verification activities including:
  - a. conducting remote review of data from manufacturing sites located in Lexington, Massachusetts, USA; Los Angeles, California, USA; and Lessines, Belgium;
  - b. reperforming a selection of aggregation calculations of the Selected Information;
  - c. reperforming greenhouse gas emissions conversions and calculations;
  - d. comparing the Selected Information to the prior year amounts taking into consideration changes in business activities, acquisitions and divestitures; and
  - e. evaluating the design of internal systems, processes and controls to collect and report the Selected Information.

### Conclusion

On the basis of our methodology and the activities described above:

- Nothing has come to our attention to indicate that the Selected Information is not fairly stated in all material respects;
- It is our opinion that Shire has established appropriate systems for the collection, aggregation and quantitative analysis of EHS data within the scope of this assurance.

A summary of the Selected Information within the scope of this assurance is attached.

### **Statement of Independence, Integrity and Competence**

Apex is an independent professional services company that specialises in environmental, health, safety and social accountability with over 30 years history. Its assurance team has extensive experience in conducting verification over environmental, social, ethical and health and safety information, systems and processes.

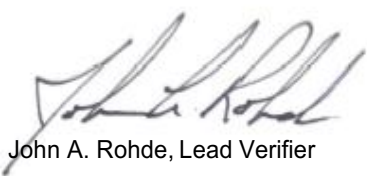
Apex has implemented a Code of Ethics across the business to maintain high ethical standards among staff in their day to day business activities. We are particularly vigilant in the prevention of conflicts of interest.

## 第三者保証 (続き)

Page 3

No member of the assurance team has a business relationship with Shire, its Directors or Managers beyond that required of this assignment. We have conducted this verification independently, and there has been no conflict of interest.

The verification team has extensive experience in conducting assurance over environmental, social, ethical and health and safety information, systems and processes, has over 20 years combined experience in this field and an excellent understanding of Apex's standard methodology for the verification of environmental, social, ethical and health and safety information, systems, processes and data.



John A. Rohde, Lead Verifier  
Practice Line Leader  
Sustainability and Climate Change Services  
Health, Safety and Environmental Services



Trevor A. Donaghu, Technical Reviewer  
Principal Sustainability Consultant  
Sustainability and Climate Change Services  
Health, Safety and Environmental Services



**Apex Companies, LLC**  
Lakewood, Colorado  
November 5, 2019

## 重要な注意事項

本注意事項において、「レポート (report)」とは、本レポートにおいて武田薬品工業株式会社 (以下、「武田薬品」) によって説明又は配布された本書類、口頭のプレゼンテーション、質疑応答及び書面又は口頭の資料を意味します。本レポート (それに関する口頭の説明及び質疑応答を含みます) は、いかなる法域においても、いかなる有価証券の購入、取得、申込み、交換、売却その他の処分の提案、案内若しくは勧誘又はいかなる投票若しくは承認の勧誘のいずれの一部を構成、表明又は形成するものではなく、またこれを行うことを意図しておりません。本レポートにより株式又は有価証券の募集を公に行うものではありません。米国 1933 年証券法に基づく登録又は登録免除の要件に従い行うものを除き、米国において有価証券の募集は行われません。本レポートは、(投資、取得、処分その他の取引の検討のためではなく) 情報提供のみを目的として受領者により使用されるという条件の下で (受領者に対して提供される追加情報と共に) 提供されております。当該制限を遵守しなかった場合には、適用のある証券法違反となる可能性がございます。

武田薬品が直接的に、又は間接的に投資している会社は別々の会社になります。本プレゼンテーションにおいて、「武田薬品」という用語は、武田薬品及びその子会社全般を参照するものとして便宜上使用されていることがあります。同様に、「当社 (we, us 及び our)」という用語は、子会社全般又はそこで勤務する者を参照していることもあり得ます。これらの用語は、特定の会社を明らかにすることが有益な目的を与えない場合に用いられることもあり得ます。

本レポートで言及されている武田薬品の製品名は、すべて、武田薬品もしくはその関係会社が保有しているか、または武田薬品もしくはその関係会社が使用許諾を受けている商標です。

### 将来に関する見通し情報

本レポート及び本レポートに関して配布された資料には、武田薬品の見積もり、予測、目標及び計画を含む当社の将来の事業、将来のポジション及び業績に関する将来見通し情報、理念又は見解が含まれています。将来見通し情報は、「目標にする (targets)」、「計画する (plans)」、「信じる (believes)」、「望む (hopes)」、「継続する (continues)」、「期待する (expects)」、「めざす (aims)」、「意図する (intends)」、「確実にする (ensures)」、「だろう (will)」、「かもしれない (may)」、「すべきであろう (should)」、「であろう (would)」、「することができた (could)」、「予想される (anticipates)」、「見込む (estimates)」、「予想する (projects)」などの用語若しくは同様の表現又はそれらの否定表現を含むことが多いですが、それに限られるものではありません。この書類における将来見通し情報は、この書類の作成日時点のみにおける、当社の見積もり及び前提に基づくものです。かかる将来見通し情報は、当社又は当社の役員による、将来の業績に関する保証を表すものではなく、既知及び未知のリスクと不確実性その他の要素を伴います。リスクと不確実性には、日本及び米国の一般的な経済条件を含む当社のグローバルな事業を取り巻く経済状況、競合製品の出現と開発、関連法規の変更、製品開発計画の成功又は失敗、規制当局による判断とその時期、金利及び為替の変動、市場で販売された製品又は候補製品の安全性又は有効性に関するクレーム又は懸念等、買収対象企業との PMI (買収後の統合活動) の時期及び影響、武田薬品の事業にとってのノン・コア資産を売却する能力及びかかる資産売却のタイミングが含まれますが、これらに限られません。これらにより、当社の実際の業績、経営結果、財務内容は、将来見通し情報において、明示又は暗示された将来の業績、経営結果、財務内容とは、大きく異なる可能性があります。当社の業績、経営結果又は財務状況に影響を与え得る

事項の詳細に関しては、米国証券取引委員会に提出した Form 20-F による最新の年次報告書の第 3 項重要事項 -D、リスクファクター” 及び他の報告書をご参照ください (<https://www.takeda.com/investors/reports/sec-filings/> 又は [www.sec.gov](http://www.sec.gov) において閲覧可能です)。武田薬品の将来の業績、経営結果又は財務状況は、将来見通し情報において明示又は暗示されたものと大きく異なることがあり得ます。本プレゼンテーションの受領者は、将来見通し情報に過度に依存するべきではありません。武田薬品は、法律や証券取引所の規則により要請される場合を除き、本プレゼンテーションに含まれる、又は当社が提示するいかなる将来見通し情報を更新する義務を負うものではありません。過去の実績は将来の経営結果の指針とはならず、また、本プレゼンテーションにおける武田薬品の経営結果は武田薬品の将来の経営結果を示すものではなく、また、その予測、予想又は見積もりではありません。

### 医療情報

本プレゼンテーションには、製品についての情報が含まれておりますが、これらの製品は、すべての国で発売されているものではありませんし、また国によって異なる商標、効能、用量等で販売されている場合もあります。ここに記載されている情報は、開発品を含むいかなる医療用医薬品の効能を勧誘、宣伝又は広告するものではありません。

### 財務情報

当社の財務諸表は、IFRS (国際会計基準) に基づき作成しております。

シャイアー社の財務諸表は米国会計基準に基づき作成されております。従いまして、両社の財務情報は直接的に比較検討可能なものではありません。

シャイアー社の買収は 2019 年 1 月 8 日に完了しており、当社の 2019 年 3 月 31 日までの事業年度における連結業績には、2019 年 1 月 8 日から 2019 年 3 月 31 日までのシャイアー社の業績が含まれています。なお、「旧武田薬品」ビジネスとの記載は、シャイアー社の買収前の当社のビジネスを意味し、「旧 Shire 社」ビジネスとの記載は、シャイアー社の買収により当社が取得したビジネスを意味しています。

本プレゼンテーションには、シャイアー社の買収が 2018 年 4 月 1 日に完了したとの前提に基づく試算が含まれています。当該試算は、米国証券取引委員会の定める Regulation S-X の第 11 条に基づき算出されたものではないことにご留意ください。当該試算は、説明の便宜のため提示するものであり、また、本プレゼンテーションの作成日までに当社が入手した情報に基づく一定の前提及び判断に基づくものであって、これらの前提及び判断は、シャイアー社の買収が実際に 2018 年 4 月 1 日に完了していたとしてもすべて当てはまるものではありません。さらに、当該試算は、シャイアー社の取得に直接には起因しない、又はシャイアー社の取得後に生じた、事業売却や取得対価配分 (PPA) 等の一定の取引及び事象も対象としています。従って、これらは、シャイアー社の買収が実際に 2018 年 4 月 1 日に完了していたとしても、当社の財務状況及び業績を正確に反映するものではありません。そのため、本プレゼンテーションに含まれる試算は、必要以上に依拠すべきものではありません。





武田薬品工業株式会社

武田グローバル本社

東京都中央区日本橋本町二丁目1番1号

〒103-8668

TEL:03-3278-2111(代表) Fax:03-3278-2000(代表)

© Copyright 2019 Takeda Pharmaceutical Company Limited. All rights reserved.